

---

# JD Edwards EnterpriseOne 内示調 整管理 9.0 製品ガイド

---

2008 年 12月

Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

## 商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

## ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アSEMBル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

## 保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

## 制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

## 危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

## 第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993-2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999-2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.  
Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.  
Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.  
This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.  
This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).  
This product includes cryptographic software written by Eric Young ([ey@cryptsoft.com](mailto:ey@cryptsoft.com)).  
This product includes software written by Tim Hudson ([tjh@cryptsoft.com](mailto:tjh@cryptsoft.com)). All rights reserved.  
This product includes the Sentry Spelling–Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

## Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.



# 目次

## はじめに

この PeopleBook について .....	xiii
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件.....	xiii
アプリケーションの基礎.....	xiii
最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード.....	xiv
最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ).....	xiv
ドキュメンテーションのダウンロード.....	xiv
追加情報.....	xiv
表記規則.....	xvi
表記規則.....	xvi
注意事項の表示.....	xvii
国、地域、業種の表記.....	xvii
通貨コード.....	xviii
ご意見、ご要望をお寄せください.....	xviii
製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xviii

## まえがき

JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理 – まえがき.....	xxi
JD Edwards EnterpriseOne製品.....	xxi
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎.....	xxi
この製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xxii

## 第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理 – はじめに.....	1
内示調整管理の概要.....	1
JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理のビジネス・プロセス.....	1
JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理の統合.....	3
JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理の導入.....	4
グローバル導入の手順.....	4
内示調整管理の導入手順.....	5

## 第 2 章

内示調整管理について.....	7
-----------------	---

EDIトランザクションおよびメッセージ.....	7
需要規則および管理.....	7
需要レコード.....	8
計画需要.....	8
予測.....	9
顧客別予測消化.....	9
需要展開.....	9
累計処理.....	9
出荷および計画スケジュール.....	10
確定需要.....	11
需要受注オーダー.....	11
カートン情報.....	11
ラベル処理.....	12
出荷の調整および確認.....	12
出荷レポート.....	12
通知.....	12
売上更新と入金.....	15
レポート.....	15

### 第 3 章

EDI需要情報の処理.....	17
内示調整管理のためのEDI情報について.....	17
EDI需要見出しレコードの作成.....	18
事前設定.....	18
見出しレコードの作成に使用するフォーム.....	19
見出しレコードの作成.....	19
EDI需要詳細情報の改訂.....	20
EDI需要詳細情報について.....	21
EDI需要詳細情報の改訂に使用するフォーム.....	21
品目出荷情報の入力.....	21
顧客の前回出荷と前回入荷に関する値の改訂.....	22
累計情報の改訂.....	23
出荷先情報の改訂.....	23
その他の情報の改訂.....	23
カテゴリ・コードの改訂.....	24
EDI情報の改訂.....	24
EDI内示調整管理詳細情報の改訂.....	24
EDI内示調整管理詳細情報について.....	24
EDI内示調整管理詳細情報の改訂に使用するフォーム.....	25

内示調整管理詳細情報の改訂.....	26
補足データ情報の改訂.....	27
梱包情報の改訂.....	27
EDI需要レコードの住所の改訂.....	28
EDI需要レコードの連絡先名の改訂.....	28
連絡先番号情報の改訂.....	28
EDI需要(受信)の編集/更新レポート(R47171)の実行.....	28
EDI需要(受信)の編集/更新レポート(R47171)の処理オプションの設定.....	29
EDI需要レコードの除去.....	31

## 第 4 章

<b>需要設定の処理.....</b>	<b>33</b>
需要レコードについて.....	33
需要規則について.....	34
内示調整管理の優先情報について.....	35
需要正味差異について.....	37
内示調整管理の有効化.....	38
内示調整管理の有効化について.....	38
内示調整管理の有効化に使用するフォーム.....	38
内示調整管理の需要規則の設定.....	38
需要規則の設定に使用するフォーム.....	38
需要規則(P40R20)の処理オプションの設定.....	38
需要規則の設定.....	39
需要の相互参照.....	42
EDI相互参照について.....	42
事前設定.....	43
需要タイプに対するEDIコードの相互参照に使用するフォーム.....	43
EDIコードの相互参照.....	43
内示調整管理ワークフローの設定.....	44
内示調整管理ワークフローについて.....	44
内示調整管理ワークフローの設定に使用するフォーム.....	44
ワークフローの設定.....	44
“需要正味差異ワークフローUBEの開始”(R40R1110)の実行.....	45
製品累計モデルの設定.....	45
製品累計モデルについて.....	45
製品累計モデルの設定に使用するフォーム.....	47
製品CUMモデルの設定.....	47
カートン累計モデルの設定.....	48
カートン累計モデルについて.....	49

事前設定.....	49
カートン累計モデルの設定に使用するフォーム.....	50
カートンCUMモデルの設定.....	50
品目相互参照の設定.....	50
品目相互参照について.....	51
事前設定.....	51
品目相互参照の設定に使用するフォーム.....	52
相互参照の管理.....	52

## 第 5 章

<b>手動で作成された需要見出しレコードの処理.....</b>	<b>55</b>
手動で作成された需要見出しレコードについて.....	55
需要見出しレコードの手動作成.....	55
事前設定.....	56
需要見出しレコードの手動作成に使用するフォーム.....	56
需要見出しの管理(P40R10)の処理オプションの設定.....	56
需要見出しレコードの手動作成.....	58
需要詳細レコードの改訂.....	60
需要詳細レコードについて.....	60
ラベル情報について.....	61
需要詳細レコードの改訂に使用するフォーム.....	61
需要詳細情報の追加.....	62
出荷明細の改訂.....	63
需要梱包情報の改訂.....	65
ラベル情報の送信.....	66
需要レコードの住所および連絡先情報の入力.....	67
需要レコードの住所および連絡先情報について.....	67
需要レコードの住所および連絡先情報の入力に使用するフォーム.....	68
需要住所情報の入力.....	68
需要連絡先情報の入力.....	69
需要連絡先電話番号情報の入力.....	69
内示調整管理の補足データベース情報の入力.....	69
内示調整管理の補足データベース情報の入力について.....	69
需要履歴レコードの確認.....	70
需要履歴レコードについて.....	70
需要履歴レコードの確認に使用するフォーム.....	70
需要履歴の確認.....	70
需要履歴レコードの除去.....	71
需要履歴除去について.....	71

需要履歴の除去.....	71
<b>第 6 章</b>	
<b>内示調整管理の累計情報の処理.....</b>	<b>73</b>
内示調整管理の累計情報について.....	73
累計レコードの改訂.....	74
累計レコードについて.....	74
累計レコードの改訂に使用するフォーム.....	74
累計レコードの見出し情報の入力.....	74
累計情報の改訂.....	75
累計履歴の確認.....	77
累計履歴について.....	77
累計履歴の確認に使用するフォーム.....	77
累計履歴レコードの確認.....	77
超過数量と不足数量の計算.....	78
CUMの管理(P40R12)の処理オプションの設定.....	78
CUMロールバックを使用した累計値のリセット.....	80
CUMロールバックについて.....	80
事前設定.....	81
CUMロールバックを使用した累計値のリセットに使用するフォーム.....	81
<b>第 7 章</b>	
<b>確定需要の処理.....</b>	<b>83</b>
確定需要について.....	83
出荷および計画スケジュールについて.....	83
標準梱包計算について.....	84
時間枠日付について.....	84
予測計画日付について.....	86
内示調整管理受注オーダーの作成.....	88
内示調整管理受注オーダーについて.....	88
需要スケジュールの作成(R40R010)の実行.....	89
需要スケジュールの作成(R40R010)の処理オプションの設定.....	89
需要展開の設定.....	91
需要展開について.....	91
需要展開テンプレートの作成.....	92
需要展開テンプレートについて.....	92
需要展開テンプレートの作成に使用するフォーム.....	92
テンプレートの作成.....	92

<b>第 8 章</b>	
<b>事前出荷通知の処理</b> .....	<b>95</b>
ASNについて.....	95
ASN情報の抽出について.....	96
正常に処理されたASNレコードの更新.....	98
ASN送信データの更新プログラムについて.....	98
EDI ASN送信データの更新プログラム(R47037)の実行.....	98
ASN階層の設定.....	98
ASN階層について.....	98
ASN階層の設定に使用するフォーム.....	99
ASN階層の設定.....	99
データ抽出を行う仕入先標準時間帯の指定.....	100
データ抽出を行う仕入先標準時間帯について.....	100
事前設定.....	100
データ抽出を行う仕入先標準時間帯の指定に使用するフォーム.....	101
仕入先標準時間帯の追加.....	101
ASN合計の再計算.....	101
ASNの再計算について.....	101
ASN合計の再計算に使用するフォーム.....	102
ASN合計の再計算.....	102
出荷通知情報の改訂.....	105
出荷通知情報について.....	106
事前設定.....	106
出荷通知情報の改訂に使用するフォーム.....	107
出荷のASN情報の改訂.....	107
制御情報の改訂.....	110
ASN品目の出荷通知明細の改訂.....	112
ASN品目の出荷通知明細について.....	112
事前設定.....	113
ASN品目の出荷通知明細の改訂に使用するフォーム.....	114
ASN品目明細情報の改訂.....	114
追加のASN品目明細情報の改訂.....	119
ASNオーダー明細情報の改訂.....	124
ASN住所情報の改訂.....	128
その他のASN情報の改訂.....	128
ASN梱包情報の改訂.....	131
ASN需要住所情報の改訂.....	133
子レコードの追加.....	134
子レコードについて.....	134
子レコードの追加に使用するフォーム.....	134

ASN日付/時刻間隔の分析.....	135
ASNオンタイム分析について.....	135
ASNオンタイム分析レポート・プログラム (R470361) の実行.....	135
受信確認アクティビティの分析.....	135
受信確認アクティビティの分析について.....	135
受信確認精度分析レポート(R47191)の実行.....	136
ASN情報の再計算.....	136
ASNの再計算について.....	136
ASN情報の再計算に使用するフォーム.....	137
単一ASNレコードの再計算.....	137
R47032変換プログラム (R47032C) の実行.....	137
EDI ASNレコードの除去.....	137

## 第 9 章

<b>EDI受信確認ドキュメント(997/CONTRLおよび824/APERAK).....</b>	<b>139</b>
受信確認ドキュメントについて.....	139
受信確認優先情報について.....	139
受信したEDI受信確認レコードの処理.....	140
受信したEDI受信確認レコードについて.....	140
事前設定.....	141
受信したEDI受信確認レコードの処理に使用するフォーム.....	141
受信したEDI受信確認の照会 (P47191) の処理オプションの設定.....	142
受信確認見出しレコードの追加.....	142
受信確認エラーの確認.....	146
エラー詳細に対するエラー・ノートの入力.....	147
受信確認の名称および住所情報の改訂.....	147
受信確認の参照情報の改訂.....	148
受信したEDI受信確認の除去 (R47188) の実行.....	148

## 付録 A

<b>JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理の標準ワークフロー.....</b>	<b>149</b>
JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理の標準ワークフロー.....	149
需要正味差異.....	149
受信ラッパー・ワークフロー・プロセス.....	149

## 付録 B

<b>JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理レポート.....</b>	<b>151</b>
--	------------

内示調整管理レポート.....	151
内示調整管理のすべてのレポート.....	151
JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理の主なレポート.....	152
R40R1010: CUM調整.....	152
CUM調整 (R40R1010) の処理オプション.....	153
CUM履歴レコードの除去 (R40R093) の処理オプション.....	153
R40R030: 出荷分析.....	153
出荷分析 (R40R030) の処理オプション.....	154
R40R1020: 需要非活動分析.....	155
需要非活動分析 (R40R1020) の処理オプション.....	155
R49118: 内示調整管理船荷証券.....	155
船荷証券の印刷 (R49118) の処理オプション.....	156
JD Edwards EnterpriseOne用語集.....	157
索引 .....	173

# この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要となる情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

---

**注意:** 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

---

## JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお勧めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

---

## アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

---

## 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ)
- ドキュメンテーションのダウンロード

### 最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ)

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

---

**重要:** アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

---

#### 関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: [http://www.oracle.com/support/support\\_peoplesoft.html](http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html)

### ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

---

## 追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	「Updates + Fixes」
ビジネス・プロセス図	「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」
インタラクティブ・サービス・リポジトリ	「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」
ハードウェア要件とソフトウェア要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」
インストール・ガイド	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」
統合情報	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」
最低要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」
最新版ドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」
製品ガイド・サポート・ポリシー	「Support」、「Support Policy」
プレリリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
製品出荷予定	「Support」、「Roadmaps + Schedules」
リリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
リリース・バリュープロポジション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」
製品概要	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」
トラブルシューティング情報	「Support」、「Troubleshooting」
アップグレード関連のドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」

## 表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

## 表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせて使う操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。
固定幅のフォント	PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
... (省略記号)	PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ } (中かっこ)	PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒( )で区切られています。
[ ] (角かっこ)	PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。  また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

## 注意事項の表示

表記規則

### 注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

---

**注意:** 注意事項は、このような形式で示しています。

---

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

---

**重要:** 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

---

### 警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

---

**警告:** 警告は、このような形式で示しています。

---

### 相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

## 国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

### 国の表記

国際標準化機構 (ISO) が定める国コードを使って表記しています。

### 地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

### 業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF (米国連邦政府)

- E&G(教育/公的機関)

## 通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

---

## ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn\_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

---

## 製品ガイドで使用する共通フィールド

住所録番号	エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合があります。
仮定通貨コード	取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。
バッチ日付	バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。
バッチ状況	バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/1C)のコードが表示されます。値は次のとおりです。 空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。 A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。 D: バッチが正常に転記されています。 E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。 P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。

U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。

<b>事業所</b>	倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
<b>ビジネスユニット</b>	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。
<b>カテゴリ・コード</b>	特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。
<b>会社</b>	特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。
<b>通貨コード</b>	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。
<b>伝票会社</b>	<p>伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。</p> <p>会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。</p> <p>2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。</p>
<b>伝票番号</b>	伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。
<b>伝票タイプ</b>	<p>ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛金伝票  R: 売掛金伝票  T: 時間および給与伝票  I: 在庫伝票  O: 購買オーダー伝票  S: 受注オーダー伝票</p>
<b>有効日付</b>	<p>住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 住所の変更が有効になる日付</li> <li>• 賃貸契約が有効になる日付</li> </ul>

- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

**会計期間、会計年度**

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

**元帳日付**

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社に割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

# JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理 – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne製品
- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎
- この製品ガイドで使用する共通フィールド

---

## JD Edwards EnterpriseOne製品

この製品ガイドには、次のJD Edwards EnterpriseOne製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOne売掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理
- JD Edwards EnterpriseOne電子データ交換 (EDI)
- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne受注管理
- JD Edwards EnterpriseOne輸送管理
- JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理

---

**注意:** この製品ガイドには、詳細な説明が必要なフォーム・フィールドのみが記載されています。処理や作業で使用するフォーム・フィールドの説明がない場合、そのフィールドは詳細に説明する必要がないか、あるいは項、章、製品ガイドの共通フィールドとして説明されています。

---

---

## JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎

『JD Edwards EnterpriseOne 内示調整管理 9.0 製品ガイド』では、JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理ソリューションの導入と処理についての情報を提供します。ただし、システムの設定や設計に必要な基本情報は、この製品ガイドの姉妹編に記載されています。この姉妹編はJD Edwards EnterpriseOne製品ラインの多くまたはすべてに適用される重要なトピックで構成されています。内示調整管理の姉妹編は次のとおりです。

JD Edwards EnterpriseOneの最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOneは、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて<http://oracle.com/contracts/index.html>のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド

## この製品ガイドで使用する共通フィールド

<b>受注前の調整基準、予測前の調整基準</b>	すでに出荷した数量(超過数量とも呼びます)または出荷する必要のある数量(不足数量とも呼びます)を顧客の要求と関連付けて変更することにより需要を調整できるかどうかを指定するには、このオプションを選択します。このオプションを有効にした場合、受注オーダーの作成前に需要を調整できます。
<b>対応承認番号(AU)</b>	対応承認番号(AU)は、ASNに対して伝送および抽出されます。
<b>事業所</b>	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。
<b>カードNo.</b>	カード番号とは、部品番号をさらに詳しく説明するOEM割当値です。
<b>契約</b>	特定の契約を識別するために会社が割り当てる固有の番号を入力します。 契約とは、法律上の強制力を持つ約束として定義されたもので、オファー、同意、考慮事項、主題の適法性、当事者の遂行能力などの要素が含まれている必要があります。契約番号にはなんらかの意味を持たせることができます(契約タイプ・コード、州、年など)。1つの契約に複数の補足条項(フィールドGSUP)を作成して、補遺や変更を記録できます。
<b>配送バッチ/バッチ・ロット番号</b>	配送バッチ番号は、まとめて梱包する必要のある品目の識別に使用されます。ASNやMPLには表示されませんが、配送バッチ・ラベルに表示されます。
<b>需要タイプ</b>	需要が確定したものか、それとも計画であることを示すコードを入力します。需要タイプは、需要の処理方法の指定に使用されます。
<b>エンジニアリング・タグ</b>	事前出荷通知(ASN)に表示される初回生産部品(IPP)タグを識別する番号。企業では通常、設計変更や新規仕入先などの理由で新しい部品が出荷されることを示すためにIPPタグを使用します。タグ番号は、仕入先のシステムの外部で生成され、可能なかぎりスキャンによってASN用に入力されます。仕入先は、IPPタグを特定のカートンのシリアル番号に関連付け、変更された部品の初回出荷に添付します。
<b>エンジニアリング・タグ理由コード</b>	事前出荷通知(ASN)に表示される初回生産部品(IPP)タグに関連付けられた理由を識別するコード。企業では通常、設計変更や新規仕入先などの理由で新しい部品が出荷されることを示すためにIPPタグを使用します。
<b>品目改訂レベル修飾子</b>	品目改訂レベルを表す次のような修飾子。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• EC: デルタ - 仕入先はこのレベルまで出荷する必要があります。</li> <li>• BE: 帳簿上の最新の改訂。これより新しいものを出荷します(GPCS)。</li> </ul>
<b>作業番号</b>	順序番号のグループを表し、作業を一意に識別するロット番号または作業番号。作業番号は製造順序に使用されます。
<b>作業順序No.</b>	OEMから送信され、製造順序に使用される順序番号。製造順序とは、商品をトラックから荷下しする順序を示すプロセスです。
<b>行No.</b>	EDIトランザクションの開始時に割り当てる行番号です。この番号には、オーダー行番号(どのオーダー・タイプにも使用可)、請求書の支払項目、仕行番号などを指定できます。

<b>製造完了日付</b>	OEM車両のほとんどが製造される予定の日付。製造完了日付により、ローテーション番号または順序番号の最初の部分が決まります。
<b>処理済み(Y/N)</b>	レコードが正常に処理されたかどうかを示すには、このオプションを選択します。プログラムに応じて、テーブルのEDSPフィールドが次のいずれかの値に更新されます。 ブランク: レコードは未処理です。 1: レコードは正常に処理されています。EDI需要(受信)の編集/更新バッチ・プログラム(R47171)を実行するには、1を指定する必要があります。
<b>製品タイプ</b>	サード・パーティ・ベンダーのかんばんオーダーに対するOEM参照番号。
<b>プログラムID</b>	バッチ・プログラムまたは対話型プログラム(バッチ・オブジェクトまたは対話型オブジェクト)を識別するID。たとえば、対話型プログラムである「受注オーダー入力」のIDはP4210、バッチ処理レポートである「請求書の印刷」のIDはR42565です。 プログラムIDの桁数は固定されていません。この値は、次のようにTSSXXXという形式で割り当てられます。 T: IDの最初の文字は、プログラムの場合はP、レポートの場合はRのように、タイプを識別する英字です。たとえば、P4210のPは、プログラムであることを示します。 SS: IDの2番目と3番目の文字は数字であり、システム・コードを識別します。たとえば、P4210の42は、このプログラムがシステム42(受注処理)に属していることを示します。 XXX: IDの残りの文字は数字であり、固有のプログラムまたはレポートを識別します。たとえば、P4210の10は、受注オーダー入力プログラムを示します。
<b>プル・シグナル</b>	資材補充を開始するためのDON(配送オーダー番号)、RAN(リリース会計処理番号)、かんばん番号のいずれかを表すコードを入力します。プルベースの製造手法を使用して現場での資材補充を知らせる顧客もあります。
<b>レコード順序</b>	H01、H02、D01など、EDIトランザクションの見出しまたは明細情報の相対的な位置を割り当てるときに使用する識別子を入力します。
<b>参照No.</b>	需要実体を識別する番号。
<b>要求タイプ</b>	受信する需要のタイプを示す、EDIトランザクション・セット/メッセージからのコードを入力します。要求タイプは通常、OEM要求タイプである「確定」または「計画」によって定義します。
<b>経路</b>	アセンブリ・ライン上で商品が集められる一連の地点を表すコードを入力します。
<b>搬送経路サフィックス</b>	商品が集められる一連の地点を識別する、EDIトランザクション・セット/メッセージからのサフィックス。
<b>工程日付</b>	工程日付は、eKanbanオーダー用に伝送されるもので、サード・パーティのデータ収集ベンダーに提供され、UCC/B10ラベルに印刷されます。
<b>工程オーダー順序番号</b>	工程オーダー順序番号は、eKanbanオーダー用に伝送されるもので、サード・パーティのデータ収集ベンダーに提供され、UCC/B10ラベルに印刷されます。

<b>工程時刻</b>	工程時刻は、eKanbanオーダー用に伝送されるもので、サード・パーティのデータ収集ベンダーに提供され、UCC/B10ラベルに印刷されます。
<b>SCAC</b>	運送業者に割り当てられた固有の4文字のコード。
<b>送受信インディケータ</b>	特定のトランザクション・セットが送信、受信、送受信のいずれかを識別するインディケータを入力します。値は次のとおりです。 S: 送信 R: 受信 B: 送受信
<b>販売先</b>	住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号を入力します。このフィールドは、情報の入力や検索に使用します。詳細住所や税IDなど、住所録番号(AN8)以外の値を入力した場合は、住所録固定情報で定義した特殊文字を前に付ける必要があります。レコードを検索すると、このフィールドに住所録番号が表示されます。
<b>トランザクション・セット</b>	特定のタイプのEDITトランザクションを識別するときに使用される修飾子を入力します。
<b>トランザクション・セット目的</b>	トランザクション・セットの目的を識別するコードを入力します。UDC 47/PUを参照してください。このテーブルの第2記述の最初の文字は、トランザクションの処理方法を制御します。ANSI X.12のデータ項目353を参照してください。

# 第 1 章

## JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理 – はじめに

この章では、次の概要について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理の概要
- JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理のビジネス・プロセス
- JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理の導入

---

### 内示調整管理の概要

JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理システム(40R)は、顧客と仕入先間の出荷スケジュールおよび生産スケジュールに対する要求の管理に使用します。確定需要要求または計画需要要求によって、出荷の正味オーダー情報を受信、解釈、検証したり、仕入先または顧客に出荷明細を自動的に伝達することができます。

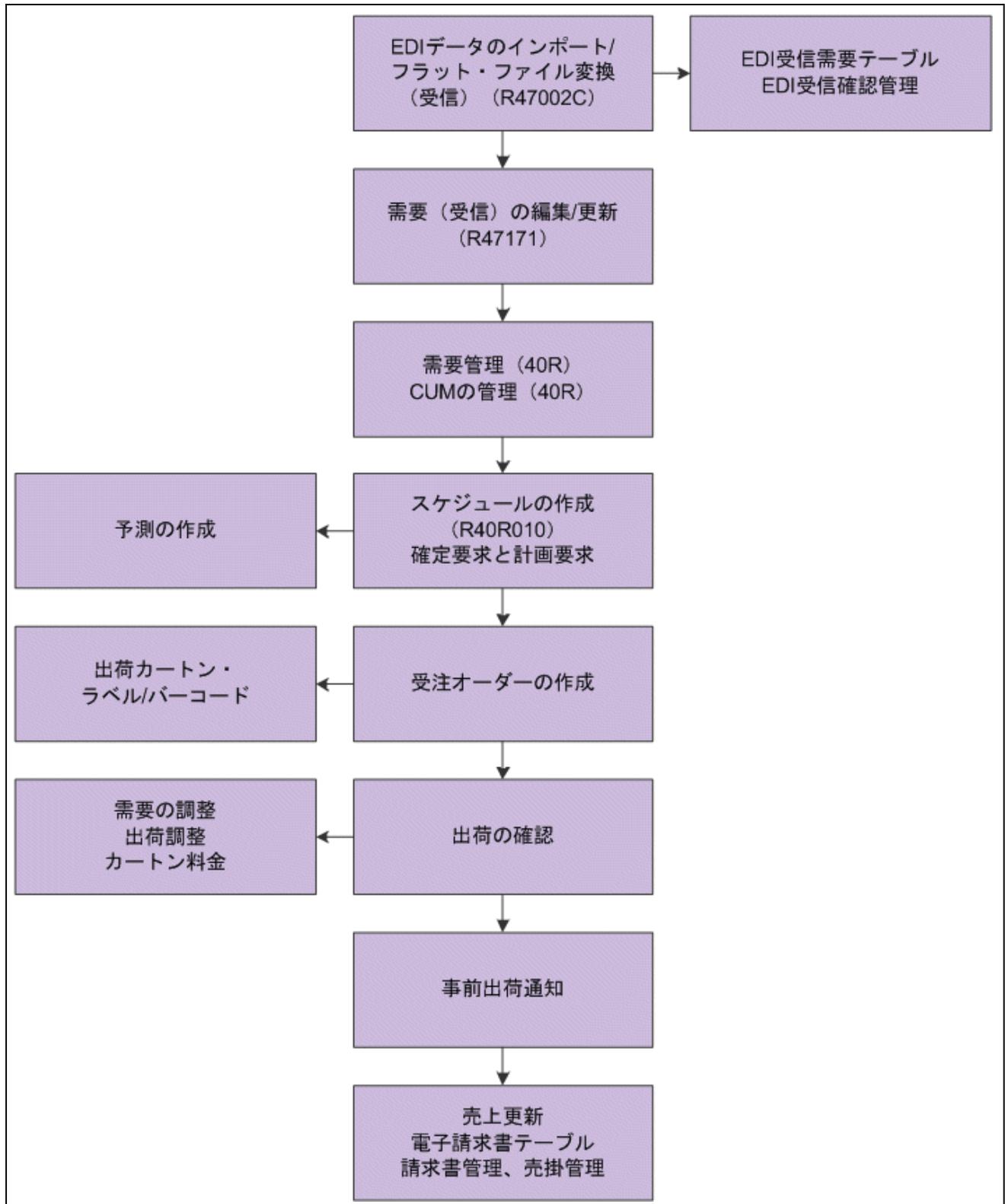
システムでは、顧客から仕入先に伝送される電子データ交換(EDI)ドキュメントを使用して情報の解釈と受信が行われた後、適切な内示調整管理テーブルに情報が移入され、受注オーダーのレコードと予測が作成されます。このような情報をすべて管理するために、内示調整管理システムを設定します。

一般に、将来の期間を対象とする予測スケジュールが製造業者または流通業者から仕入先に伝送され、一連の年累計としてフォーマットされます。この情報は、大量の処理が行われるサプライチェーンで部品や資材を発注する際の予測と計画に利用できます。

---

### JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理のビジネス・プロセス

次のプロセス・フローは、内示調整管理のビジネス・プロセスを表しています。



内示調整管理のプロセス・フロー

## JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理の統合

JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理システムは、オラクル社の次のJD Edwards EnterpriseOneシステムと統合されています。

- JD Edwards EnterpriseOne EDIデータ・インターフェイス
- JD Edwards EnterpriseOne受注管理
- JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne輸送管理
- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne売掛管理

統合における考慮事項については、この製品ガイドの導入に関する章で説明します。サード・パーティ・アプリケーションとの統合についての補足情報は、Customer Connection Webサイトを参照してください。

### JD Edwards EnterpriseOne EDIデータ・インターフェイス

内示調整管理では、顧客から仕入先に送信される生のEDI需要要求を取得することに焦点が当てられます。一般に、情報の送受信はJD Edwards EnterpriseOne電子データ交換(EDI)システム(47)を使用して行います。この内示調整管理情報には累計数量と仕入先リリース・スケジュールが含まれています。どのトランザクションとメッセージを仕入先に送信するか、トランザクションとメッセージをどのように使用するかを指定できます。

### JD Edwards EnterpriseOne受注管理

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムを使用してオーダー・テンプレート、定期オーダーまたは一括オーダーを作成することで、顧客サービスを強化できます。また、受注管理システムは次の情報のオンライン表示を通じて顧客サービスをさらに支援します。

- 関連オーダー、在庫、輸送、財務情報
- 販売促進や値引、割当などを適用する場合の製品ラインごとの正味収益性

### JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理

JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理システムは、他のJD Edwards EnterpriseOneシステムと連動して在庫管理を行い、効率的な保管、梱包、出荷を通じて顧客の要求を満たすことを可能にします。

### JD Edwards EnterpriseOne輸送管理

輸送業界は多種多様な出荷ニーズに対処しています。こうしたニーズを満たすには、幅広い輸送シナリオを設定することが必要です。JD Edwards EnterpriseOne輸送管理システムを使用すると、小荷物の出荷、トラック1台分に満たない商品の出荷、トラック1台単位の出荷、鉄道での出荷を設定できます。

### JD Edwards EnterpriseOne在庫管理

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムでは個々の在庫品目が定義されるため、サプライチェーン全体での在庫の操作が可能になります。品目の識別特性と処理特性は、企業全体を通じて個々の品目に固有の基本的な情報要素です。地域または市場に応じた柔軟性をもたらす機能によって、この情報をさらに詳しく定義できます。

## JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムは、効果的な資金管理に必要な柔軟性を備えており、企業のキャッシュフロー管理を効率的にサポートします。売掛管理部門全体の日常業務を合理化できます。入金消込プロセスの簡素化と迅速化も可能です。

## JD Edwards EnterpriseOne 内示調整管理の導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOne 内示調整管理システム導入の概要と、導入に必要な手順について説明します。

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、JD Edwards EnterpriseOne に関して提供されるすべての情報を活用してください。『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

JD Edwards EnterpriseOne 内示調整管理について、どのESU(電子ソフトウェア更新)をインストールするかを決める際は、EnterpriseOne and World Change Assistantを使用します。JavaベースのツールであるEnterpriseOne and World Change Assistantを使用すると、必要となるESUを検索してダウンロードするためにかかる時間を75%以上削減できます。さらに、複数のESUを一度にインストールすることも可能です。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Software Update Guide

## グローバル導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne 内示調整管理システムの導入手順を示します。

手順	参照
1. グローバル・ユーザー定義コードを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Foundation Implementation Guide、ユーザー定義コードに関する項
2. 会社、会計期間パターンおよびビジネスユニットを設定します。	
3. 自動採番を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Foundation Implementation Guide、自動採番の設定に関する項
4. 勘定科目と勘定科目表を設定します。	
5. 一般会計固定情報を設定します。	
6. 通貨コードや為替レートなどの多通貨処理を設定します。	
7. 元帳タイプ規則を設定します。	
8. 住所録レコードを入力します。	
9. 事業所固定情報、デフォルト事業所およびプリンタ、製造および流通AAI(自動仕訳)、伝票タイプなどの在庫情報を設定します。	

手順	参照
10. 製造現場カレンダーを設定します。	
11. 製造固定情報を設定します。	

## 内示調整管理の導入手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理システムの導入手順を示します。

手順	参照
1. 内示調整管理を有効にします。	<a href="#">第 4 章、「需要設定の処理」、「内示調整管理の有効化」、38ページ</a>
2. 詳細優先情報を設定します。	



## 第 2 章

# 内示調整管理について

この章では、次の内容について説明します。

- 電子データ交換 (EDI) トランザクションおよびメッセージ
- 需要規則および管理
- 計画需要
- 累計処理
- 出荷および計画スケジュール
- 確定需要

---

## EDI トランザクションおよびメッセージ

内示調整管理を使用すると、顧客から仕入先に送信される生の EDI 需要要求を取得できます。一般に、情報の送受信は JD Edwards EnterpriseOne 電子データ交換 (EDI) システム (47) を使用して行います。この内示調整管理情報には累計数量と仕入先リリース・スケジュールが含まれています。どのトランザクションとメッセージを仕入先に送信するか、トランザクションとメッセージをどのように使用するかを指定できます。

どのような顧客と取引を行うかによっては、仕入先がいくつもの異なるトランザクションやメッセージで同じタイプの情報を受信する場合があります。変換ソフトウェアは、ユーザー定義の変換ルールに基づいて、このデータを一貫して解釈および処理し、データベースにマッピングすることができます。

たとえば、需要情報は 830、850、862、866、DELJIT、DELFOR、ORDERS のいずれかの伝票で受信できます。このデータを、サード・パーティの変換ソフトウェアが取引先、EDI トランザクションおよび受信したデータに基づいて、EDI 伝送から EDI システム (47) の需要テーブルにマッピングします。

まれに、顧客が 850 (購買オーダー) 伝票を計画と予測、またはスポット購入に使用することがあります。他の顧客は購買一括オーダーとして使用します。顧客が 850 を計画と予測に使用する場合、この伝票は計画要求として需要テーブルに取り込まれます。スポット購入の場合、850 は確定タイプの要求として処理されます。850 伝票が購買一括オーダーとして使用される場合、PO システム / 47 テーブルにマッピングされ、通常の 850 伝票として処理されます。

この情報を手動で入力して改訂し、顧客または仕入先に送信することもできます。

---

## 需要規則および管理

JD Edwards EnterpriseOne 内示調整管理システムを使用すると、顧客から受信した需要要求を管理できます。需要規則には、顧客レベルと出荷先レベルで設定する需要データと累計数量が含まれています。需要規則により、出荷プロセスにおける要求の更新方法を定義します。

たとえば、需要規則を使用して次のことを実行できます。

- 顧客の週が始まる曜日を指定して、需要レコードが今週と先週のどちらに関連付けられているかを特定できるようにします。
- 非作業日の出荷日付を調整します。
- 累計出荷数量の更新時に累計数量を増加または減少させます。
- 既存の需要を、特定の出荷先レコードに関連付けられている新規の需要に置き換えます。
- 超過値または不足値を計算して、受注オーダーの作成前に需要を調整します。
- 事業所、出荷先または販売先の標準時間帯に基づいて出荷時刻と配送時刻を設定します。

## 需要レコード

需要レコードを使用して、需要情報のすべてを管理します。需要レコードには、次のタイプの情報が含まれています。

- 需要見出しレベルと需要詳細レベルで保存された補足データ
- 予測レコードと受注オーダーの現行作成スケジュール
- 時間枠日付、許容度、梱包の丸めなどの設定に関する優先情報
- 住所と連絡先の情報
- 梱包情報
- スケジュール変更またはリリースごとの履歴データ
- 照会と警告による正味差異の変更
- 非活動品目または古い品目を分析するための処理データ

---

## 計画需要

内示調整管理では、顧客の要求は確定と計画の2種類に分けられます。計画要求とは、今すぐ必要になることはなく、ただちに出荷する必要もないが、顧客が将来のある期間に必要なになると予想しているため、仕入先が計画する必要のある品目の需要です。

顧客が(通常はEDIを使用して)仕入先に要求を伝達すると、その要求はEDI需要(受信)の編集/更新プログラム(R47171)の実行を通じて、EDI需要テーブルからF40R11テーブルに転送されます。F40R11テーブルに作成されたレコードは、「需要タイプ」フィールドの値により、計画需要または確定需要とみなされます。各レコードには、需要レコードの期間(日次、週次、月次)を示す需要期間インディケータも含まれています。

---

**注意:** 需要管理プログラム (P40R10) を使用して、確定需要または計画需要をシステムに入力することもできます。需要スケジュールの作成プログラム (R40R010) を自動的に開始するには、処理オプションを設定します。

計画需要の値は、需要スケジュールの作成プログラムを実行して JD Edwards EnterpriseOne 予測管理システムに転送します。顧客と品目の組合せに対して優先情報で定義したスケジュール時間枠に基づき、需要レコードから予測レコードを作成するかどうかが決まります。需要レコードが、計画期間開始日付 (リリース日付または顧客が指定した日付) で指定した期間内のものである場合は、予測レコードが作成されます。それ以外の場合、データは参照専用となります。需要詳細レコードが JD Edwards EnterpriseOne 予測管理システムに送信されると、需要詳細の受注オーダー作成状況は 0 に設定されます。

---

## 予測

内示調整管理では、仕入先は顧客からの需要情報を、自社の生産スケジュール用に予測を作成する手段として使用できます。計画期間開始日付から計画予測時間枠日付までの期間に顧客から送信されたリリースは、計画需要とみなされ、予測に組み込まれます。

## 顧客別予測消化

大口顧客を処理する場合は、各顧客の需要を個別に検討し、それに合わせて生産数量を計画することがあります。特定の顧客の予測と受注オーダーを比較するようにシステムを設定し、各顧客の需要に対して正確な計画を立てることができます。予測と受注オーダーを比較する場合、予測の合計値と受注オーダーの合計値を比較するのか、個々の顧客の値を比較するのかによって、結果が異なります。

MRP/MPS 所要量計画プログラム (R3482) を実行する場合は、顧客別予測消化を使用するようにプログラムを設定できます。この機能は、計画枠規則 C、G または H で定義された品目に対して使用できます。加工品目については予測消化ロジックは使用できません。

## 需要展開

需要展開とは、指定期間内の特定の日付または日付範囲に対して需要予測数量を展開するプロセスを指します。このプロセスでは、詳細需要レコードの計画日付と数量が集約され、週次集計値または月次集計値ごとに予測バケットに配賦されます。JD Edwards EnterpriseOne 予測管理システムは、2種類の需要展開方法をサポートしています。

- テンプレート展開

計画需要数量を1週間に展開する方法を示す需要展開テンプレートを作成します。日ごとに異なるパーセンテージを指定できます。テンプレートに指定したパーセンテージの合計が100になるようにしてください。

- 均一展開

需要展開テンプレートが存在しない場合は、需要数量が週の各日に対して均一になるように自動的に配賦されます。これがデフォルトの方法です。

---

## 累計処理

累計処理を使用して、購買一括オーダーの開始日から将来の特定の日付までの商品の累計数量に関する確定要求および予測要求を伝達します。たとえば、年累計入荷数量、必要数量および出荷数量に関する通知の送信と受信が可能です。

各需要詳細レコードは固有の累計レコードに関連付けられています。CUMの管理プログラム(P40R12)を使用して手動で、またはEDI需要見出しプログラム(P47171)でEDI需要(受信)の編集/更新プログラム(R47171)を使用して累計データを入力すると、システムに累計データが送られます。需要調整プロセスとCUMロールバック・プログラム(P40R421)を使用して累計情報を調整することもできます。その場合、累計数量は自動的にゼロにリセットされます。

## 出荷および計画スケジュール

需要および累計情報に基づいて出荷および計画スケジュールを作成できます。次の表は、スケジュールの処理方法をまとめたものです。

デクリメントCUM	累計出荷数量を減少させる場合、および出荷CUMがゼロに達したときにオーダーを保留する場合は、デクリメントCUMを使用します。
時間枠	スケジュール時間枠と優先情報を使用して、新規リリースと変更済数量のレコードの管理方法を制御できます。時間枠には確定と計画の2種類があります。  確定出荷時間枠は、受注オーダー作成の対象となる需要日数を示します。計画予測時間枠は、予測作成の対象となる需要日数を示します。
標準梱包	標準梱包と丸め規則および累積計算を使用してオーダー数量を決定します。顧客レベルと品目レベルで標準梱包情報を設定し、出荷が正しい数量で行われるようにします。顧客は標準梱包を使用しない出荷を要求できません。
超過/不足	仕入先からの出荷が過剰か、不足しているか、過不足なしかを判別できます。この数量を計算するには、累計必要数量から累計出荷数量を差し引きます。数量がプラスの場合、仕入先はスケジュールより遅れています(出荷不足)。数量がマイナスの場合、仕入先はスケジュールより進んでいます(過剰出荷)。差異数量がゼロの場合、仕入先はスケジュールどおりです。
予測日付	将来の期間を対象とする予測スケジュールを、通常は日/週/月の形式で作成し、取引先から仕入先に伝送します。多くの場合、スケジュールは一連の年累計として提示されます。
スケジュール改訂優先情報	顧客による計画需要の送信方法を示す優先情報を設定します。

## 確定需要

確定需要とは、指定した将来の期間に必要とされる品目および資材の需要要求です。確定需要を管理するためのレコードを作成して処理できます。このレコードには、スケジュール、受注オーダーまたは予測、管理規則、仕入先と顧客に関するその他のデフォルト情報など、要求の管理に使用する情報が保存されます。カートン、ラベル、出荷および通知の処理方法を指定したり、レポートを実行してあらゆる需要情報を分析することもできます。

## 需要受注オーダー

需要受注オーダーとは、需要スケジュールの作成プログラム (R40R010) の実行時に JD Edwards EnterpriseOne 内示調整管理システムから生成される受注オーダーです。作成または更新された受注オーダーは、顧客のスケジュールに応じるために出荷する必要のある品目を反映しています。

システムでは、1日の出荷をまとめた出荷レコードが自動的に作成されます。需要受注オーダーは、JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムの受注オーダー入力プログラム (P4210) で確認可能な需要関連フィールドによって、元の内示調整管理レコードにリンクされます。

## カートン情報

出荷する各カートンについての詳細情報を保存し、トラッキング、カートン料金および事前出荷通知 (ASN) に利用することができます。

カートン情報には次のものがあります。

- シリアル番号
- 重量情報
- スキャン情報
- データ収集およびスキャンに関するサード・パーティによる変更またはカスタム変更
- 手動処理
- カートン推奨
- 梱包推奨
- ラベル・シリアル番号の自動採番
- 変更に関するカートン再構成

ASNを使用すると、送信者は出荷の内容と構成を記述できます。ASNには、出荷する商品の内容と出荷に関連した次のような情報が一覧表示されます。

- オーダー情報
- 製品記述
- 物理的特徴
- 梱包のタイプ
- 運送業者情報
- 輸送設備内の商品の構成

出荷の船荷証券とカートン明細には、カートン情報の詳細とサマリーが印刷されます。顧客が制御する船荷証券番号のフォーマットは自動採番を使用したもので、顧客固有ではありません。

## ラベル処理

システムでは、様々なテーブルから送信伝票にラベル・データが収集され、この情報がサード・パーティに送信されてラベルのフォーマットと印刷が行われます。次のプログラムからラベル情報を送信できます。

- 需要管理 (P40R10)
- 受注オーダー入力 (P4210) (内示調整管理を使用していない場合)
- カートン明細照会 (P4621) (カートン明細がカートン推奨から作成された場合)

受信したスキャン済ラベル・データを使用して、カートン明細の作成または更新とASNの作成が行われます。ASNと船荷証券には、出荷について記述するための詳細なカートン情報が必要です。ラベルには受信EDIメッセージの標準データが必要です。

ラベル自動採番機能を使用すると、事業所値に基づいてラベルのシリアル番号を生成できます。ラベルは外部で生成することもできます。ラベルのシリアル番号は、サード・パーティ・ベンダーによって保存および検証されます。この番号は、スキャンして出荷品目の数量をカートン明細品目の数量に対して確認した後、保存されます。必要に応じて差異を訂正できます。

## 出荷の調整および確認

出荷調整では、品目の出荷数量がカートン明細の数量と一致することを検証します。出荷情報の調整は、ラベルの入力およびスキャンの際に実行できます。ラベルがカートン明細にリンクされ、出荷番号、品目、出荷先および数量の値が照合されます。スマート・ラベルを使用する場合は、スキャン済ラベルにリンクされた各コンテナ・ラベルの情報が比較されます。一致するものが見つかった場合、正しいマスター/混合ラベルとコンテナ・ラベルの番号で情報が更新されます。さらに、カートン明細にマスター/混合ラベルのレコードが作成されます。

出荷を調整し、ロードした後、出荷を確認できます。封印番号や運賃承認コードなど、直前のASN情報を入力できます。ASNを自動的に抽出するかどうかの指定も可能です。

## 出荷レポート

出荷レポートには、ピッキング・リスト、梱包リスト、出荷のカートン推奨および梱包要件、船荷証券情報、累計金額、出荷分析に利用できる情報が表示されます。次のレポートが用意されています。

- 伝票バッチ印刷UBE (R49590)
- 輸送船荷証券の作成 (R49110)
- 船荷証券の印刷 (R49118)
- 出荷分析 (R40R030)
- ASNオンタイム分析 (R470361)
- 受信確認精度分析 (R47191)

## 通知

次の表は、内示調整管理の通知の処理方法をまとめたものです。

ASN	<p>ASNとは、配送に先立って製品と出荷の情報を顧客に提供する電子メッセージです。</p> <p>ASNデータはEDIテーブルで管理されるため、ASNデータをすばやく変更してタイムリなメッセージを顧客に送信できます。変更を需要テーブルと出荷テーブルにも反映させる必要がある場合は、後で適切なアプリケーションを通じて変更を実行できます。合計や更新を関連レコードに積み上げることもできます。</p> <p>顧客規則と優先情報を設定して、ASNトラッキングを実行するかどうかを指定できます。この規則と優先情報により、メッセージを送信するまでにASN受信確認の受信を待つ時間と、開始するワークフロー・プロセス名が決まります。たとえば、ASNの受信確認が20分以内に行われなかった場合に通知を受けるには、顧客規則に20分と指定します。待ち時間が過ぎると、指定した担当者に電子メールが送信されます。</p>
受信確認	<p>EDI受信確認またはアプリケーション通知を受信すると、受信確認の受信日時と状況でシステム/47 ASNデータベースが更新されます。ASNと請求書について、これらのトランザクションが処理されます。</p> <p>各状況で実行されるアクティビティのタイプを決定するには、顧客規則を使用します。次の状況があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 却下</li> <li>• 受領済(エラーあり)</li> <li>• 受領済</li> </ul> <p>それぞれの状況に応じてワークフロー・プロセスを開始し、メッセージまたは電子メールを送信することもできます。その場合は、必要なデータやマッピングの問題を修正し、ASNを再送信して伝送することが可能です。</p>

<p>需要調整</p>	<p>出荷の確認が取れると、出荷情報を含むXAPIメッセージが発行され、実際の出荷数量が必要数量より少ない場合は残りの一部必要数量に対応するために需要が調整されます。</p> <p>需要の調整は、システムが需要を受信し、関連オーダーを処理した後に行われます。出荷確認メッセージを使用して、実際の出荷数量がシステム内の他の製品に伝達されます。出荷数量(カートンを含む)を使用して、元の需要要求と関連の累計数量が調整されます。</p> <p>製品メッセージ(受注オーダー明細行)の場合は、次の情報が送信されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 需要ID</li> <li>• 事業所</li> <li>• 販売先住所録番号</li> <li>• 出荷先住所録番号</li> <li>• 出荷数量</li> <li>• 単位</li> <li>• 出荷番号</li> <li>• 実際出荷日付</li> <li>• 実際出荷時刻</li> </ul> <p>カートン・メッセージの場合は、次の情報が送信されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事業所</li> <li>• 販売先住所録番号</li> <li>• 出荷先住所録番号</li> <li>• 顧客カートン番号</li> <li>• カートン数</li> </ul> <p>超過/不足計算の状況に応じて、更新を実行するかどうかが決まります。</p> <p>累計トラッキングが有効になっている場合は、製品とカートンの累計出荷数量も更新されます。</p>
<p>需要ワークフロー通知</p>	<p>EDIの内容と伝送方法は顧客によって異なります。このような違いに対応するため、多くの取引先で使用されている既知のビジネス・プロセスを含むデフォルト・ワークフローが作成されました。このワークフローのアクティビティは、それぞれ1つのビジネス・プロセスを表しています。ユーザーは、このデフォルト・ワークフローをそのまま使用することも、デフォルト・ワークフローをコピーしてアクティビティを変更することもできます。変更した場合は、新しいワークフローを使用する事業所、販売先、出荷先の組合せを定義できます。特定の顧客に対してワークフローを開始しないという選択肢もあります。その場合は、該当する事業所、販売先、出荷先の組合せに対してワークフローを定義しません。</p>

需要正味差異ワークフロー通知	正味差異ワークフローでは、ユーザー定義の許容レベルを超える正味差異について製造その他の担当者に警告する単一メッセージング機能アクティビティが開始されます。ワークフローのデータ構造に渡されるパラメータを使用すれば、顧客は商慣習上の必要に応じてワークフローまたはメッセージングをカスタマイズできます。
請求書作成	出荷確認後、請求書が作成されます。請求書印刷プログラム (R42565) を使用して関連システム・ファイルから必要なデータが収集され、電子商取引 (47) システム・ファイルに変換されます。  次に、EDI 請求書抽出変換プログラム (R47042C) を使用してフラット・ファイルが作成されます。このフラット・ファイルは、変換ソフトウェアにより、顧客に送信する際の 810 形式または INVOIC 形式にマッピングされます。

**関連項目:**

第 8 章、「事前出荷通知の処理」、「ASN について」、95 ページ

**売上更新と入金**

売上更新プログラム (R42800) を使用して受注オーダーを処理すると、請求書の出荷番号が生成され、F03B11 テーブルに保存されます。システムでは、請求書番号や受注番号、顧客参照、計算書番号などの値を使用して請求書と入金の処理および照合を行う場合と同様に、出荷番号に基づいて請求書を選択し、請求書に対して入金を消し込むことができます。

一部の仕入先については請求書を生成する必要がないため、ASN に基づいて支払を実行できます。

**レポート**

様々なレポートを実行して、内示調整管理情報を分析できます。たとえば、船荷証券の印刷や出荷差異分析のための情報の印刷、需要アクティビティの確認、事前出荷通知プロセスの効率性分析などが行えます。次のレポートが用意されています。

- 出荷分析 (R40R030)
- CUM 調整 (R40R1010)
- 需要非活動分析 (R40R1020)
- ASN オンタイム分析 (R470361)
- EDI ASN 送信データの更新 (R47037)
- 受信確認精度 (R47191)
- 船荷証券の印刷 (R49118)



## 第 3 章

# EDI需要情報の処理

この章では、内示調整管理EDI情報の設定要件の概要と、次の方法について説明します。

- EDI需要見出しレコードの作成
- EDI需要詳細情報の改訂
- EDI内示調整管理詳細情報の改訂
- EDI需要(受信)の編集/更新レポート(R47171)の実行
- EDI需要(受信)の編集/更新(R47171)の処理オプションの設定
- EDI需要レコードの除去

---

## 内示調整管理のためのEDI情報について

内示調整管理では、顧客から仕入先に送信される需要要求(累計数量を含む)を取得することに焦点が当てられます。どのトランザクションとメッセージを仕入先に送信するか、トランザクションとメッセージをどのように使用するかを指定できます。

EDI(47)テーブルには、サード・パーティの変換ソフトウェアによって解釈された関連データ項目が保存されます。EDI需要見出し管理(P47171)を使用してこの情報を手動で改訂し、EDI需要(受信)の編集/更新(R47171)を使用して需要要求を処理することができます。処理済の需要要求は内示調整管理(40R)データベースに保存されます。EDIデータが内示調整管理テーブルにインポートされた後は、EDIテーブルの変更は内示調整管理テーブルに反映されません。ただし、EDI需要見出しとEDI需要詳細の「処理済み」フラグをブランクまたはNに変更した場合を除きます。定期的にEDI需要の除去(R47190)プログラムを使用して処理済のEDIレコードを除去し、EDIテーブルのサイズを小さくすることができます。

EDI需要(受信)の編集/更新プログラムを実行すると、需要相互参照(P40R21)を通じて「要求タイプ」と「需要頻度」の値が「需要タイプ」と「需要期間」の値に対して相互参照されます。

---

**注意:** EDI需給情報をプログラムから削除すると、従属データがすべて削除されます。たとえば、EDI需要住所を削除すると、従属するEDI需要連絡先名と需要連絡先番号も削除されます。

---

どのような顧客と取引を行うかによっては、仕入先がいくつもの異なるトランザクションやメッセージで同じタイプの情報を受信する場合があります。需要情報は、830、850、862、866、DELJIT、DELFOR、ORDERSのいずれかの伝票で受信できます。このデータを、サード・パーティの変換ソフトウェアが取引先、EDIトランザクションおよび受信したデータに基づいて、EDI伝送からEDIシステム47の需要テーブルにマッピングします。変換ソフトウェアは、定義済の変換ルールに基づいて、このデータを一貫して解釈および処理し、データベースにマッピングすることができます。

**注意:** まれに、顧客が850(購買オーダー)伝票を計画と予測、またはスポット購入に使用することがあります。他の顧客は購買一括オーダーとして使用します。顧客が850を計画と予測に使用する場合、情報は計画要求として需要テーブルに取り込まれます。スポット購入の場合、850は確定タイプの要求として処理されます。850伝票が購買一括オーダーとして使用される場合、POシステム/47テーブルにマッピングされ、通常の850伝票として処理されます。

サード・パーティの変換ソフトウェアによって変換された情報は、受信トランザクションの情報を使用して次のEDI需要テーブルに移入されます。

テーブル	説明
F47171 EDI需要見出し	「事業所」、「販売先」、「出荷先」、「リリース番号」の値など、一連のEDI需要見出しレコードが保存されます。
F47172 EDI需要詳細	EDIメッセージ内の行品目が保存されます。
F47173 EDI内示調整管理	出荷と配送の日付、時間、数量が保存されます。
F471721 EDI補足データ	導入と顧客に固有のユーザー定義情報が保存されます。
F471731 EDI梱包	梱包の重量や数などの梱包情報が保存されます。
F471722 EDI住所	住所情報が保存されます。
F471723 EDI連絡先名	連絡先情報が保存されます。
F471724 EDI連絡先番号	連絡先電話番号が保存されます。

## EDI需要見出しレコードの作成

この項では、事前設定と見出しレコードの作成方法について説明します。

### 事前設定

次のユーザー定義コード(UDC)が設定されていることを確認します。

- トランザクション・タイプ(00/TT)

- レコード・タイプ (00/RD)
- EDIトランザクション・セット番号 (40/ST)

## 見出しレコードの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
EDI需要見出しの処理	W47171A	「EDI受信処理」メニュー (G40R11)、「EDI受信の管理」	EDI受信見出しレコードを検索します。
EDI需要見出しの改訂	W47171B	「EDI需要見出しの処理」で、「追加」をクリックします。	EDI需要見出しレコードを作成します。

## 見出しレコードの作成

「EDI需要見出しの改訂」フォームにアクセスします。

The screenshot shows a web-based form titled "EDI 受信の管理 - EDI需要見出しの改訂". At the top, there are navigation buttons: OK(O), 取消(L), フォーム(F), ツール(T). Below this, there are icons for save, delete, and refresh. The main form area contains several sections:

- レコード・タイプ**: A dropdown menu with "1" selected and a search icon, followed by the text "見出し".
- 伝票No. \***: A text input field containing "20031020", followed by "PS" and "00200".
- EDI需要見出し**: Three tabs labeled "EDI需要見出し 1", "EDI需要見出し 2", and "EDI需要見出し 3". The first tab is selected.
- 事業所**: A dropdown menu with "M30" selected, with the text "Eastern Manufacturing Center" below it.
- 販売先**: A dropdown menu with "4201" selected, with the text "Centarian Enterprises" below it.
- 出荷先**: A dropdown menu with "420101" selected, with the text "RoadMax, Inc." below it.
- リリース**: A section with fields for "番号" (1020), "日付" (2003/11/20), and "時刻" (150000).
- EDI**: A section with fields for "バッチNo." (empty), "トランザクション・セット" (DEMAND), and "必要受信" (checkbox checked).
- トランザクション・セット目的**: A dropdown menu (empty).
- トランザクションメッセージ名**: A section with fields for "名前" (empty), "タイプ" (empty), "サブセット名" (empty), "日付" (empty), and "時刻" (0).

「EDI需要見出しの改訂」フォーム

### EDI需要見出し1

「EDI需要見出し1」を選択します。

### レコード・タイプ

EDIトランザクション・レコードが見出し情報か、明細情報かを示す識別子を入力します。このフィールドは、EDIの場合にのみ表示されます。

### 伝票No.

EDIトランザクションで自動的に割り当てられる伝票番号を入力します。

	EDI環境以外では、伝票オーダーはオーダー入力時に割り当てられるオーダー番号(DOCO)と一致します。
<b>EDI伝票タイプ</b>	EDIトランザクションで自動的に割り当てられる伝票タイプを入力します。 非EDI環境では、EDI伝票タイプは、請求書伝票タイプや買掛伝票タイプなどのオーダー入力時に割り当てられるオーダー・タイプ(DCTO)と一致します。
<b>バッチNo.</b>	バッチに自動的に割り当てられる番号が表示されます。バッチ処理中に、検出された各制御(ユーザー)バッチ番号のJD Edwards EnterpriseOneトランザクションに新規のバッチ番号が割り当てられます。
<b>EDI需要見出し2</b>	
	「EDI需要見出し2」を選択します。
<b>テキスト参照No.</b>	EDIメッセージに含めて、テキストをEDIメッセージ・タイプ864に関連付ける番号を入力します。
<b>出荷先別置換の正常終了</b>	EDIファイルによって出荷先別需要のフィールドの値が置換されたことを示すコードを入力します。値は次のとおりです。 ブランク: 値は正常に置換されていません。 1: 値は正常に置換されました。
<b>EDI需要見出し3</b>	
	「EDI需要見出し3」を選択します。
<b>変換フォーマット</b>	送受信両方のEDIトランザクションを処理するためのマッピング構造を識別する修飾子を入力します。これは、非EDIトランザクションには適用されません。
<b>処理済み明細行数</b>	EDIトランザクションで伝送される明細行の数を入力します。オーダーや請求書当たりの合計行数などです。

---

## EDI需要詳細情報の改訂

この項では、需要詳細情報の概要と、次の方法について説明します。

- 品目出荷情報の入力
- 顧客の前回出荷と前回入荷に関する値の改訂
- 累計情報の改訂
- 出荷先情報の改訂
- その他の情報の改訂
- カテゴリ・コードの改訂
- EDI情報の改訂

## EDI需要詳細情報について

需要見出しレコードを手動で、または自動的にシステムに入力した後、40Rテーブルを更新する前に、必要に応じてEDI詳細情報の確認と変更を実行できます。EDI需要詳細情報とは、EDIメッセージ内の行品目に焦点を当てたものです。需要詳細情報には、顧客数量、顧客日付、顧客発注番号など、確定需要（受注オーダー）と計画需要（予測）の値が含まれています。この情報を使用すると、リリースを比較したり、正味変更や正味差異のレポートと処理を実行することができます。

「EDI需要詳細の処理」(W47172A)フォームから次のフォームにアクセスして、データを改訂できます。

- EDI需要詳細の改訂 (W47172B)
- EDI需要スケジュールの処理 (W47172C)
- EDI需要住所の改訂 (W47172G)
- EDI需要補足データの改訂 (W47172E)

需要詳細レコードに添付を追加することもできます。

EDI需要詳細情報の処理には、次のテーブルが使用されます。

- F47172
- F47173
- F471721
- F471722
- F471723
- F471724
- F471731

## EDI需要詳細情報の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
EDI需要見出しの処理	W47171A	「EDI受信処理」メニュー (G40R11)、「EDI受信の管理」	EDI需要見出しレコードを検索します。
EDI需要詳細の処理	W47172A	「EDI需要見出しの処理」で、レコードを検索して、「ロー」メニューの「需要詳細」を選択します。	EDI需要詳細レコードを検索します。
EDI需要詳細の改訂	W47172B	「EDI需要詳細の処理」で、「ロー」メニューの「EDI需要詳細の改訂」を選択します。	品目出荷情報、累計値、出荷先情報、その他の情報、カテゴリ・コードおよびEDI情報を入力します。

## 品目出荷情報の入力

「EDI需要詳細の改訂」フォームにアクセスします。

「出荷」を選択します。

EDI 受信の管理 - EDI需要詳細の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

レコードタイプ: 2 明細

伝票No.: 20031020 PS 00200

行No.: 1,000

タブを選択: 1-出荷

品目

品目No.:

顧客仕入先品目No.: 880401

品目の改訂: 品目改訂レベル修飾子

購買オーダー: 1234

ドック:

配送先:

モデル年式: 2004

制御No.:

カードNo.:

「EDI需要詳細の改訂」フォーム

**品目の改訂**

顧客品目の改訂レベルを識別する参照番号を入力します。

品目の相互参照では、顧客または仕入先の社外品目番号を社内の略式品目番号に変換する際、顧客側の番号だけでは不十分な場合があります。このような場合は、たとえば、顧客部品番号を品目改訂レベルと連結して使用する必要があります。これにより、顧客品目を特定できるようになります。

**顧客/仕入先品目No.**

品目に割り当てられる相互参照品目番号が表示されます。相互参照番号により、オーダー処理や印刷の際に、自社品目番号と異なる仕入先の品目番号を使用できます。

**ドック**

出荷品の出発場所または入荷品の到着場所として割り当てるドックの場所を入力します。

**配送先**

発注された商品を受け取る担当者の住所番号を入力します。発注された商品が最終出荷先(出荷先住所)に到着する前に流通センター(配送先住所)経由で処理される場合は、配送先住所が出荷先住所と異なることがあります。

**顧客の前回出荷と前回入荷に関する値の改訂**

「EDI需要詳細の改訂」フォームにアクセスします。

## 顧客値

「顧客値」を選択します。

## 単位

顧客に出荷された品目の累計数量(事前出荷通知に表示)に指定されている単位(たとえば、個数はEA)を入力します。

## 日付

品目の累計数量(事前出荷通知に表示)が顧客に出荷された日付を入力します。

## 累計情報の改訂

「EDI需要詳細の改訂」フォームにアクセスします。

### CUM 1

「CUM 1」を選択します。

**CUM数量フラグ** (累計数量フラグ) 数量が累計数量と正味数量のどちらであるかを示すコードを入力します。値は次のとおりです。

ブランク: 正味数量

1: 累計数量

## 出荷先情報の改訂

「EDI需要詳細の改訂」フォームにアクセスします。

## 出荷先

「出荷先」を選択します。

## 番号

アセンブリを識別する番号を入力します。この番号は製造順序に使用されます。

## ライン入荷場所、予約入荷ライン

顧客のEDIセット/メッセージから受信した値を入力します。この値は、自動車組立ラインにおける製品配送用の実際の入荷保管場所を識別します。

## その他の情報の改訂

「EDI需要詳細の改訂」フォームにアクセスします。

## その他

「その他」を選択します。

## 危険物分類コード

危険物のタイプを識別するために顧客が作成するコード。

## 部品リリース状況コード

顧客が部品の最終リリースを送ることを仕入先に示す、EDIトランザクション・セット/メッセージからのコードを入力します。

## 顧客による割当No.

顧客が商品に割り当てる番号を入力します。

## カテゴリ・コードの改訂

「EDI需要詳細の改訂」フォームにアクセスします。

### カテゴリ・コード

「カテゴリ」を選択します。

カテゴリ・コード01                      顧客用に予約されている3文字のカテゴリ・コード(40R/01)を入力します。

参照1                                      需要実体を識別する番号を入力します。

## EDI情報の改訂

「EDI需要詳細の改訂」フォームにアクセスします。

### EDI

「EDI」を選択します。

変換フォーマット                      送受信両方のEDITランザクションを処理するためのマッピング構造を識別する修飾子を入力します。これは、非EDITランザクションには適用されません。

処理済み明細行数                      EDITランザクションで伝送される明細行の数を入力します。オーダーや請求書当たりの合計行数などです。

バッチNo.                                バッチに自動的に割り当てられる番号を入力します。バッチ処理中に、検出された各制御(ユーザー)バッチ番号のJD Edwards EnterpriseOneランザクションに新規のバッチ番号が割り当てられます。

---

## EDI内示調整管理詳細情報の改訂

この項では、概要と次の方法について説明します。

- 内示調整管理詳細情報の改訂
- 補足データ情報の改訂
- 梱包情報の改訂
- EDI需要レコードの住所の改訂
- EDI需要レコードの連絡先情報の改訂
- 梱包情報の改訂

## EDI内示調整管理詳細情報について

EDI内示調整管理詳細情報とは、出荷と配送の日付、時間、数量に焦点を当てたものです。梱包情報、補足データ情報および住所連絡先情報を改訂できます。「EDI需要スケジュールの処理」フォーム(W47172C)から次のフォームにアクセスして、EDI需要情報を改訂できます。

- EDI需要スケジュールの改訂(W47172D)
- EDI需要梱包の改訂(W47172J)

- EDI需要住所の改訂 (W47172G)
- EDI需要補足データの改訂 (W47172E)

EDI内示調整管理詳細情報の処理には、次のテーブルが使用されます。

- F47171
- F47172
- F471721
- F471722
- F471723
- F471724
- F471731

## EDI内示調整管理詳細情報の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
EDI需要見出しの処理	W47171A	「EDI受信処理」メニュー (G40R11)、「EDI受信の管理」	EDI受信見出しレコードを検索します。
EDI需要詳細の処理	W47171B	「EDI需要見出しの処理」で、レコードを検索して、「ロー」メニューの「需要詳細」を選択します。	EDI需要詳細レコードを検索します。
EDI需要スケジュールの処理	W47172C	「EDI需要詳細の処理」で、「ロー」メニューの「需要スケジュール」を選択します。	EDI需要スケジュール・レコードを検索します。
EDI需要スケジュールの改訂	W47172D	「EDI需要スケジュールの処理」で、レコードを検索して「選択」をクリックします。	EDI内示調整管理詳細、出荷、カテゴリ・コードおよびEDI情報を改訂します。
EDI需要補足データの改訂	W47172E	「EDI需要スケジュールの処理」で、「ロー」メニューの「補足データ」を選択します。	EDI内示調整管理の補足データ情報を改訂します。
EDI需要梱包の改訂	W47172J	「EDI需要見出しの処理」で、レコードを検索して、「ロー」メニューの「需要詳細」を選択します。 「EDI需要詳細の処理」で、「ロー」メニューの「需要スケジュール」を選択します。 「EDI需要スケジュールの処理」で、レコードを検索して、「ロー」メニューの「需要梱包の改訂」を選択します。	EDI内示調整管理の梱包情報を改訂します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
EDI需要住所の改訂	W47172G	「EDI需要見出しの処理」で、レコードを検索して、「ロー」メニューの「需要詳細」を選択します。  「EDI需要詳細の処理」で、レコードを検索して、「ロー」メニューの「EDI需要住所の改訂」を選択します。	EDI需要レコードの住所を改訂します。
EDI需要連絡先名の改訂	W47172H	「EDI需要見出しの処理」で、レコードを検索して、「ロー」メニューの「需要詳細」を選択します。  「EDI需要詳細の処理」で、レコードを検索して、「ロー」メニューの「EDI需要住所の改訂」を選択します。  「EDI需要住所の改訂」で、「ロー」メニューの「連絡先の改訂」を選択します。	EDI需要レコードの連絡先情報を改訂します。
EDI需要連絡先電話番号の改訂	W47172I	「EDI需要連絡先名の改訂」で、「ロー」メニューの「連絡先番号」を選択します。	連絡先番号情報を改訂します。

## 内示調整管理詳細情報の改訂

「EDI需要スケジュールの改訂」フォームにアクセスします。

EDI 受信の管理 - EDI需要スケジュールの改訂 i ? x

OK(O) 取消(L) フォーム(E) ツール(T)

---

レコード・タイプ

伝票No.

行No.

補足行No.

---

要件	約束配送
タイプ <input type="text" value="C"/>	日付 <input type="text" value="2003/11/20"/>
頻度 <input type="text" value="D"/>	時刻 <input type="text" value="150000"/>
パターン <input type="text"/>	

「EDI需要スケジュールの改訂」フォーム

## 需要情報

「需要」を選択します。

### 頻度

需要の頻度を示す、EDITランザクション・セット/メッセージからのコードを入力します。

### パターン

需要の出荷パターンを決定するユーザー定義値(EDIメッセージ内)を入力します。たとえば、月曜日の出荷を示すには13と入力します。

## 出荷情報

「出荷」を選択します。

### 出荷日付範囲の終了日付

顧客が指定した出荷日付範囲の終了日付を入力します。たとえば、顧客は仕入先に対し、月初から月末までの間に500個を出荷するよう要求します。

## カテゴリ・コード情報

「カテゴリ」を選択します。

### カテゴリ・コード06からカテゴリ・コード10

顧客用に予約されている3文字のカテゴリ・コード(UDC 40R/06)を入力します。

## EDI情報

「EDI」を選択します。

### 変換フォーマット

送受信両方のEDITランザクションの処理に使用されるマッピング構造を識別する修飾子を入力します。これは、非EDITランザクションには適用されません。

### アップロード日付

EDITランザクションが伝送または受信された日付を指定します。

## 補足データ情報の改訂

「EDI需要補足データの改訂」フォームにアクセスします。

### 処理済み

レコードが正常に処理されたかどうかを示すには、このオプションを選択します。プログラムに応じて、テーブルのEDSPフィールドが更新されます。値は次のとおりです。

ブランク: 未処理です。

1: 正常に処理されています。

## 梱包情報の改訂

「EDI需要梱包の改訂」フォームにアクセスします。

### 標準梱包

コンテナ内の標準数量を示す数値を入力します。

### 梱包IDタイプ

品目出荷時に使用する梱包のタイプを識別するコードを入力します。

## EDI需要レコードの住所の改訂

「EDI需要住所の改訂」フォームにアクセスします。

<b>業者タイプ</b>	EDIメッセージ内の業者のタイプを識別するコードを入力します。このコードは通常、X12トランザクション・セットのN1セグメントの最初の要素です。
<b>IDタイプ</b>	ID番号のタイプを示すユーザー定義コード(40R/ID)を入力します。
<b>業者ID</b>	EDIメッセージ内の業者を識別するコードを入力します。このコードは通常、X12トランザクション・セットのN1セグメントの4番目の要素です。

## EDI需要レコードの連絡先名の改訂

「EDI需要連絡先名の改訂」フォームにアクセスします。

<b>連絡先タイプ</b>	連絡先のタイプまたは目的を識別するUDC(40R/CT)を入力します。たとえば、伝達係として、または連絡担当者としての連絡先を識別するコードを設定できます。
<b>変換フォーマット</b>	送受信両方のEDIトランザクションを処理するためのマッピング構造を識別する修飾子を入力します。これは、非EDIトランザクションには適用されません。

## 連絡先番号情報の改訂

「EDI需要連絡先電話番号の改訂」フォームにアクセスします。

<b>連絡先番号</b>	連絡先に関連付けられた英数字コードを入力します。たとえば、電話番号や電子メール・アドレスなどです。
<b>電話タイプ</b>	連絡先番号のタイプを識別するUDC(40R/PT)を入力します。たとえば、電話連絡先を表すコードを設定できます。

## EDI需要(受信)の編集/更新レポート(R47171)の実行

「EDI受信処理」メニュー(G40R11)から、「受信需要バッチ・プログラム」を選択します。

需要テーブルと累計テーブルをEDI情報で更新するには、EDI需要(受信)の編集/更新バッチ・プログラムを実行します。このプロセスは、仕入先と顧客の累計数量を比較するのに便利です。累計テーブルと需要テーブルの更新手順は次のとおりです。

1. F47171テーブルの次の情報を検証します。
  - 事業所
  - 販売先
  - 出荷先
2. F47172テーブルとF47173テーブルの次の情報を検証します。
  - 品目
  - 需要見出し
  - 需要処理相互参照
3. 顧客固有の複数のビジネス・プロセスを実行するワークフロー・プロセスを開始します。

4. EDI(47)テーブルの値で累計テーブルと需要テーブルを更新します。

このプログラムは、EDI需要データをEDIデータベース・テーブルにロードした後、フラット・ファイル変換(受信)プログラム(R47002C)から実行することもできます。

## EDI需要(受信)の編集/更新レポート(R47171)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

1. CUM調整コード
- 編集/更新(受信)(R47171)プロセスで作成または更新されたCUMレコード(F40R21)に表示されるCUM調整コード(40R/CA)を指定します。値は次のとおりです。
- AP: 自動処理
  - CI: 顧客により開始
  - CR: CUMロールバック
  - SA: 出荷調整

### バージョン

1. 需要管理(P40R10)のバージョン
- 使用する需要管理(P40R10)のバージョンを指定します。編集/更新(受信)プロセス(R47171)で、需要管理の処理オプションから特定の値が取得されます。空白にした場合、ZJDE0001が使用されます。
2. CUM調整レポート(R40R1010)のバージョン
- 使用するCUM調整(R40R1010)のバージョンを指定します。空白にした場合、レポートは実行されません。
3. 優先プロファイル(R40400)のバージョン
- 使用する優先プロファイル(R40400)のバージョンを指定します。これは、約束納入日付から要求出荷日付への変換方法を決定するために使用します。空白にした場合、ZJDE0001が使用されます。

### 処理

1. デフォルト・ワークフロー・プロセス名
- 需要ワークフロー(P40R22)でプロセス名が見つからない場合に、編集/更新(受信)プロセス(R47171)で実行するワークフロー・プロセス名を指定します。
2. 需要見出しの自動作成
- 編集/更新(受信)(R47171)プロセスで需要見出し(F40R10)レコードを自動的に作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- 空白: レコードが存在しない場合にレコードを自動作成しません。かわりに、ワーク・センターにメッセージを送信します。
- 1: レコードが存在しない場合にレコードを自動作成します。
3. 需要見出しのカテゴリ・コード1の更新
- EDI需要詳細レコード(F47172)の値でカテゴリ・コードを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- 空白: カテゴリ・コードを更新しません。
- 1: カテゴリ・コードを更新します。
4. 需要見出しのカテゴリ・コード2の更新
- EDI需要詳細レコード(F47172)の値でカテゴリ・コードを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

- ブランク: カテゴリ・コードを更新しません。  
1: カテゴリ・コードを更新します。
- 5. 需要見出しのカテゴリ・コード3の更新** EDI需要詳細レコード(F47172)の値でカテゴリ・コードを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: カテゴリ・コードを更新しません。  
1: カテゴリ・コードを更新します。
- 6. 需要見出しのカテゴリ・コード4の更新** EDI需要詳細レコード(F47172)の値でカテゴリ・コードを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: カテゴリ・コードを更新しません。  
1: カテゴリ・コードを更新します。
- 7. 需要見出しのカテゴリ・コード5の更新** EDI需要詳細レコード(F47172)の値でカテゴリ・コードを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: カテゴリ・コードを更新しません。  
1: カテゴリ・コードを更新します。
- 8. 需要詳細のカテゴリ・コード6の更新** EDI需要詳細レコード(F47172)の値でカテゴリ・コードを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: カテゴリ・コードを更新しません。  
1: カテゴリ・コードを更新します。
- 9. 需要詳細のカテゴリ・コード7の更新** EDI需要詳細レコード(F47172)の値でカテゴリ・コードを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: カテゴリ・コードを更新しません。  
1: カテゴリ・コードを更新します。
- 10. 需要詳細のカテゴリ・コード8の更新** EDI需要詳細レコード(F47172)の値でカテゴリ・コードを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: カテゴリ・コードを更新しません。  
1: カテゴリ・コードを更新します。
- 11. 需要詳細のカテゴリ・コード9の更新** EDI需要詳細レコード(F47172)の値でカテゴリ・コードを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: カテゴリ・コードを更新しません。  
1: カテゴリ・コードを更新します。
- 12. 需要詳細のカテゴリ・コード10の更新** EDI需要詳細レコード(F47172)の値でカテゴリ・コードを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: カテゴリ・コードを更新しません。  
1: カテゴリ・コードを更新します。

---

## EDI需要レコードの除去

「上級/技術的操作」メニュー(G40R31)から、「EDI需要の除去」を選択します。

処理済のEDIレコードを除去して、EDIテーブルのサイズを小さくすることができます。EDI需要の除去プログラム(R47190)は、EDI見出しレコードが正常に処理されたかどうかを判別し、見出しレコードとその子レコードをすべて削除します。



## 第 4 章

# 需要設定の処理

この章では、需要レコード、需要規則、優先情報および正味差異の概要と、次の方法について説明します。

- 内示調整管理の需要規則の設定
- 需要の相互参照
- 内示調整管理ワークフローの設定
- “需要正味差異ワークフローUBEの開始”(R40R1110)の実行
- 製品累計モデルの設定
- カートン累計モデルの設定
- 品目相互参照の設定

---

## 需要レコードについて

需要レコードには、要求、スケジュール情報、規則の管理に使用する情報、および仕入先と顧客に関するその他のデフォルト情報が保存されます。需要レコードの構成要素には次のものがあります。

### 需要規則

需要累計数量の処理を決めるための設定が含まれており、出荷プロセスにおける要求の更新方法を定義します。

### 優先情報

スケジュール時間枠日付、予測日付、許容度、梱包の丸めなどが含まれています。ビジネス要件を管理して、すべての優先情報を1つのスケジュールにリンクできます。

### 需要見出し

需要要求の特定の事業所、販売先、出荷先および品目番号に関するデフォルト情報が含まれています。一般に、需要レコードの情報は電子データ交換(EDI)を使用して自動的に作成されます。

### 需要詳細

数量、日付、顧客発注番号など、確定需要(受注オーダー)と計画需要(予測)のスケジュール情報が含まれています。

### 需要梱包

需要レコードに関連付けられた梱包情報が含まれています。

## 需要住所および連絡先

住所、連絡先名および電話番号が含まれています。

## 需要履歴

需要詳細および需要住所情報のスナップショットが含まれており、この情報をスナップショットの作成日時に基づいて区別します。

## 補足需要

標準のマスター・テーブルに含まれない情報が保存されます。補足データの例には、備考、金額、日付、コード、時刻などがあります。

## 需要非活動分析

特定の期間にわたって非活動の品目、古い品目、または処理を妨げるエラーが発生している可能性のある品目が識別されます。

需要レコードの処理には、次のテーブルが使用されます。

- F40R10
- F40R11
- F40R13
- F40R14
- F40R143
- F40R141
- F40R142
- F40R41

---

## 需要規則について

需要規則は、需要データと累計数量の処理方法、および出荷プロセスにおける要求の更新方法に影響を与えます。たとえば、需要規則を使用して次のことを実行できます。

- 顧客の週が始まる曜日を指定して、需要レコードが今週と先週のどちらに関連付けられているかを特定できるようにします。
- 非作業日の出荷日付を調整します。
- 累計出荷数量の更新時に累計数量を増加または減少させます。
- 既存の需要を、特定の出荷先レコードに関連付けられている新規の需要に置き換えます。
- 超過値または不足値を計算して、受注オーダーの作成前に需要を調整します。
- 事業所、出荷先または販売先の標準時間帯に基づいて出荷時刻と配送時刻を設定します。

需要規則は、顧客レベルまたは出荷先レベルで設定し、顧客ごとに1回だけ発生させる必要があります。

需要規則の処理には、次のテーブルが使用されます。

- F40R11

- F40R12
- F40R41
- F40R42
- F40R12WF
- F40R20
- F40R23
- F40R24

---

## 内示調整管理の優先情報について

様々なビジネス要件を処理する優先情報を設定して、すべての優先情報を1つのスケジュールにリンクできます。内示調整管理用に設定できる優先情報は次のとおりです。

### 計画制約(優先タイプ27)

受注オーダーと予測の作成時に2つの時間枠を設定できます。受注オーダー作成の対象となる需要日数を指定するには、確定出荷時間枠を設定します。予測作成の対象となる日数を指定するには、計画予測時間枠を設定します。使用する条件は、販売先、出荷先および品目です。

### 予測日付(優先タイプ28)

通常、顧客は計画需要を処理する際に1つの日付のみを送信します。予測レコードを生成するために、顧客による計画需要の送信方法を示す優先情報を設定できます。この目的では次の値が使用されます。

- 月次計算
- 予測日付の送信日
- 週の最初/最後
- 予測基準曜日

### 差異許容度(優先タイプ31)

正味差異を設定する際、次のタイプの情報の処理方法を指定します。

- 許容レベル
- 通知レベル
- 重要度インディケータ

この情報は、どのような場合に差異が重要だとみなすか、および通知を発行するかどうかを決定するのに役立ちます。たとえば、正味差異の設定が通知レベルを超えている場合に通知メッセージを送信できます。重要度インディケータは、パーセント数に重要度のランクを付与するために使用します。

### 標準梱包(優先タイプ32)

ほとんどの顧客は、標準梱包数量での品目の出荷を仕入先に要望します。たとえば、標準梱包が1カートン当たり100個の場合に、顧客が75個発注したときは、仕入先は100個出荷する必要があります。需要見出しレコードの作成時に「標準梱包」オプションが有効かどうかを指定できます。この優先情報は、「販売先」、「出荷先」および品目の値に基づいて設定します。

### 受信確認通知(優先タイプ33)

EDI受信確認メッセージは、過去に送信されたEDIメッセージ(事前出荷通知や請求書など)が受理または却下されたことを示します。通知対象となる担当者の住所録番号が表示されます。この優先情報は、「販売先」、「出荷先」、「受信確認コード」および「受信確認対象メッセージ」の値を使用して設定します。

### ASNトラッキング・ワークフロー(優先タイプ34)

一般に、ASNを受信した顧客は、ASNが受理または却下されたことを示すEDI受信確認を仕入先に戻します。EDI受信確認メッセージを受信していないことを示すメッセージを送信するまでに、ASNの戻りを待つ時間を指定するには、この優先情報を設定します。該当する住所録番号にメッセージが送信されます。この優先情報は、「販売先」と「出荷先」の値に基づいて設定します。

### メッセージ通知(優先タイプ35)

通知の送信に使用する住所録番号の指定には、この優先情報を使用します。この優先情報は、次の条件に基づいて設定できます。

- 事業所
- 販売先/出荷先
- 通知フィールド:
- 00 = 正味差異
- 01 = 受注オーダー
- 02 = 予測/計画
- 03 = INVRPT(在庫通知)
- 04 = ASN
- 05 = CUM
- 06 = 調整要求
- 07 = 受信需要
- 08 = 承認
- 09 = EDI管理

### EDI事前出荷通知(優先タイプ36)

ワークフローを実行するかどうかとメッセージの送信先を指定するには、この優先情報を使用します。この優先情報は、次の値に基づいています。

- 出荷先、販売先
- 受信確認コード
- 受信確認対象メッセージ

たとえば、「販売先」と「出荷先」のすべての値、および却下された事前出荷通知のみに対してワークフローを実行するよう優先情報を設定できます。856受信確認対象メッセージに対して受信確認コードR(却下)の受信確認を受信した場合、システムは「EDI受信確認の処理」フォーム(W47191A)の適切なレコードへのリンクを含むワークフロー・メッセージを送信します。

### ラベル処理(優先タイプ37)

事業所レベルでラベル処理を有効にするには、この優先情報を使用します。送信ラベル・データについては、F40R14テーブルから取得する業者ID(「業者タイプ1」と「業者タイプ2」の値)を指定します。業者IDの例には、仕入先コードや工場コードなどがあります。

受信ラベル・データについては、カートン再構成(P4620)のバージョン、および受注オーダー数量をカートンに自動的に割り当てるかどうかを指定します。XAPI応答を処理するサード・パーティの名前も指定する必要があります。

### ラベル・シリアル番号(優先タイプ38)

送信ラベルと受信ラベルのラベル自動採番、および受信ラベルに関する次のUCC128情報を指定するには、この優先情報を使用します。

- 会社UCCコード
- SSCC伝票会社
- SSCC伝票タイプ
- ラベル生成関数
- ラベル検証関数
- 電子製品コード(EPC)

### カートン・ラベル(優先タイプ39)

カートン・コードにラベル・シリアル番号を割り当てるかどうかを指定するには、この優先情報を使用します。「ラベル・シリアル番号」(38)優先情報またはカートン再構成(P4620)のバージョンで、ラベル番号の作成が有効になっている必要があります。この優先情報は、品目を複数のカートンに分けて梱包するが、外部カートンにのみラベルを付ける場合に便利です。

たとえば、ある品目の梱包が箱、カートンおよびパレットで構成されている場合、ラベル番号をパレットに対して生成するか、パレットとカートンに対して生成するか、パレット、カートンおよび箱に対して生成するかを指定できます。

---

## 需要正味差異について

正味差異は、ある品目の現行のオーダー数量と過去のオーダー数量とのパーセント差異です。品目レベルまたは顧客レベルで正味差異情報を指定し、予期しない需要の変化への準備に役立てることができます。たとえば、仕入先の出荷日付が近づくにつれて要求が大幅に変更された場合に、変更がオーダー数量の増加か減少かに関係なく、仕入先に警告するかどうかを指定できます。

正味差異の処理方法は、需要管理(P40R10)処理オプションの「正味差異」タブで設定します。次のタイプの情報の処理方法を指定します。

- 許容レベル
- 通知レベル
- 重要度インディケータ

正味差異を設定する際、要求出荷日付からの正味差異日数、需要期間および需要処理タイプを決定します。この情報は、どのような場合に差異が重要だとみなすか、および通知を発行するかどうかを決定するのに役立ちます。たとえば、正味差異の設定が許容レベルを超えている場合、この差異は重大な変更であるとみなされ、「需要詳細の処理」フォームと「需要詳細の改訂」フォームの「出荷」タブに正味差異と重要度ID情報が表示されます。

正味差異の設定が通知レベルを超えている場合は、変更を警告する通知メッセージを住所録に送信できます。重要度インディケータを使用すると、パーセント数に重要度のランクを付与できます。

## 内示調整管理の有効化

この項では、内示調整管理の有効化の概要と方法について説明します。

### 内示調整管理の有効化について

JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理システムを使用するには、JD Edwards EnterpriseOneで有効にする必要があります。内示調整管理を有効にすると、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システム、輸送管理システム、倉庫管理システムの間にリンクが作成されます。具体的には、受注オーダーが生成され、該当する需要情報が輸送管理システムと倉庫管理システムに渡されます。

### 内示調整管理の有効化に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
EnterpriseOneシステム・コントロールの処理	W99410A	EnterpriseOneシステム・コントロール (P99410)	内示調整管理を有効にするフォームにアクセスします。

## 内示調整管理の需要規則の設定

この項では、需要規則のフォームと処理オプション、および設定方法について説明します。

### 需要規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
需要規則の処理	W40R20A	「需要/CUM」メニュー (G40R411)、「需要規則」	需要規則を検索します。
需要規則の改訂	W40R20B	「需要規則の処理」で、「追加」をクリックします。	需要規則を設定します。

### 需要規則 (P40R20) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### デフォルト値

この処理オプションを使用して、需要規則を追加するときの情報の処理方法を指定します。

## 1. 週の開始曜日

レコード追加時に需要規則プログラム(P40R20)で使用するデフォルトの週の開始曜日(42/DW)を指定します。値は次のとおりです。

- 0: 日付機能無視
- 1: 日曜日
- 2: 月曜日
- 3: 火曜日
- 4: 水曜日
- 5: 木曜日
- 6: 金曜日
- 7: 土曜日

## 需要規則の設定

「需要規則の改訂」フォームにアクセスします。

The screenshot shows the 'Need Rule - Need Rule Modification' form. At the top, there are buttons for 'OK(O)', 'Cancel(L)', and 'Tools(T)'. Below these are input fields for 'Sales Point' (4201), 'Company' (Centarian Enterprises), and 'Business Unit' (M30). There are also fields for 'Start Day of Week' (1) and 'Shipping CUM Adjustment Code'. The main area is divided into sections: 'Need' (with tabs for 'Standard Time Band' and 'Version'), 'Adjustment Basis Before Receipt' (with radio buttons for 'Schedule Adjustment', 'Need Detail Adjustment', and 'None'), and 'Adjustment of Shipping Date Considering Non-working Days' (with radio buttons for 'No Adjustment', 'Backward Adjustment', and 'Forward Adjustment'). There are also sections for 'Cumulative Shipping Quantity' (with radio buttons for 'Increase' and 'Decrease') and 'Cumulative' (with a checkbox for 'Include current quantity in shipping CUM').

「需要規則の改訂」フォーム

### 事業所

原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。

ビジネスユニットを伝票、事業体、または個人に割り当てて、管轄別のレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別の未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの設備をトラッキングできます。

ビジネスユニットにセキュリティが設定されていると、権限のないユーザーにはビジネスユニットに関する情報が表示されない場合があります。

### 販売先

(任意)住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号を入力します。この番号は、住所録レコードに関する情報の検索および入力に使用できます。住所録番号以外の値(詳細住所、税IDなど)を入力する場合は、住所録固定情報で定義した特殊文字を先頭に付ける必要があります。レコードが検出されると、そのレコードの住所録番号がこのフィールドに表示されます。

たとえば、住所録番号4100の詳細住所がTOTALで、詳細住所を区別する記号が\*(アスタリスク)の場合、このフィールドに「\*TOTAL」と入力して検索すると、4100が表示されます。

### 出荷先

(任意)「出荷先」フィールドに入力した場合は、「販売先」フィールドにも入力する必要があります。

### 顧客週の開始曜日

顧客の週が始まる曜日を表すユーザー定義コード(UDC)(42/DW)を入力します。システムでは、古い需要レコードを削除するときに、このコードを使用して、需要レコードが今週と先週のどちらに関連付けられているかを特定します。

### 出荷用CUM調整コード(出荷用累計調整コード)

出荷プロセスで発生した調整のタイプを識別するUDC(40R/CA)を入力します。

### 出荷先需要への変更

既存の需要を、特定の出荷先レコードに関連付けられている新規の需要に置き換えるかどうかを指定するには、このオプションを選択します。このオプションを選択しない場合、既存の需要は置き換えられません。

### 受注前の調整基準

すでに出荷した数量(超過数量とも呼びます)または出荷する必要のある数量(不足数量とも呼びます)を顧客の要求と関連付けて変更することにより需要を調整できるかどうかを指定するには、このオプションを選択します。このオプションを選択した場合、受注オーダーの作成前に需要を調整できます。

### 予測前の調整基準

すでに出荷した数量(超過数量とも呼びます)または出荷する必要のある数量(不足数量とも呼びます)を顧客の要求と関連付けて変更することにより需要を調整できるかどうかを指定するには、このオプションを選択します。このオプションを選択した場合、予測レコードの作成前に需要を調整できます。

### SOを保留にする

累計出荷数量がゼロに達したときに受注オーダーを保留するかどうかを指定するには、このオプションを選択します。このオプションを選択しない場合、受注オーダーは保留されません。

---

**注意:** 累計出荷数量がゼロに達したときに受注オーダーを保留すると、実際の出荷数量と契約出荷数量との間に差異が発生します。

---

### 部分出荷された詳細レコードの除去

必要な出荷数量の一部の数量のみが出荷されたときに需要詳細レコードを削除するかどうかを指定するには、このオプションを選択します。一部の顧客は、必要数量の一部を出荷しただけで出荷が完了したとみなすことを仕入先に許可します。ただし、残りの数量の出荷を希望する場合、顧客は次のEDI伝送で数量を調整します。完全に出荷されるまで必要数量を未処理のままにしておくことを望む顧客は、調整処理も使用します。その場合、調整処理には出荷確認EDIメッセージからアクセスします。

<b>部分出荷インジケータ</b>	<p>バックオーダー需要のリリース時に需要が部分出荷として識別されるかどうかを示します。これは、受注オーダー(F4211)のプル・シグナルに設定された値Sに基づきます。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 受注オーダー(F4211)のプル・シグナルに値Sを設定しません。</p> <p>1: 受注オーダー(F4211)のプル・シグナルに値Sを設定します。</p>
<b>1つのコンテナ定義の数量</b>	<p>このフラグにより、数量1を現行品目の標準梱包数量に変換するかどうかを決定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 標準梱包に変換しません。受信数量とUOMが処理されます。</p> <p>1: 数量とUOMを現行品目の標準梱包に変換します。定義が見つからない場合、ワークフロー・メッセージが生成されます。品目の標準梱包推奨は、品目標準梱包(P460131)で定義します。</p>
<b>要求CUMへ以前の需要値を加算する(要求累計へ以前の需要値を加算する)</b>	<p>需要履歴レコードの除去プログラム(R40R094)の実行時に、削除された需要詳細の数量を「前回必要CUM」フィールドの値に追加するかどうかを指定するには、このオプションを選択します。このオプションを選択しない場合、削除された需要詳細の数量は「前回必要CUM」フィールドの値に追加されません。</p>
<b>要求CUMの変更許可(要求累計の変更許可)</b>	<p>顧客が必要とする品目の累計数量を仕入先が一時変更できるようにするには、このオプションを選択します。このオプションを選択した場合、仕入先は累計数量を一時変更できます。</p>
<b>前日CUM出荷数量の表示(前日累計出荷数量の表示)</b>	<p>前日のCUM出荷数量を船荷証券と事前出荷通知(ASN)に表示するかどうかを指定するには、このオプションを選択します。このオプションを選択しない場合、当日のみのCUM出荷数量が表示されます。</p>
<b>現行行数量を出荷済みCUMに含める(行数量を累計出荷数量に含める)</b>	<p>品目の累計出荷数量の計算時に現行の行品目の数量を含めるかどうかを指定するには、このオプションを選択します。このオプションは、船荷証券と事前出荷通知(ASN)に使用されます。</p>
<b>調整しない</b>	<p>スケジュール作成プロセスの実行時に非作業日にあたる出荷日付を調整するかどうかを指定するには、このオプションを選択します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 出荷日付は調整されません。</p> <p>1: 出荷日付が前の日付に変更されます。</p> <p>2: 出荷日付が後の日付に変更されます。</p>
<b>増加</b>	<p>CUM出荷数量の更新時にCUM数量が増加するか減少するかを指定するには、このオプションを選択します。このオプションを選択しない場合、CUM数量は増加します。</p>
<b>減少</b>	<p>CUM出荷数量の更新時にCUM数量が増加するか減少するかを指定するには、このオプションを選択します。このオプションを選択しない場合、CUM数量は増加します。</p>
<b>標準時間帯</b>	<p>「標準時間帯」を選択します。</p>
<b>事業所</b>	<p>受信した需要の出荷日付に関連付ける標準時間帯のタイプを識別するコードを入力します。日時は標準時間帯に従って調整されます。値は次のとおりです。</p>

ブランク: 事業所の標準時間帯

1: 販売先の標準時間帯

2: 出荷先の標準時間帯

### バージョン

「バージョン」を選択します。

**受注入力のバージョン** 需要スケジュールの作成プログラム (R40R010) の実行時に使用される受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを入力します。

**SO履歴抽出のバージョン** (受注オーダー履歴抽出のバージョン) 実績のリフレッシュ・プログラム (R3465) のバージョンを入力します。

## 需要の相互参照

この項では、相互参照の概要と、需要タイプに対するEDIコードの相互参照方法について説明します。

### EDI相互参照について

EDIデータをシステムに入力する際、コードを使用して要求タイプと需要頻度を識別します。要求コードはEDIシステムで広く使用されていますが、表に示すように、その使用方法は各顧客の商慣習によって異なります。

顧客	EDI	要求タイプ	需要頻度	実際の使用状況
顧客1	X.12	C	D	確定、日次
顧客1	X.12	D	D	計画、日次
顧客1	X.12	D	W	計画、週次
顧客2	X.12	C	C	確定、日次
顧客2	X.12	D	C	計画、日次
顧客2	X.12	D	W	計画、週次
顧客3	EDIFACT	1	D	確定、日次
顧客3	EDIFACT	4	D	計画、日次
顧客3	EDIFACT	4	W	計画、週次

このような相違に対処するために、要求タイプと需要頻度の組合せごとに相互参照レコードを設定する必要があります。このレコードは、需要タイプ(確定または計画)と需要頻度(日次など)を示しています。「需要タイプ」フィールドと「需要期間」フィールドを処理することで、要求が決定されます。

相互参照は、すべての事業所レコードと販売先レコードに対して、または1つの事業所のすべての販売先レコードに対して、あるいは特定の販売先レコードに対して設定できます。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 需要タイプおよび期間のUDC 40R/DTを設定します。
- 需要期間のUDC 40R/PDを設定します。

## 需要タイプに対するEDIコードの相互参照に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
需要処理相互参照の処理	W40R21A	「需要/CUM」メニュー (G40R411)、「需要相互参照」	需要相互参照レコードを検索します。
需要処理相互参照の改訂	W40R21B	「需要処理相互参照の処理」で、「追加」をクリックします。	EDIコードを需要タイプに対して相互参照します。

## EDIコードの相互参照

「需要処理相互参照の改訂」フォームにアクセスします。

「需要処理相互参照の改訂」フォーム

### 要求タイプ、需要頻度

需要のタイプと需要の頻度を示す、EDIトランザクション・セット/メッセージからのコードを入力します。

### 需要タイプ

需要が確定したものか、それとも計画であるかを示すUDC (40R/DT)を入力します。需要タイプは、需要の処理方法の指定に使用されます。

### 需要期間

需要レコードの期間を識別するUDC (40R/PD)を入力します。

## 内示調整管理ワークフローの設定

この項では、内示調整管理ワークフローの概要と設定方法について説明します。

### 内示調整管理ワークフローについて

受信需要レコードの編集および更新処理中に実行するワークフローを設定できます。受信需要処理中に実行可能なビジネス関数をすべて含むデフォルト・ワークフロー・プロセスを使用できます。デフォルト・ワークフロー・プロセスには、受信需要処理中に実行可能なすべてのビジネス関数のリストが含まれています。これらのビジネス関数のいずれかが不要な場合は、ワークフロー・プロセスを複製し、新しいワークフロー・プロセスを使用して不要なビジネス関数を追加または削除する必要があります。

需要ワークフロー管理プログラム (P40R22) では、ワークフロー・プロセスの作成や複製は行えません。指定するワークフロー・プロセスは、F98800テーブルに存在するワークフロー・プロセスであることが必要です。ただし、ワークフロー・プロセスに関する情報(ワークフロー・アクティビティなど)は、プロセス・マスター・プログラム (P98800) で処理され、他のデータベース・テーブルに保存されます。

需要ワークフロー情報はF40R22テーブルに保存されます。

### 内示調整管理ワークフローの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
需要ワークフローの処理	W40R22A	「需要/CUM」メニュー (G40R411)、「需要ワークフロー」	需要ワークフロー・レコードを検索します。
需要ワークフローの改訂	W40R22B	「需要ワークフローの処理」で、「追加」をクリックします。	内示調整管理ワークフローを設定します。

### ワークフローの設定

「需要ワークフローの改訂」フォームにアクセスします。

The screenshot shows a web form titled "需要ワークフロー - 需要ワークフローの改訂". At the top, there are navigation icons for OK, Cancel, and Help. Below the title bar, there are several input fields and labels:

- 事業所**: A dropdown menu showing "M30".
- 販売先**: An input field containing "4201".
- 出荷先**: An empty input field.
- プロセス名**: An input field containing "K47171DWF".
- Centarian Enterprises**: A label positioned between the "販売先" and "出荷先" fields.

「需要ワークフローの改訂」フォーム

#### プロセス名

(任意)プロセスの固有識別子を入力します。値を入力しない場合、次番号が割り当てられます。一度割り当てられた値は変更できません。

特定の事業所、販売先および出荷先の組合せに対してワークフローを実行しない場合は、「プロセス名」フィールドをフランクにします。それ以外の

場合は、「プロセス名」にF98800テーブルの有効なワークフロー・プロセス名を指定してください。

**注意:** 「事業所」、「販売先」および「出荷先」は任意のフィールドですが、「出荷先」に値を入力した場合は「事業所」と「販売先」にも入力する必要があります。同様に、「販売先」に値を入力した場合は「事業所」にも値が必要です。

## “需要正味差異ワークフローUBEの開始”(R40R1110)の実行

このレポートを自動的に実行するには、需要管理(P40R10)処理オプションの「バージョン」タブで「正味差異ワークフローの開始(R40R1110)のバージョン」処理オプションにバージョンを指定します。このレポートを需要レコードの特定のバッチに対して実行し、各レコードの通知レベルを超える正味差異数量を確認することができます。一致する需要詳細レコードがない場合、バッチ・プログラムは開始されません。

**注意:** “需要正味差異ワークフローUBEの開始”バッチ・アプリケーションを手動で実行するのに加えて、需要スケジュールの作成バッチ・プログラム(R40R010)を実行する場合は、R40R1110を先に実行してください。設定によっては、需要スケジュールの作成プログラムで需要詳細レコードが削除されます。

正味差異ワークフロー情報の処理には、F40R11テーブルが使用されます。

## 製品累計モデルの設定

この項では、製品累計モデルの概要と設定方法について説明します。

### 製品累計モデルについて

この情報のトラッキング方法は顧客によっても事業所レコードによっても異なる場合があるため、事業所別にトラッキングするのか、事業所および販売先別にトラッキングするのか、事業所、販売先および出荷先別にトラッキングするのかを指定できます。さらに、顧客がトラッキングするのは出荷先に固有の情報か、顧客発注番号に固有の情報か、3つの定義済フィールドの任意の組合せに固有の情報かも指定できます。

たとえば、顧客が出荷先とモデル年式のレベルで累計数量をトラッキングするとします。このタイプのモデルを設定するには、「出荷先」オプションを使用し、モデル年式に関連付けられたユーザー定義コード(UDC)をユーザー・フィールド1に入力します。

各累計モデル組合せを複数の累計レコードに関連付けることができます。累計レコードは、CUMの管理プログラム(P40R12)を使用して設定した異なる顧客品目番号で区別されます。

次の表は、4つのサンプル・モデルの相違をまとめたものです。表に続いて、累計情報をトラッキングするように各モデルを設定する方法の例を示します。

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4
販売先	GM	GM	Ford	Ford
出荷先		Livonia		Wixom
CUMをトラッキング	はい	はい	はい	はい

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4
出荷先ごとにトラッキング		はい	はい	はい
顧客発注番号ごとにトラッキング		はい		
ユーザー定義フィールド1	モデル年式			モデル年式
ユーザー定義フィールド2				ドック
ユーザー定義フィールド3				

販売先、出荷先、顧客発注番号およびユーザー定義フィールドを任意に組み合わせて設定できるモデルの組合せは無限に存在します。

### モデル1

このモデルでは、「販売先」と「モデル年式」の値のみを使用してGMの累計情報がトラッキングされます。「販売先」、「ユーザー定義フィールド・タイプ」および「モデル年式」の値を組み合わせた各レコードを、累計モデル組合せと呼びます。各ローは、情報がトラッキングされる別々の累計モデル組合せを示しています。

販売先	ユーザー定義フィールド1のタイプ	ユーザー定義フィールド1
GM	モデル年式	2001
GM	モデル年式	2000
GM	モデル年式	1999

### モデル2

このモデルは、販売先、出荷先および顧客発注番号を使用して、出荷先がLivoniaの場合のGM用に設定されています。

販売先	出荷先	顧客発注番号
GM	Livonia	123
GM	Livonia	456

### モデル3

このモデルでは、「販売先」と「出荷先」の値を使用して累計レコードがトラッキングされます。ただし、モデル2とは異なり、出荷先が指定されていません。このモデルは、それぞれ異なる販売先/出荷先モデル組合せをトラッキングするのに便利です。

販売先	出荷先
Ford	Novi
Ford	Canton
Ford	1/2

**注意:** 特定の出荷先住所用に設定したモデルは、様々な出荷先住所用に設定したモデルより優先されません。

#### モデル4

このモデルは、Ford WixomがFordの大半の出荷先住所で使用されるモデル(モデル3で説明したもの)とは異なるモデルを使用して累計情報をトラッキングできることを示しています。販売先、出荷先、モデル年式およびドックごとのトラッキングが可能です。モデルの組合せは次のとおりです。

販売先	出荷先	ユーザー定義 フィールド1のタイプ	ユーザー定義 フィールド1	ユーザー定義 フィールド2のタイプ	ユーザー定義 フィールド2
Ford	Wixom	モデル年式	2001	ドック	13
Ford	Wixom	モデル年式	2001	ドック	10
Ford	Wixom	モデル年式	2000	ドック	13
Ford	Wixom	モデル年式	2000	ドック	10

### 製品累計モデルの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
製品CUMモデルの処理	W40R23A	「需要/CUM」メニュー (G40R411)、「製品CUMモデル」	累計レコードを検索します。
製品CUMモデルの改訂	W40R23B	「製品CUMモデルの処理」で、「追加」をクリックします。	製品CUMモデルを設定します。

### 製品CUMモデルの設定

「製品CUMモデルの改訂」フォームにアクセスします。

「製品CUMモデルの改訂」フォーム

**CUMトラッキング（累計トラッキング）**

品目の累計数量をトラッキングするかどうかを指定するには、このオプションを選択します。このオプションを選択しない場合、累計数量はトラッキングされません。

**注意:** 製品CUMモデルは、CUMをトラッキングするかどうかにかかわらず設定する必要があります。

**出荷先**

(任意) CUM数量を出荷先レベルでトラッキングするかどうかを指定するには、このオプションを選択します。このオプションを選択しない場合、CUM数量は出荷先レベルでトラッキングされません。

**顧客発注No.**

CUM数量を顧客発注番号ごとにトラッキングするかどうかを指定するには、このオプションを選択します。このオプションを選択しない場合、CUM数量は顧客発注番号ごとにトラッキングされません。

**フィールド・タイプ**

(任意) CUMレコードのトラッキングに使用されるUDC (40R/UF)を入力します。

## カートン累計モデルの設定

この項では、カートン累計モデルの概要と設定方法について説明します。

## カートン累計モデルについて

カートン累計モデルを設定すると、出荷対象製品に固有のカートン要素をトラッキングおよび識別するのに役立ちます。カートン累計モデルは、「販売先」と「出荷先」の値を使用してモデルを区別する目的に限定されています。

各累計モデル組合せを複数の累計レコードに関連付けることができます。累計レコードは、CUMの管理プログラム(P40R12)を使用して設定した異なる顧客品目番号で区別されます。

次のモデルが示すように、「販売先」と「出荷先」のいずれかの値を使用して累計情報をカートン・レベルでトラッキングできます。

販売先または出荷先	モデル1	モデル2	モデル3
販売先	GM	GM	Ford
出荷先		Livonia	
CUMをトラッキング	はい	はい	はい
出荷先ごとにトラッキング		はい	はい

### モデル1

モデル1では、販売先住所によって、GMがカートン累計情報をトラッキングすることを指定できます。販売先とカートンの組合せごとに、別々のレコードがトラッキングされます。

### モデル2

このモデルでは、GM Livoniaの情報が他のすべての住所の情報とは別にトラッキングされます。

販売先	出荷先
GM	Livonia

### モデル3

このモデルでは、販売先と出荷先の住所ごとに情報がトラッキングされます。販売先、出荷先およびカートンの組合せごとに、新規のレコードが作成されます。

販売先	出荷先
Ford	Wixom
Ford	Novi
Ford	1/2

## 事前設定

カートンが品目として設定されていることを確認します。

## カートン累計モデルの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
カートンCUMモデルの処理	W40R24A	「需要/CUM」メニュー (G40R411)、「カートンCUMモデル」	累計レコードを検索します。
カートンCUMモデルの改訂	W40R24B	「カートンCUMモデルの処理」で、「追加」をクリックします。	カートンCUMモデルを設定します。

## カートンCUMモデルの設定

「カートンCUMモデルの改訂」フォームにアクセスします。

The screenshot shows a web form titled "カートンCUMモデル - カートンCUMモデルの改訂". At the top right, there are icons for help, search, and refresh. Below the title bar, there are buttons for "OK(O)", "Cancel(L)", and "Tools(T)". The main content area has a light blue background and contains the following elements:

- A "事業所コード" (Company Code) field with the value "M30".
- A "販売先" (Sales Point) field with the value "4201" and the name "Centarian Enterprises".
- An "出荷先" (Shipping Point) field with the value "420101" and the name "RoadMax, Inc.".
- A section titled "カートン" (Carton) containing two checkboxes:
  - CUMトラッキング (CUM Tracking)
  - 出荷先 (Shipping Point)

「カートンCUMモデルの改訂」フォーム

**CUMトラッキング** (累計トラッキング)

品目の累計数量をトラッキングするかどうかを指定するには、このオプションを選択します。このオプションを選択しない場合、累計数量はトラッキングされません。

**出荷先**

(任意)CUM数量を出荷先レベルでトラッキングするかどうかを指定するには、このオプションを選択します。このオプションを選択しない場合、CUM数量は出荷先レベルでトラッキングされません。

## 品目相互参照の設定

この項では、品目相互参照の概要と、相互参照の管理方法について説明します。

## 品目相互参照について

在庫管理の一環として、社内の品目情報と仕入先/顧客の品目情報の関係を定義できます。また、品目に関連付けられた代替品目、置換品目、バーコードを設定することも可能です。相互参照では、自社の品目番号と他社の品目番号を関連付けます。品目相互参照プログラム(P4104)を使用すると、このような関係をJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムで管理できます。たとえば、顧客が自社の品目番号を使用して品目を発注したとします。その顧客用に品目相互参照プログラムが設定されていれば、その品目番号を社内の対応する番号に簡単に変換できます。

相互参照品目の例は次のとおりです。

- 仕入先品目番号  
オーダーやコミュニケーションに仕入先の部品番号を使う場合に使用します。
- 顧客品目番号  
顧客側の部品番号で発注できるようにする場合に使用します。
- 代替品目  
発注された品目が在庫切れの場合に使用します。
- 置換品目  
自社または仕入先が品目の生産を中断し、新しい品目と置き換える場合に使用します。
- バーコード  
特定の品目とバーコードを関連付ける場合に使用します。
- 関連品目  
販売品目の一部として他の関連品目を推奨する場合に使用します。

EDI用の相互参照を設定する場合は、取引先が伝送する可能性のある番号をすべて相互参照する必要があります。

## 事前設定

品目相互参照を設定する前に、定義する相互参照タイプに対してUDCテーブル41/DTを設定します。

## 品目相互参照の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
品目相互参照の処理	W4104A	「上級/技術的操作」(G4731)、「品目相互参照」 「品目相互参照の処理」で、相互参照タイプと住所番号を入力し、「検索」をクリックします。	相互参照テーブルの品目に対して設定した相互参照をすべて確認します。EDI取引先に対して設定した品目だけでなく、すべてのビジネスユニットのすべての品目を確認できます。
住所別品目相互参照の改訂、品目別品目相互参照の改訂	W4104C	「上級/技術的操作」(G4731)、「品目相互参照」 「品目相互参照の処理」フォームで、品目を検索して「選択」をクリックします。「住所別品目相互参照の改訂」フォームと「品目別品目相互参照の改訂」フォームのどちらが表示されるかは処理オプションの設定によります。	品目番号と取引先の品目番号の間の相互参照を定義および管理します。

## 相互参照の管理

「住所別品目相互参照の改訂」フォームまたは「品目別品目相互参照の改訂」フォームにアクセスします。

### 相互参照タイプ

顧客に設定した相互参照タイプを識別するUDC 41/DTの値を入力します。

**注意:** このフィールドは必ず入力してください。

### 品目番号

品目に割り当てられる番号を入力します。略式、詳細形式、第3品目番号形式があります。

**注意:** このフィールドは必ず入力してください。

### 住所番号

顧客または仕入先の住所番号を入力します。

**注意:** このフィールドは必ず入力してください。

### 相互参照品目No.

品目に割り当てられる相互参照品目番号を入力します。相互参照番号により、オーダー処理や印刷の際に、自社品目番号と異なる仕入先の品目番号を使用できます。この番号は、品目相互参照プログラム(P4104)で設定します。

**注意:** このフィールドは必ず入力してください。

### 有効日付

取引、契約、義務、優先情報、ポリシー規則が有効になる日付を入力します。

### 有効期限

取引、テキスト・メッセージ、契約、義務、優先情報が失効または完了する日付を入力します。

**相互参照記述**

品目に関する備考を入力します。

**顧客/仕入先品目改訂レベル**

改訂レベルを表す数値を入力します。



## 第 5 章

# 手動で作成された需要見出しレコードの処理

この章では、需要レコードの概要と、次の方法について説明します。

- 需要見出しレコードの手動作成
- 需要詳細レコードの改訂
- 需要レコードの住所および連絡先情報の入力
- 内示調整管理の補足データベース情報の入力
- 需要履歴レコードの確認
- 需要履歴レコードの除去

---

## 手動で作成された需要見出しレコードについて

一般に、需要レコードの情報は電子データ交換(EDI)を使用して自動的に作成されます。需要見出しレコードを手動で作成し、「需要見出しの処理」を使用して既存の需要レコードを検索し、エントリを改訂または削除することもできます。累計情報や日付、時刻、添付など、特定の顧客に関する情報を確認できます。

次に示す様々な需要管理フォームおよびアプリケーションの間で移動することも可能です。

- 需要詳細の処理(W40R10D)
- CUMの管理(P40R12)
- 需要履歴(P40R41)
- 需要住所(P40R14)
- 補足データ(F00092)

---

**注意:** 見出しレコードが存在しない場合は、需要詳細レコードの作成時に需要見出しレコードが自動的に作成されます。

需要見出しレコードの作成時に需要見出しの添付を追加できます。そのためには、「フォーム」メニューの「需要見出しの添付」を選択します。「需要見出し添付フォームの表示」処理オプションで、レコード作成時に「メディア・オブジェクト」フォームを自動的に表示するかどうかを指定することもできます。

---

## 需要見出しレコードの手動作成

この項では、事前設定、フォーム、および需要見出しレコードの手動作成方法について説明します。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- カテゴリ・コード1から10(40R/01から40R/10)と重要度インディケータ(40R/CI)のUDCが設定されていることを確認します。
- 需要管理処理オプション(P40R10)を設定して、需要レコードの処理方法を指定します。たとえば、レコード作成時に表示するフォーム、需要処理に使用するバージョン、正味差異処理の値などの情報を指定できます。

## 需要見出しレコードの手動作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
需要見出しの処理	W40R10A	「需要/CUM」メニュー (G40R12)、「需要見出しの管理」	需要見出しレコードを検索します。
需要見出しの改訂	W40R10B	「需要見出しの処理」で、「追加」をクリックします。	需要見出しレコードを手動で作成します。

## 需要見出しの管理(P40R10)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

この処理オプションを使用して、需要管理レコードを追加するときの情報の処理方法を指定します。

- 1. スケジュールの作成**

需要情報の変更後に需要スケジュールの作成(R40R010)を実行するかどうかを指定します。このバッチ・アプリケーションの実行時には、需要管理(P40R10)処理オプションの「処理」タブで「スケジュールの作成」処理オプションに指定したバージョンが使用されます。値は次のとおりです。

ブランク: しない  
1: する
- 2. 需要見出し添付フォームの表示**

需要見出しレコードの追加後に需要見出しの添付フォームを自動的に表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 画面を表示しません。  
1: 画面を表示します。
- 3. 需要見出し補足データ・フォームの表示**

需要見出しレコードの追加後に需要見出し補足データのフォームを自動的に表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 画面を表示しません。  
1: 画面を表示します。
- 4. 需要見出し住所フォームの表示**

需要見出しレコードの追加後に需要見出し住所フォームを自動的に表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 画面を表示しません。  
1: 画面を表示します。

- 5. 需要詳細フォームの表示** 需要見出しレコードの追加後に需要詳細フォームを自動的に表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 画面を表示しません。  
 1: 画面を表示します。
- 6. 需要詳細添付フォームの表示** 需要詳細レコードの追加後に需要詳細の添付フォームを自動的に表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 画面を表示しません。  
 1: 画面を表示します。
- 7. 需要詳細補足データ・フォームの表示** 需要詳細レコードの追加後に需要詳細補足データのフォームを自動的に表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 画面を表示しません。  
 1: 画面を表示します。
- 8. 需要梱包フォームの表示** 需要詳細レコードの追加後に需要詳細梱包フォームを自動的に表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 画面を表示しません。  
 1: 画面を表示します。
- 9. 需要詳細住所フォームの表示** 需要詳細レコードの追加後に需要詳細住所フォームを自動的に表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 画面を表示しません。  
 1: 画面を表示します。
- 10. 状況の編集許可** 製造順序固有のフィールドである「プル・シグナル」、「製造順序用の作業 No.」、「作業順序 No.」、「カード No.」、「配送バッチ No.」、「品目改訂レベル」、「品目改訂レベル修飾子」、「IPP タグ」、「IPP 理由コード」が変更できなくなり、コントロールが無効になる受注オーダー一次状況。  
 ブランク: すべてのフィールドが無効になります。

## バージョン

この処理オプションを使用して、需要管理レコードの追加時に使用されるプログラムのバージョンを指定します。

- 1. スケジュールの作成 (R40R010) のバージョン** 需要スケジュールの作成プログラム (R40R010) のバージョンを指定します。
- 2. 正味差異ワークフローの開始 (R40R1110) のバージョン** “需要正味差異ワークフロー UBE の開始” (R40R1110) のバージョンを指定します。
- 3. 補足需要詳細 (P00092) のバージョン** 補足需要詳細 (P00092) のバージョンを指定します。
- 4. 補足需要見出し (P00092) のバージョン** 補足需要見出し (P00092) のバージョンを指定します。
- 5. CUM 管理 (P40R12) のバージョン** CUM の管理 (P40R12) のバージョンを指定します。

- |                                     |                                  |
|-------------------------------------|----------------------------------|
| <b>6. 品目標準梱包 (P460131) のバージョン</b>   | 品目標準梱包 (P460131) のバージョンを指定します。   |
| <b>7. 標準梱包カートン推奨 (P4615) のバージョン</b> | 標準梱包カートン推奨 (P4615) のバージョンを指定します。 |

## 正味差異

- |                                 |   |
|---------------------------------|---|
| <b>1. 重要度インディケータ<br/>範囲の最小値</b> | 需要管理 (P40R10) のUDCデフォルト値 (40R/CI) を指定します。重要度インディケータは、需要詳細レコードにとって数量の変更がどの程度重要かを示すユーザー定義の値です。                      |
| <b>2. 重要度インディケータ<br/>範囲の最大値</b> | 需要管理 (P40R10) のUDCデフォルト値 (40R/CI) を指定します。重要度インディケータは、需要詳細レコードにとって数量の変更がどの程度重要かを示すユーザー定義の値です。                      |
| <b>3. 正味差異の計算</b>               | 以前のリリース間で需要詳細レコードを比較するときに正味差異を計算するかどうかを示します。値は次のとおりです。<br>ブランク: しない<br>1: する                                      |
| <b>4. 正味差異の通知</b>               | 正味差異が最大差異を超えているときに詳細優先情報での定義に従って通知を受け取るかどうかを指定します。正味差異とは、2つのリリース間での需要詳細レコードの差異です。値は次のとおりです。<br>ブランク: しない<br>1: する |

## 需要見出しレコードの手動作成

「需要見出しの改訂」フォームにアクセスします。

需要見出しの管理 - 需要見出しの改訂

需要見出しの処理 需要見出しの改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

需要見出し カテゴリ・コード

販売先 4201 Centarian Enterprises 事業所 M30

出荷先 420101 RoadMax, Inc.

品目 No. 8801 Rear View Mirror

顧客品目 No.

デフォルト顧客発注 No.

デフォルト品目改訂 No.

前回出荷 ID

確定標準梱包数量への変更

計画標準梱包数量への調整

前回顧客入荷数量

数量 0 単位

日付

時刻 0

前回顧客出荷数量

数量 0 単位

日付

時刻 0

「需要見出しの改訂」フォーム

**顧客品目 No.**

(任意)品目に割り当てられる相互参照品目番号を入力します。相互参照番号により、オーダー処理や印刷の際に、品目番号と異なる仕入先の品目番号を使用できます。この番号は、品目相互参照プログラム(P4104)で設定します。

**デフォルト顧客発注 No.**

(任意)顧客発注が入力されていない場合に需要詳細レコードで使用されるデフォルト顧客発注を表す番号を入力します。この番号は、受注オーダーまたは一括受注オーダーの参照としても使用されます。

**デフォルト品目改訂 No.**

(任意)EDITランザクション・セットまたはメッセージから取得される番号を入力します。この改訂レベルは、F4101テーブルで設定された品目の改訂レベルに基づいています。この番号は手動で入力できます。

**仕入先部品 No.**

(任意)仕入先の部品を識別する番号を入力します。この番号は一般に、EDIメッセージで顧客から送信されます。

**前回出荷 ID**

(任意)顧客が受け取った前回出荷を識別する番号を入力します。

**確定標準梱包数量への変更**

確定数量を標準カートンの梱包数量に切り上げるかどうかを指定するには、このオプションを選択します。たとえば、このオプションを選択したとします。標準梱包数量を1カートン当たり500個としている顧客が出荷数量を475個に減らすことを要求した場合でも、仕入先は500個出荷する必要があります。

### 計画標準梱包数量への調整

詳細優先情報を設定して、需要見出しレコードが自動的に作成された場合にこのオプションをデフォルトで有効にするかどうかを指定できます。これは、詳細優先情報名の改訂プログラム(P4071)を使用して設定します。

計画数量を標準カートンの梱包数量に切り上げるかどうかを指定するには、このオプションを選択します。たとえば、標準梱包数量を500個としている顧客が475個の出荷を要求した場合、仕入先は500個出荷する必要があります。このオプションを空白にすると、確定数量は標準カートンの梱包数量に切り上げられません。

詳細優先情報を設定して、需要見出しレコードが自動的に作成された場合にこのオプションをデフォルトで有効にするかどうかを指定できます。これは、詳細優先情報名の改訂プログラム(P4071)を使用して設定します。

## 需要詳細レコードの改訂

この項では、需要詳細レコードおよびラベル情報の概要と、次の方法について説明します。

- 需要詳細情報の追加
- 出荷明細の改訂
- EDI需要詳細情報の改訂
- その他の需要詳細情報の改訂
- 出荷先情報の改訂
- プル・シグナル情報の改訂
- 需要詳細のカテゴリ・コードの改訂

### 需要詳細レコードについて

需要見出しレコードを手動で、または電子データ交換(EDI)を通じて自動的にシステムに入力した後、必要に応じて詳細情報の確認と変更を実行できます。需要詳細情報には、数量、日付、顧客発注番号など、確定需要(受注オーダー)と計画需要(予測)の値が含まれています。この情報を使用すると、リリースを比較したり、正味変更や正味差異のレポートと処理を実行することができます。

需要詳細レコードは、「要求出荷日付」、「要求出荷時刻」、「顧客発注番号」、「需要処理」、「需要期間」、「プル・シグナル」、「作業番号」、「作業順序No.」の各フィールドに基づいて区別します。

要求出荷日付	要求出荷時刻	需要タイプ	需要期間	数量
07/05	00:00:00	確定	日次	500
07/05	00:00:00	計画	週次	2500
07/05	00:00:00	計画	月次	15000

需要見出しレコードが存在しない場合は、需要詳細レコードの作成時に自動的に作成されます。

「需要詳細の改訂」フォームから、次の需要管理フォームおよびアプリケーションにアクセスできます。

- 需要管理(P40R10)

- CUMの管理 (P40R12)
- 需要履歴 (P40R41)
- 需要住所 (P40R14)
- 需要梱包 (P40R13)
- 次のラベル・データを送信します (W40R10F)
- 詳細添付

需要レコードの処理には、次のテーブルが使用されます。

- F40R10
- F40R11
- F40R13
- F40R14
- F40R143
- F40R141
- F40R142
- F40R41
- F00092

## ラベル情報について

ラベル情報を送信すると、需要詳細ローの送信ラベル情報が取得されます。需要に対して受注オーダーが作成され、出荷に割り当てられている場合は、出荷情報が取得されます。

ラベル情報の処理には、F40R11テーブルが使用されます。

## 需要詳細レコードの改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
需要詳細の処理	W40R10D	「需要/CUM」メニュー (G40R12)、「需要詳細の管理」	需要詳細レコードを検索します。
需要詳細の改訂	W40R10E	「需要詳細の処理」で、「追加」をクリックします。	需要詳細情報を追加し、出荷情報やEDI、出荷先、カテゴリ・コードなどの各種詳細を改訂します。
需要梱包の改訂	W40R13B	「需要詳細の処理」で、レコードを検索して、「ロー」メニューの「需要梱包」を選択します。	需要梱包情報を改訂します。
次のラベル・データを送信します	W40R10F	「需要詳細の処理」で、レコードを検索して、「ロー」メニューの「ラベルの印刷」を選択します。	ラベル情報を送信します。

## 需要詳細情報の追加

「需要詳細の改訂」フォームにアクセスします。

「需要詳細の改訂」フォーム

### 出荷

「出荷」を選択します。

### 需要タイプ

需要が確定したものか、それとも計画であることを示すUDC (40R/DT)を入力します。需要タイプは、需要の処理方法の指定に使用されます。

### 需要期間

需要レコードの期間を識別するコード(40R/PD)を入力します。

### EDI

「EDI」を選択します。

### 番号

顧客のリリースを識別する番号を入力します。

### 日付

顧客がリリースに指定する日付を入力します。この日付は、リリースを識別するためにリリース時刻と組み合わせて使用されます。

### 単位

品目が顧客に対して前回出荷されたときの単位を入力します。

見出しレコードが存在しない場合は、自動的に作成されます。

**注意:** 需要詳細レコードの作成時に需要詳細の添付を追加できます。そのためには、「ロー」メニューの「需要詳細の添付」を選択します。「需要詳細添付フォームの表示」処理オプションで、レコード作成時に「メディア・オブジェクト」フォームを自動的に表示するかどうかを指定することもできます。「フォーム」メニューの「需要見出しの添付」を選択しても需要見出しレコードを追加できます。

## 出荷明細の改訂

「需要詳細の改訂」フォームにアクセスします。

### 出荷

「出荷」を選択します。

<b>数量</b>	顧客が出荷を要求した品目の数量を入力します。
<b>単位</b>	CS(ケース)、BX(箱)のように、表示される在庫品目の数量単位を示すUDC(00/UM)を入力します。
<b>ドックID</b>	出荷品の出発場所または入荷品の到着場所として割り当てるドックの場所を入力します。
<b>配送先</b>	発注された商品を受け取る担当者の住所番号を入力します。発注された商品が最終出荷先(出荷先住所)に到着する前に流通センター(配送先住所)経由で処理される場合は、配送先住所が出荷先住所と異なることがあります。
<b>EDI</b>	
	「EDI」を選択します。
<b>タイプ</b>	EDIメッセージのタイプを示す、EDIトランザクション・セット/メッセージからのコードを入力します。
<b>サブセット</b>	EDIトランザクションまたはメッセージの第2名称を入力します。
<b>名称</b>	EDIFACTメッセージのEDI X.12トランザクション・セットの名称を入力します。たとえば、830やDELFORなどです。
<b>目的</b>	トランザクション・セットの目的を識別するコード(47/PU)を入力します。このテーブルの第2記述の最初の文字は、トランザクションの処理方法を制御します。ANSI X.12のデータ項目353を参照してください。
<b>開始</b>	スケジュール期間の開始日を示す日付を入力します。たとえば、顧客が6月と7月について8週間の要求を発行した場合、計画期間開始日付は06/01です。
<b>終了</b>	スケジュール期間の終了日を示す日付を入力します。たとえば、顧客が6月と7月について8週間の要求を発行した場合、計画期間終了日付は07/31です。
<b>タイプ</b>	需要のタイプを示す、EDIトランザクション・セット/メッセージからのコードを入力します。
<b>頻度</b>	需要の頻度を示す、EDIトランザクション・セット/メッセージからのコードを入力します。

<b>需要パターン</b>	需要の出荷パターンを決定するユーザー定義値(EDIメッセージ内)を入力します。たとえば、月曜日の出荷を示すには13を入力します。
<b>その他</b>	
「その他」を選択します。	
<b>契約番号</b>	特定の契約を識別するために会社が割り当てる固有の番号を入力します。 契約とは、法律上の強制力を持つ約束として定義されたもので、オファー、同意、考慮事項、主題の適法性、当事者の遂行能力などの要素が含まれている必要があります。契約番号にはなんらかの意味を持たせることができます(契約タイプ・コード、州、年など)。1つの契約に複数の補足条項(フィールドGSUP)を作成して、補遺や変更を記録できます。
<b>顧客オーダー番号</b>	オーダーを識別する顧客割当参照番号を入力します。
<b>危険物分類コード</b>	危険物のタイプを識別するために顧客が作成するコードを入力します。
<b>労務時間</b>	オーダー・サイクルにおける作業時間数を入力します。
<b>部品リリース状況コード</b>	顧客が部品の最終リリースを送ることを仕入先に示す、EDIトランザクション・セット/メッセージからのコードを入力します。
<b>テキスト参照No.</b>	EDIメッセージに含めて、テキストをEDIメッセージ・タイプ864に関連付ける番号を入力します。
<b>顧客による割当番号</b>	顧客が商品に割り当てる番号を入力します。
<b>取消数量</b>	受注オーダーまたは作業オーダー処理で取り消された数量を入力します。入力時の単位か、品目に定義された基本単位を使用します。 製造管理では、現在までの仕損数量になる場合もあります。
<b>受注オーダー作成状況</b>	受注オーダー作成およびスケジュール作成のプロセス全体を通じて需要レコードの状況のトラッキングに使用されるコードを入力します。値は次のとおりです。 ブランク: 受注オーダー作成用の需要レコードがまだ送信されていません。 0: 需要レコードが正常に処理されました。 1: 処理する需要レコードが送信されました。 2: 処理中にエラーが発生しました。 3: 需要レコードが正常に処理され、スケジュール時間枠から外れました。
<b>出荷先</b>	
「出荷先」を選択します。	
<b>番号</b>	アセンブリを識別する番号を入力します。この番号は製造順序に使用されます。
<b>アセンブリ・ライン入荷場所</b>	顧客のEDIセット/メッセージから受信した値を入力します。この値は、自動車組立ラインにおける製品配送用の実際の入荷保管場所を識別します。
<b>予約入荷ライン</b>	顧客のEDIセット/メッセージから受信した値を入力します。この値は、自動車組立ラインにおける製品配送用の実際の入荷保管場所を識別します。

<b>アセンブリ・ライン内の場所</b>	顧客の生産ライン内の保管場所を識別するコードを入力します。
<b>経路</b>	アセンブリ・ライン上で商品が集められる一連の地点を表すコードを入力します。
<b>サフィックス</b>	商品が集められる一連の地点を識別する、EDITランザクション・セット/メッセージからのサフィックスを入力します。
<b>日付</b>	品目を顧客に納入する日付を入力します。
<b>時刻</b>	納入の約束時刻を入力します。24時間制のフォーマット(HHMMSS)を使用して時刻を入力します。たとえば、午前6:00は060000、午後7:00は190000と入力します。

### プル・シグナル - 順序設定

「プル・シグナル - 順序設定」を選択します。

<b>かんぱん開始No.</b>	荷受人がかんぱんカードに割り当てる開始番号(参照番号の範囲内)を入力します。
<b>かんぱん終了No.</b>	荷受人がかんぱんカードに割り当てる終了番号(参照番号の範囲内)を入力します。

### カテゴリ・コード - 参照No.

「カテゴリ・コード - 参照No.」を選択します。

<b>需要コード</b>	顧客用に予約されている3文字のカテゴリ・コード(UDC 40R/06)を入力します。
<b>参照No.</b>	需要実体を識別する番号を入力します。

### エンジニアリング・タグ

「エンジニアリング・タグ」を選択します。

<b>エンジニアリング・タグ</b>	事前出荷通知(ASN)に表示される初回生産部品(IPP)タグを識別する番号を入力します。企業では通常、設計変更や新規仕入先などの理由で新しい部品が出荷されることを示すためにIPPタグを使用します。タグ番号は、仕入先のシステムの外部で生成され、可能なかぎりスキャンによってASN用に入力されます。仕入先は、IPPタグを特定のカートンのシリアル番号に関連付け、変更された部品の初回出荷に添付します。
<b>エンジニアリング・タグ理由コード</b>	事前出荷通知(ASN)に表示される初回生産部品(IPP)タグに関連付けられた理由を識別するコードを入力します。企業では通常、設計変更や新規仕入先などの理由で新しい部品が出荷されることを示すためにIPPタグを使用します。

## 需要梱包情報の改訂

「需要梱包の改訂」フォームにアクセスします。

需要詳細の管理 - 需要梱包の改訂 i ?

需要詳細の処理 **需要梱包の改訂**

OK(O) 取消(L) 前 次 ツール(T)

---

梱包数量

梱包IDタイプ

返却可能コンテナNo.

**梱包**

標準梱包

単位  個

**重量**

梱包重量

単位

「需要梱包の改訂」フォーム

一般に、梱包情報はEDIを通じて送信されるもので、ASNまたはバーコード・システムで必要になる販売先梱包指示を含んでいます。梱包情報を改訂するためには、需要レコードの需要詳細内に特定の販売先、出荷先および品目番号が必要です。

**梱包IDタイプ** 品目出荷時に使用する梱包のタイプを識別するコードを入力します。

**標準梱包** コンテナ内の標準数量を示す数値を入力します。

**単位** CS(ケース)、BX(箱)など、表示される在庫品目の数量単位を示すUDC(00/UM)を入力します。

## ラベル情報の送信

「次のラベル・データを送信します」フォームにアクセスします。

需要詳細の管理 - 次のラベル・データを送信します

OK(O) 取消(L) ツール(T)

次の送信ラベル・データを送信するには、「OK」をクリックします。

事業所	M30	
需要タイプ	P	計画需要
需要期間	W	週次
販売先No.	4201	Centarian Enterprises
出荷先	420101	RoadMax, Inc.
顧客発注番号		
品目No.	8801	Rear View Mirror
要求出荷日付	2004/01/05	
要求出荷時刻	0	

「次のラベル・データを送信します」フォーム

**需要タイプ** 需要が確定したものか、それとも計画であるかを示すコードを入力します。需要タイプは、需要の処理方法の指定に使用されます。

**需要期間** 需要レコードの期間を識別するコード(40R/PD)を入力します。

## 需要レコードの住所および連絡先情報の入力

この項では、住所および連絡先情報の概要と、次の内容について説明します。

- 需要住所情報
- 需要連絡先情報
- 需要連絡先電話番号情報

### 需要レコードの住所および連絡先情報について

内示調整管理に固有の住所録および連絡先情報を入力し、この情報を需要見出しレベルまたは需要詳細レベルで保存することができます。これらの住所を使用して、異なるタイプの関係者を表します。たとえば、需要住所によって購買担当者、販売担当者、運送業者、伝達係、中継地点などを表すことができます。

入力する需要住所ごとに、連絡担当者や本社伝達係としての連絡先情報、および電話連絡先情報を追加できます。

**注意:** 需要管理(P40R10)処理オプションでは、「処理」タブの「需要見出し住所フォームの表示」処理オプションと「需要詳細住所フォームの表示」処理オプションを使用して、需要見出しレコードまたは需要詳細レコードの追加時に需要見出し住所フォームまたは需要詳細住所フォームを自動的に表示するかどうかを指定できます。

需要住所および連絡先情報はF40R14テーブルに保存されます。事業所や顧客番号などの共通の住所を住所録システムと相互参照することもできます(該当する場合)。

## 需要レコードの住所および連絡先情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
需要見出しの処理	W40R10A	「需要/CUM」メニュー (G40R12)、「需要見出しの管理」	需要見出しレコードを検索します。
需要住所の処理	W40R14A	「需要見出しの処理」で、レコードを検索して、「ロー」メニューの「需要住所」を選択します。	需要住所レコードを検索します。
需要住所の改訂	W40R14B	「需要住所の処理」で、「追加」をクリックします。	需要住所情報を入力します。
需要連絡先の改訂	W40R141B	「需要住所の処理」で、レコードを検索して、「ロー」メニューの「需要連絡先」を選択します。	連絡先情報を入力します。
需要連絡先電話番号の改訂	W40R141A	「需要連絡先の改訂」で、「ロー」メニューの「需要連絡先の電話番号」を選択します。	連絡先電話番号情報を入力します。

### 需要住所情報の入力

「需要住所の改訂」フォームにアクセスします。

需要詳細の管理 - 需要住所の改訂 i ? M

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(D)

業者タイプ  運送業者

業者ID

IDタイプ  D-U-N-S

業者名

業者名1

業者名2

需要住所 1

需要住所 2

市町村

州地域

郵便番号

国  米国

郡

「需要住所の改訂」フォーム

<b>業者タイプ</b>	EDIメッセージ内の業者のタイプを識別するコードを入力します。このコードは通常、X12トランザクション・セットのN1セグメントの最初の要素です。
<b>IDタイプ</b>	ID番号のタイプを示すUDC(40R/ID)を入力します。
<b>業者ID</b>	EDIメッセージ内の業者を識別するコードを入力します。このコードは通常、X12トランザクション・セットのN1セグメントの4番目の要素です。

## 需要連絡先情報の入力

「需要連絡先の改訂」フォームにアクセスします。

<b>連絡先タイプ</b>	連絡先のタイプまたは目的を識別するUDC(40R/CT)を入力します。たとえば、伝達係として、または連絡担当者としての連絡先を識別するコードを設定できます。
<b>連絡先名</b>	コール元、顧客、その他の連絡先の名前を入力します。
<b>連絡先ID</b>	連絡先名に関連付けられた英数値を入力します。

## 需要連絡先電話番号情報の入力

「需要連絡先電話番号の改訂」フォームにアクセスします。

<b>電話タイプ</b>	連絡先番号のタイプを識別するUDC(40R/PT)を入力します。たとえば、電話連絡先を表すコードを設定できます。
<b>連絡先番号</b>	連絡先に関連付けられた英数字コードを入力します。たとえば、電話番号や電子メール・アドレスなどです。

---

## 内示調整管理の補足データベース情報の入力

この項では、内示調整管理で使用される補足データベース情報の入力の概要について説明します。

### 内示調整管理の補足データベース情報の入力について

補足データを使用して、標準のマスター・テーブルに含まれない情報を保存します。補足データの例には、備考、金額、日付、コード、時刻などがあります。内示調整管理の場合、定義済テキストと定義済時刻を保存できます。

需要管理プログラム(P40R10)の補足データベースに設定した情報には、「需要見出しの処理」(W40R10A)フォームと「需要詳細の処理」(W40R10D)フォームからしかアクセスできません。

補足データは、需要見出しレベルまたは需要詳細レベルで保存できます。補足データ・コードには次のものがあります。

- DH(需要見出し)
- DD(需要詳細)

補足データの処理には、次のテーブルが使用されます。

- F00091

- F00092

## 需要履歴レコードの確認

この項では、需要履歴の概要と、需要履歴レコードの確認方法について説明します。

### 需要履歴レコードについて

システムでは、需要詳細および需要住所情報のスナップショットが管理され、スナップショットの作成日時に基づいてこの情報が区別されます。需要履歴プログラム(P40R41)は照会専用です。F40R41テーブルに書き込まれた履歴レコードは変更できません。

### 需要履歴レコードの確認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
需要履歴の処理	W40R41C	「需要/CUM」メニュー (G40R21)、「需要履歴」	需要履歴レコードを検索します。
需要履歴照会	W40R41D	「需要履歴の処理」で、レコードを検索して「選択」をクリックします。	需要履歴を確認します。

### 需要履歴の確認

「需要履歴照会」フォームにアクセスします。

需要履歴 - 需要履歴照会 [?] [i]

取消(L) フォーム(F) ツール(T)

タブを選択: 1-出荷

販売先No.	4201	事業所	M30
出荷先	420101	Centarian Enterprises	
品目No.	8801	RoadMax, Inc.	
顧客品目No.	880101	Rear View Mirror	

需要タイプ	P	計画需要
需要期間	W	逐次

正味差異	.000
重要度ID	

要求出荷	数量	1250
	単位	EA 個
	日付	2004/01/05 から 2004/01/09
	時刻	0

顧客発注番号		モデル年式1	0
品目改訂レベル			
品目改訂レベル修飾子			
カードNo.			
ドックID			
配送先			

実際出荷	番号	
	数量	
	日付	
	時刻	0

「需要履歴照会」フォーム

注意: このフォームは参照専用です。

## 需要履歴レコードの除去

この項では、需要履歴除去の概要と方法について説明します。

### 需要履歴除去について

「処理」タブの処理オプションを使用して、除去された情報を保管するかどうかを指定できます。補足データ情報は保管されません。

次のテーブルの情報が除去されます。

- F40R41
- F40R143
- F00092

### 需要履歴の除去

「上級/技術的操作」メニュー(G40R31)、「需要履歴の除去」。



## 第 6 章

# 内示調整管理の累計情報の処理

この項では、内示調整管理の累計情報の概要と、次の方法について説明します。

- 累計レコードの改訂
- 累計履歴の確認
- 超過数量と不足数量の計算
- 累計(CUM)ロールバックを使用した累計値のリセット

---

## 内示調整管理の累計情報について

累計処理を使用して、購買一括オーダーの開始日から将来の特定の日付までの商品の累計数量に関する現行の要求および予測要求を伝達できます。たとえば、年累計入荷数量、必要数量および出荷数量に関する通知の送信と受信が可能です。

累計レコードを利用すると、次のタイプのタスクを実行できます。

- 製品モデルまたはカートン・モデルを使用して累計情報をトラッキングします。
- 累計出荷数量の値を増分または減分します。
- 超過値と不足値を計算します。
- 累計レコードを手動で追加、更新または削除します。
- 累計履歴を表示します。
- 指定した日付に累計レコードをリセット(ロールバック)します。

累計データは、EDI需要(受信)の編集/更新プログラム(P47171)を使用して自動的に、またはCUMの管理プログラム(P40R12)を使用して手動で作成できます。内示調整管理の累計情報の処理には、次のテーブルが使用されます。

- F40R12
- F40R42
- F40R12WF
- F40R20
- F40R23
- F40R24

## 累計レコードの改訂

この項では、累計レコードの概要と、次の方法について説明します。

- 見出し情報の入力
- 累計情報の改訂

### 累計レコードについて

一般に、累計情報は需要(受信)の編集/更新バッチ・プログラム(R47171)によって、EDIメッセージからシステムに自動的に入力されます。ただし、CUMの管理プログラム(P40R12)を使用すれば、累計レコードを確認して、手動で調整できます。不足している情報の入力、情報の更新、添付の追加などが可能です。累計レコードの変更はF40R42テーブルに自動的に書き込まれます。

次のタイプの情報を改訂できます。

- 顧客と仕入先の出荷累計
- 確定要求累計(受注オーダーに表示される、顧客の必要数量)
- 計画要求累計(予測レコードに組み込まれる数量)
- 顧客が入荷した数量
- 製造承認累計数量(仕入先が製造を承認された部品の数量)
- 資材累計数量(仕入先が完成品の製造用に購買を承認された原材料の数量)
- 累計ロールバック情報
- 出荷累計正味調整情報
- 添付

累計レコードには2種類の添付を追加できます。一方の添付は累計レコードに、もう一方の添付は履歴レコードにリンクできます。

処理オプションを設定して、「CUMの改訂」フォームのタブにある各種フィールドへの値の入力を許可するかどうかを指定できます。

### 累計レコードの改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
CUMの処理	W40R12A	「需要/CUM」メニュー (G40R12)、「CUMの管理」	累計レコードを検索します。
CUMの改訂	W40R12B	「CUMの処理」で、「追加」 をクリックします。	累計レコードの見出し情報 を入力します。  出荷累計、確定要求累計 または計画要求累計、製 造順序など、様々なタイ プの累計情報を改訂します。

### 累計レコードの見出し情報の入力

「CUMの改訂」フォームにアクセスします。

**CUMの管理 - CUMの改訂** i ?

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

事業所

販売先  Centarian Enterprises

顧客/仕入先品目No.

出荷先  RoadMax, Inc.

顧客発注番号  CUM調整コード

ユーザー・フィールド値 1

ユーザー・フィールド値 2

ユーザー・フィールド値 3

製品CUM  カートンCUM

更新時刻

タブを選択:

仕入先	顧客
数量 <input type="text" value="0"/>	数量 <input type="text" value="0"/>
日付 <input type="text"/>	日付 <input type="text"/>
時刻 <input type="text" value="0"/>	時刻 <input type="text" value="0"/>

「CUMの改訂」フォーム

**CUM調整コード**（累計調整コード）

調整のタイプを識別するUDC(40R/GA)を入力します。レコードを更新する場合、このフィールドは必須です。この値が、CUMの管理(P40R12)処理オプションの「処理」タブで指定した5つの「必須添付調整コード」処理オプションのいずれかである場合、「OK」をクリックすると、テキストまたは添付を追加するための「メディア・オブジェクト・ビューア」フォームが表示されます。

**フィールド・タイプ1**

CUMレコードのトラッキングに使用されるUDC(40R/UF)を入力します。

**ユーザー・フィールド値1**

「CUMユーザー・フィールド・タイプ1」フィールドを識別するUDC(40R/UF)を入力します。F40R11テーブルの累計数量のトラッキング方法を指定するには、このコードを使用します。

**製品CUM**（製品累計）、  
**カートンCUM**（カートン累計）

CUMレコード・タイプが製品かカートンかを示すコードを入力します。値は次のとおりです。

ブランク: 製品

1: カートン

## 累計情報の改訂

「CUMの改訂」フォームにアクセスします。

## 確定 - 前回必要CUM

「確定 - 前回必要CUM」タブを選択します。

**数量** 確定タイプ(862、DELJITなど)のEDIメッセージに対する現行リリースの前に顧客が必要とする累計数量を入力します。

この数量は、「出荷CUM」タブの仕入先の数量と組み合わせて、超過/不足計算の数量の決定に使用されます。

**開始日付、終了日付** 日付範囲の開始日付と終了日付を入力します。これらの日付は、確定タイプ(862、DELJITなど)のEDIメッセージに対する現行リリースの前に顧客が必要とする累計数量に関連付けられています。

## 出荷CUM

「出荷CUM」タブを選択します。

**数量** 販売先または出荷先の場所に対して出荷された累計数量を入力します。

**日付** 顧客への出荷が出荷済であると確認された日付を入力します。出荷確認時に、受注明細テーブル(F4211)がこの日付で更新されます。

**時刻** 実際の出荷時刻を入力します。24時間制のフォーマット(HHMMSS)を使用して時刻を入力します。たとえば、午前6:00は060000、午後7:00は190000と入力します。

## 製造累計情報

「製造CUM」タブを選択します。

**数量** 顧客が仕入先に製造を承認した品目の合計数量を入力します。顧客は、承認した数量が揃う前に製造プロセスを中止したかどうかにかかわらず、承認した数量全体について仕入先に支払う必要があります。

**開始日付、終了日付** 顧客が仕入先に製造を承認した品目の合計数量に関連付けられている開始日付と終了日付を入力します。

**数量** 顧客が仕入先に製造を承認した品目の現在までの最大合計数量を入力します。顧客は、承認した数量が揃う前に製造プロセスを中止したかどうかにかかわらず、承認した数量全体について仕入先に支払う必要があります。

**リリース日付** 顧客が仕入先に製造を承認した入荷済品目の現在までの最大合計数量を入力します。顧客は、承認した数量が揃う前に製造プロセスを中止したかどうかにかかわらず、承認した数量全体について仕入先に支払う必要があります。

**リリースNo.** EDIトランザクション・セット/メッセージを識別する、顧客が生成した番号を入力します。

## その他の情報

「その他」タブを選択します。

**単位** 顧客に出荷された品目の累計数量(事前出荷通知に表示)に指定されている単位(たとえば、個数はEA)を入力します。

出荷番号	出荷を一意に識別する次番号を入力します。
参照番号	累計値を識別する番号を入力します。
出荷CUM正味調整（出荷累計正味調整）	CUM出荷数量に加えられた数量変更を表す番号を入力します。

## 累計履歴の確認

この項では、累計履歴の概要と、累計履歴レコードの確認方法について説明します。

### 累計履歴について

累計レコードを検索して選択し、特定の品目の累計履歴プロファイルを確認することができます。一般に、累計履歴を確認するのは顧客と仕入先の間で生じた差異の原因を調査するためです。

**注意:** CUM履歴プログラム (P40R42) は照会専用です。

### 累計履歴の確認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
CUM履歴の処理	W40R42A	「需要/CUM」メニュー (G40R20)、「CUM履歴」	累計履歴レコードを検索します。 レコードの添付も確認できます。そのためには、レコードを選択し、「ロー」メニューの「CUM調整添付」を選択します。
CUM履歴照会	W40R42B	「CUM履歴の処理」で、レコードを選択して「選択」をクリックします。	累計履歴を確認します。

### 累計履歴レコードの確認

「CUM履歴照会」フォームにアクセスします。

CUM履歴 - CUM履歴照会

CUM履歴の処理 CUM履歴照会

取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(D)

販売先 4201 Centarian Enterprises 事業所 M30

顧客/仕入先品目No. 4201/8801

出荷先 420101 RoadMax, Inc. CUM調整コード CI

顧客発注番号 1

ユーザー・フィールド値 1

ユーザー・フィールド値 2

ユーザー・フィールド値 3

製品CUM カートンCUM

タブを選択: 1-出荷CUM

仕入先		顧客	
数量	0	数量	0
日付		日付	
時刻	0	時刻	0

「CUM履歴照会」フォーム

**顧客/仕入先品目No.**

品目に割り当てられる相互参照品目番号を入力します。相互参照番号により、オーダー処理や印刷の際に、自社品目番号と異なる仕入先の品目番号を使用できます。この番号は、品目相互参照プログラム(P4104)で設定します。

## 超過数量と不足数量の計算

スケジュールの作成時に、仕入先からの出荷が過剰か、不足しているか、過不足なしかを判別できます。この数量を計算するには、累計必要数量から累計出荷数量を差し引きます。数量がプラスの場合、仕入先はスケジュールより遅れています(出荷不足)。数量がマイナスの場合、仕入先はスケジュールより進んでいます(過剰出荷)。差異数量がゼロの場合、仕入先はスケジュールどおりです。

**注意:** 超過値や不足値は表示されません。CUMの管理プログラム(P40R12)を使用して「出荷CUM」と「必要CUM」の値を確認し、手動で計算を実行します。

## CUMの管理(P40R12)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

調整コードのタイプを指定します。

**1. 調整コード**

CUMの管理プログラム(P40R12)のデフォルトCUM調整コードを指定します。デフォルトのUDC(40R/GA)値は次のとおりです。

AP: 自動処理

CI: 顧客により開始

CR: CUMロールバック

SA: 出荷調整

**表示**

この処理オプションでは、「CUMの改訂」フォームのタブへの情報の入力を許可するかどうかを指定します。

**1. 出荷CUMタブへの入力許可**

CUMの管理(P40R12)の「出荷CUM」タブへのアクセスを許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 「出荷CUM」タブへのアクセスを許可しません。

0: 「出荷CUM」タブへのアクセスを許可しません。

1: 「出荷CUM」タブへのアクセスを許可します。

**2. 必要CUMタブへの入力許可**

CUMの管理(P40R12)の「必要CUM」タブへのアクセスを許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 「必要CUM」へのアクセスを許可しません。

0: 「必要CUM」へのアクセスを許可しません。

1: 「必要CUM」へのアクセスを許可します。

**3. 入荷CUMタブへの入力許可**

CUMの管理(P40R12)の「入荷CUM」タブへのアクセスを許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 「入荷CUM」タブへのアクセスを許可しません。

0: 「入荷CUM」タブへのアクセスを許可しません。

1: 「入荷CUM」タブへのアクセスを許可します。

**4. 製造CUMタブへの入力許可**

CUMの管理(P40R12)の「製造CUM」タブへのアクセスを許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 「製造CUM」タブへのアクセスを許可しません。

0: 「製造CUM」タブへのアクセスを許可しません。

1: 「製造CUM」タブへのアクセスを許可します。

**5. 資材CUMタブへの入力許可**

CUMの管理(P40R12)の「資材CUM」タブへのアクセスを許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 「資材CUM」タブへのアクセスを許可しません。

0: 「資材CUM」タブへのアクセスを許可しません。

1: 「資材CUM」タブへのアクセスを許可します。

**処理**

この処理オプションでは、必須添付の調整コードを指定します。

1. 必須添付調整コード  
1 から5
- ここで入力した調整コードと同じ調整コードを持つCUMレコードを入力または変更したときに添付フォームを自動的に表示するかどうかを指定します。デフォルトのUDC(40R/CA)値は次のとおりです。
- AP: 自動処理  
CI: 顧客により開始  
CR: CUMロールバック  
SA: 出荷調整

---

## CUMロールバックを使用した累計値のリセット

この項では、CUMロールバックの概要、事前設定、および累計値のリセットに使用するフォームについて説明します。

### CUMロールバックについて

累計ロールバックを使用して、増分された値の累計数量を自動的にゼロにリセットできます。累計値をリセットすると、各品目の現行累計値が更新され、期間開始日以降に発生したすべてのアクティビティが反映されます。更新された値は、「CUMの改訂」フォームの「出荷CUM」タブ、「確定 - 前回必要CUM」タブ、「計画 - 前回必要CUM」タブおよび「製造順序 - 前回必要CUM」タブの該当するフィールドに表示されます。

累計ロールバックを使用する場合は、累計モデル組合せに基づいて一連のレコードを手動で選択し、値をロールバックします。どの日付まで情報をリセットするか、どの調整コードをロールバックに含めるかを指定します。

ロールバックの詳細を確認できます。選択したモデル内の累計レコードがすべて表示されます。「CUMロールバック詳細」フォームで詳細を確認する際には、情報は更新できません。このレポートはテストモードでも実行できます。

値をリセットすると、ロールバックCUMプログラム(R40R020)が実行されます。これにより、累計値がゼロにリセットされ、出荷CUMおよび必要CUMのフィールドについて調整済の値が計算されます。

CUMロールバック(P40R421)処理オプションを、レポートが実行されるように設定すると、「レポート出力先」フォームが表示されます。レポートの出力先を指定して、「OK」をクリックします。

### 例: CUMロールバックの計算

累計情報の計算時には、次の処理が行われます。

1. 増分されたすべての累計数量をゼロにリセットします。
2. 選択済の出荷調整コード(SA)と手動調整コード(CI)を含むすべてのレコードについて、ロールバック日付以降に発生したすべての出荷CUM調整数量を追加することで、CUM出荷数量の値を計算します。
3. 次の2つの計算式を使用して必要CUMの値を計算します。
  - 調整数量 = 現行の出荷CUM: 計算した出荷CUM
  - 調整済の必要CUM = 前回の必要CUM: 調整数量

## 事前設定

ロールバック・コードUDC(40R/RC)を設定します。これにより、累計値のリセット時に必要な数の調整コードを使用できるようになります。

## CUMロールバックを使用した累計値のリセットに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
CUMロールバック	W40R421A	<p>「需要/CUM」メニュー (G40R21)、「CUMロールバック」</p> <p>レコードを選択し、「ロー」メニューの「ロールバックに含める」を選択します。</p>	<p>有効な累計モデルを検索します。</p> <p>累計値をリセットするには、「フォーム」メニューの「ロールバックCUM」を選択します。</p> <p>レコードを含めるローをダブルクリックすることもできます。レコードの横に、そのレコードがロールバック・プロセスに含まれることを示すチェック・マークが表示されます。</p> <p>ロールバック・プロセスに含めるすべてのレコードを選択するには、「フォーム」メニューの「すべてを含める」を選択します。</p>



## 第 7 章

# 確定需要の処理

この章では、確定需要、出荷および計画スケジュール、時間枠日付、予測計画の概要と、次の内容について説明します。

- 内示調整管理受注オーダーの作成
- 需要展開の設定
- 需要展開テンプレートの作成

---

## 確定需要について

確定需要要求とは、将来の特定の期間に必要とされる資材の需要です。確定需要のレコードの作成時および処理時には、この情報を使用して、要求、スケジュールと時間枠の情報、規則、および仕入先と顧客に関するその他のデフォルト情報が管理されます。

たとえば、計画スケジュールを作成すると、計画需要または確定需要を取得できます。その際に、データが受注オーダーとして処理されるか、予測レコードとして処理されるかは、時間枠によって決まります。カートン、ラベル、出荷および通知の処理方法を指定したり、レポートを実行して需要情報を分析することもできます。

---

## 出荷および計画スケジュールについて

需要スケジュールの作成 (R40R010) を実行すると、需要データベースと累計データベースに保存された情報に基づいて出荷および計画スケジュールが作成されます。これらのスケジュールを使用して、計画需要または確定需要を取得できます。その際に、データが受注オーダーとして処理されるか、予測レコードとして処理されるかは、時間枠によって決まります。さらに、需要詳細レコードに対して、超過/不足数量の計算、標準梱包への丸め、「受注オーダー作成状況」フィールド (CRTSOST) の更新が実行されます。

需要詳細レコードの識別には、累計IDが使用されます。次の表は、スケジュール処理の際にレコードがどのように選択されるかをまとめたものです。

累計トラッキング方法	処理
販売先レベル	(「出荷先」フィールドが空白の場合)「販売先」フィールドに関連付けられている累計レコードごとに、そのレコードの累計IDに関連付けられている需要詳細がすべて処理されます。

累計トラッキング方法	処理
販売先および出荷先レベル	販売先と出荷先に関連付けられている累計レコードごとに、そのレコードの累計IDに関連付けられている需要詳細がすべて処理されます。
なし	顧客(事業所、販売先、出荷先の組合せ)が累計情報を計算しない場合、累計IDを持たない需要見出しレコードの需要詳細がすべて処理されます。

累計数量を自動的に減分して、累計出荷数量を減らすことができます。累計出荷数量は契約数量で始まり、数量がゼロに達するまで出荷数量の分だけ減っていきます。この値がゼロに達した場合、顧客は累計出荷数量が調整されるまで、この時点より後に受け取ったすべてのオーダーを保留できます。

出荷および計画スケジュールの処理には、次のテーブルが使用されます。

- F40R20
- F40R10
- F40R11
- F40R23
- F40R12

## 標準梱包計算について

一般に、仕入先が顧客に対して製品を出荷するときは、合意済の標準梱包に従う必要があります。標準梱包とは、顧客が希望する1梱包当たりの個数です。ほとんどの場合、顧客が標準梱包に達しない数を発注したときでも、仕入先は標準梱包の数量に切り上げる必要があります。出荷が既定の数量で行われることを確認し、受注オーダーと予測数量を既定の数量に従って調整することができます。

システムでは、「要求出荷数量」の値と「事業所」、「販売先」および「出荷先」の値を使用して、出荷数量が実際に標準梱包を満たしているかどうかを判別されます。「要求出荷数量」の値が標準梱包数量の倍数でない場合、要求出荷数量は最も近い標準梱包数量の倍数に切り上げられます。この数量は、「出荷数量」の新しい値として表示されます。

## 時間枠日付について

スケジュール時間枠と優先情報を使用して、新規リリースと変更済数量のレコードの管理方法を制御できます。確定出荷時間枠は、受注オーダー作成の対象となる需要日数を示します。計画予測時間枠は、予測作成の対象となる需要日数を示します。

システムでは、予測リリースと出荷スケジュールを受信すると、トランザクションとメッセージを解釈し、需要詳細レコードを作成します。各レコードは、計画または確定として識別され、日次、週次、月次のうちいずれかの期間インディケータが設定されます。

優先情報と時間枠設定に基づいて需要レコードが識別され、受注オーダーの作成または更新、あるいは予測の作成が行われます。使用される日付は、計画期間開始日付、確定出荷時間枠日付および計画予測時間枠日付です。

たとえば、受注オーダーの作成に使用される確定需要の日数(計画期間開始日付からの日数)を指定できます。計画期間開始日付が1月1日で、時間枠が6日間の場合、1月7日までの受注オーダーが作成されます。顧客から計画期間開始日付(HZSD)が伝送されていない場合は、「リリース日付」フィールド(RLSDJ)をこの目的で使用できます。

確定出荷時間枠を超える確定需要は参照用です。この需要は、受注オーダーや予測の生成には使用されません。

計画時間枠の場合、予測の生成に使用される計画需要の計画期間開始日付からの日数が識別されます。計画需要から受注オーダーは作成されません。計画予測時間枠を超える計画需要は参照用となります。

### 例: 時間枠日付の計算

この例は、受注オーダーと予測レコードが時間枠日付に基づいてどのように作成されるかを説明したものです。EDIスケジュール、計画および出荷伝票(830および862)からデータを自動的に受信したとします。

計画期間開始日付: 2000/07/10

需要詳細:

07/10	500	計画	週次
07/10	100	確定	日次
07/11	100	確定	日次
07/12	100	確定	日次
07/13	100	確定	日次
07/14	100	確定	日次
07/17	1000	計画	週次
07/17	200	確定	日次
07/18	200	確定	日次
07/19	200	確定	日次
07/24	1000	計画	週次

出荷CUM: 1000

確定 - 前回必要Cum: 1000

計画 - 前回必要Cum: 1000

### シナリオ1

最初の3日間の確定需要について受注オーダーが作成され、残りの確定需要については受注オーダーは作成されません。

時間枠	日数	受注オーダー	予測				
確定出荷	3日間	07/10	100	日次	07/10	500	週次
計画予測	999日間	07/11	100	日次	07/17	1000	週次
		07/12	100	日次	07/24	1000	週次

すべての計画需要について、予測レコードが作成されます。

### シナリオ2

最初の5日間の確定需要について受注オーダーが作成され、残りの確定需要は破棄されます。

時間枠	日数	受注オーダー	予測				
確定出荷	5日間	07/10	100	日次	07/10	500	週次
計画予測	8日間	07/11	100	日次	07/17	1000	週次
		07/12	100	日次			
		07/13	100	日次			
		07/14	100	日次			

計画の最初の8日間について、予測レコードが作成されます。

## 予測計画日付について

顧客の需要を予測するには、予測日付が使用されます。情報は、顧客が指定した日付に基づいて、自動的に予測へと流れます。予測日付は、日、週または月に基づいて設定できます。この情報の計算には、特定の期間の開始日付と終了日付、および期間内の作業日数が使用されます。

顧客は独自の方法で日付を生成し、伝達します。たとえば、日付が月初または月末、あるいは週の特定の曜日にあたることがあります。顧客から計画レコードを受信し、開始日付および終了日付に変換して、予測を作成できるようにするには、詳細優先情報で需要予測日付(タイプ28)を指定します。

この優先情報には、週の開始日付と終了日付を決める規則、および需要計算値が含まれています。次の表で、これらの値について説明します。

需要計算規則	説明
0: カレンダー月(デフォルト)	顧客はカレンダー月を使用します。常に、月初はその月の初日、月末はその月の末日です。部分月がサポートされます。

需要計算規則	説明
1: 曜日の発生	受信した日付は、特定の月の開始日付または終了日付を表します。たとえば、月の第2火曜日を表す開始日付を受信した場合、すべての月が第2火曜日に始まります。同様に、終了日付が第3土曜日の場合、すべての月が第3土曜日に終わります。
2: 曜日アンカー	アンカー規則は、日曜日から土曜日までを表す0から6の値として設定します。この規則では、アンカー曜日が最初に発生した週をカレンダー月の第1週とする計画期間が定義されます。計画期間を4週間または5週間とすることで、計画期間を確実にアンカー規則に一致させます。値は次のとおりです。  0: 日曜日 1: 月曜日 2: 火曜日 3: 水曜日 4: 木曜日 5: 金曜日 6: 土曜日
3: 期間パターン月	会計期間パターンでは、計画カレンダー日付の詳細が定義されます。受信した日付に基づき、会計期間パターンを使用して月の開始日付と終了日付が検索されます。

### 例: 予測計画日付の計算

月次計算では、どの月も前の月が終わった次の日に始まると想定されます。同様に、どの月も次の月が始まる前の日に終わります。したがって、ある月の終了日付を計算するには、翌月の開始日付を特定して1日戻ればよいこととなります。

週次計算では、どの週も開始日の6日後に終わると想定されます。同様に、どの週も終了日の6日前に始まります。

開始日付および終了日付の規則を使用してカレンダー計算または週の計算を行う場合に考えられるシナリオを次の表に示します。

カレンダー月、月末日付の計算	カレンダー月を使用し、顧客から月初日付を受信します。月末日付は、カレンダー月の末日として計算されます。
カレンダー月、月初日付の計算	カレンダー月を使用し、顧客から月末日付を受信します。月初日付は、カレンダー月の初日として計算されます。
曜日の発生、月末日付の計算	開始日付の基準となるのは、曜日と、その曜日が月のどの週に発生するかです。顧客から月初日付を受信します。月末日付は、翌月の開始日付を特定して1日戻るという方法で計算されます。

曜日の発生、月初日付の計算	終了日付の基準となるのは、曜日と、その曜日が月のどの週に発生するかです。顧客から月末日付を受信します。月初日付は、前月の終了日付を特定して1日加えるという方法で計算されます。
アンカー月、月末日付の計算	曜日アンカーを月の基準とし、顧客から月初日付を受信します。月末日付は、翌計画月の開始日付を特定して1日戻るという方法で計算されます。翌計画月の開始日付は、そのカレンダー月の開始日付を特定し、アンカーとなる曜日が最初に発生するのはいつかを調べるという方法で計算されます。
アンカー月、月初日付の計算	曜日アンカーを月の基準とし、顧客から月末日付を受信します。計画月の開始日付は、そのカレンダー月の開始日付を特定し、アンカーとなる曜日が最初に発生するのはいつかを調べるという方法で計算されます。
週日付範囲	週の開始日付と終了日付を使用します。終了日付を特定するには6日を加え、開始日付を特定するには6日を差し引きます。
会計期間パターン月、終了日付の計算	受信した日付を会計期間パターンと併用し、その期間の会計期間パターンに設定された値に基づいて終了日付を特定します。この場合は、会計期間の末日が終了日付として使用されます。
会計期間パターン月、開始日付の計算	受信した日付を会計期間パターンと併用し、その期間の会計期間パターンに設定された値に基づいて開始日付を特定します。この場合は、会計期間の初日が開始日付として使用されます。

## 内示調整管理受注オーダーの作成

この項では、内示調整管理受注オーダーの概要と、需要スケジュールの作成 (R40R010) の実行方法について説明します。

### 内示調整管理受注オーダーについて

需要受注オーダーとは、需要スケジュールの作成プログラム (R40R010) の実行時に生成される受注オーダーです。作成または更新された受注オーダーは、顧客のスケジュールに応じるために出荷する必要のある品目を反映しています。需要受注オーダーに対する変更は、需要管理プログラム (P40R10) を使用して行う必要があります。

このレポートを使用して、次のタイプの処理を実行できます。

- 需要受注オーダーまたは需要予測の作成と更新
- 計画時間枠または確定時間枠の計算
- 超過/不足数量の計算
- 標準梱包への丸めの計算

この情報の計算と処理を行う方法およびタイミングを指定するには、データ選択を使用します。たとえば、時刻によるスケジュール（通常は日次EDIメッセージが処理されて需要テーブルに保存された後）を指定したり、このアプリケーションを需要ビジネス関数の処理終了後に自動的に実行するか、メニューから手動で実行するかを指定することができます。

**注意:** システムでは、削除済の需要レコードを処理するために、受注オーダーの入力項目が削除されます。「処理」タブで「F4211出荷日付と出荷時刻の更新」処理オプションを空白にした場合、取り消されていない残りの受注オーダー行の「約束出荷日付」フィールドと「約束出荷時刻」フィールドは更新されません。

1と入力すると、需要情報の削除が原因で受注オーダー行が取り消されたときに、取り消されていない受注オーダー行の出荷時刻がゼロに更新されます。

需要受注オーダーは需要IDに基づいて認識されます。需要IDとは、オーダーを元の内示調整管理レコードにリンクするものです。さらに、需要受注オーダーは、受注オーダー入力アプリケーション(P4210)で確認可能な他の需要関連フィールドを使用して、元の内示調整管理レコードにリンクされます。

**注意:** 内示調整管理でレコードの「需要ID」フィールドに値が入力されている場合、または内示調整管理(40R)システムが有効になっていない場合には、「受注オーダー入力 - 追加情報」フォーム(W4210B)の需要フィールドは無効になります。

次の値の組合せを使用して需要受注オーダーを作成できます。

- 事業所
- 販売先
- 出荷先
- 約束出荷日付
- 約束出荷時刻
- 顧客発注番号

受注オーダーが作成または変更されると、オーダーのトラッキングと出荷の作成のために出荷とカートン推奨も自動的に作成または変更されます。

バックオーダーされた受注オーダー行を除外する場合、バックオーダーされた行が存在すれば最初にすべて除外されます。次に、バックオーダーされた数量の最も少ない行が処理されます。バックオーダーされた行が存在しない場合、あるいはバックオーダーされた行がすべて調整され取り消されている場合は、バックオーダーされていない行のうち数量の最も少ないものが最初に処理されます。

## 需要スケジュールの作成(R40R010)の実行

「需要/CUM」メニュー(G40R12)、「需要スケジュールの作成」。

## 需要スケジュールの作成(R40R010)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

1. **相互参照顧客品目タイプ** ユーザー定義コード41/DTでこの顧客に設定した相互参照のタイプを識別します。相互参照タイプには、代替品目、置換品目、バーコード、顧客品目番号、仕入先品目番号などがあります。

- 2. F4211出荷日付と出荷時刻の更新** 取り消された受注明細(F4211)レコードの要求出荷日付と要求出荷時刻を更新するかどうかを示します。値は次のとおりです。  
 ブランク: レコードを更新しません。  
 1: レコードを更新します。

## エラー通知

- 1. レポートの印刷** レポートのハード・コピーを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: ハード・コピーを印刷しません。  
 1: ハード・コピーを印刷します。
- 2. メッセージの送信** エラー・メッセージと警告メッセージをワーク・センターに送信するかどうかを指定します。値は次のとおりです。ブランク: ワーク・センターにメッセージを送信しません。1: ワーク・センターにメッセージを送信します。  
 ブランク: ワーク・センターにメッセージを送信しません。  
 1: ワーク・センターにメッセージを送信します。

## 作業日カレンダー

- 1. 作業日カレンダー・タイプ** ユーザー定義コード(42/WD)を介したカレンダーの使用方法を指定します。たとえば、銀行などの業界で使用するカレンダーを指定したり、配送経路に配置する配達要員のスケジュールを決めるためのカレンダーなどを指定できます。値は次のとおりです。  
 BANK: 銀行カレンダー  
 CARRIER: 運送業者カレンダー  
 CUSTOMER: 顧客カレンダー  
 DOCK: ドック・カレンダー  
 RESOURCE: リソース・カレンダー  
 ROUTE: 経路カレンダー

---

**注意:** デフォルト値の「\*」を指定すると、UDCテーブルでブランクが有効値として設定されていない場合でも、指定した値はブランクに更新されます。

---

- 2. 作業日カレンダー値** カレンダー・タイプ内の値を分類します。たとえば、カレンダー・タイプがROUTEの場合、“日次”や“週末”などの特定の取扱方法を指定するコードを入力できます。

---

**注意:** 入力したコードはシステムで検証されません。

---

## XAPIコール処理

- 1. コールバック関数名 1. コールバック関数名** 受注管理システムから処理が戻った後に実行される関数の実際の名前を定義します。関数名は、標準のANSI Cの命名規則に従っている必要があります。たとえば、単語間にはスペースを入れません。

## 需要展開の設定

この項では、需要展開の概要と、需要展開テンプレートの作成方法について説明します。

### 需要展開について

需要展開とは、指定期間内の特定の日付または日付範囲に対して需要予測数量を展開するプロセスを指します。このプロセスでは、需要詳細レコードの計画日付および数量が集約され、日次バケットごとに1週間に展開された後、予測と計画に必要な週次集計バケットまたは月次集計バケットに配賦されます。

このステップが必要なのは、顧客から仕入先に伝送される需要情報がそれぞれ異なるためです。顧客は、日次、週次、月次のどの数量でも需要を定義できます。1週間の始まりの曜日や1か月の定義方法が顧客によって異なる場合もあります。次の表は、需要情報が顧客によってどのように異なるかをまとめたものです。

顧客	月	実際の期間	数量
顧客A	2001年6月	6月4日から7月1日	18,000
	2001年7月	7月2日から8月5日	19,000
	2001年8月	8月6日から9月2日	20,000
顧客B	2001年6月	6月1日から6月30日	10,000
	2001年7月	7月1日から7月28日	12,000
	2001年8月	8月1日から8月31日	14,000
顧客C	2001年6月	6月4日から7月1日	50,000
	2001年7月	7月2日から7月29日	50,000
	2001年8月	7月30日から9月2日	55,000

特定の事業所での生産スケジュールに合わせるために、仕入先はこのように異なる計画スケジュールを受け入れて、共通の予測に変換する必要があります。

需要スケジュールの作成プログラム(R40R010)を通じて需要レコードのバッチを処理し、計画需要を予測管理システムに転送すると、バッチに出現する品目、事業所、顧客および予測タイプのあらゆる組合せについて、既存の詳細予測レコードとサマリー予測レコード(F3400とF3460)が削除されます。削除後、バッチ内のレコードが一度に1つずつ処理され、新しい予測がロードされます。ある期間に複数の需要レコードが存在する場合、この期間の最終予測には重複するすべてのレコードの予測の合計が含まれます。作成された予測は、品目、事業所、顧客および予測タイプの組合せに対する最新の予測とみなされます。

以前の予測レコードが削除されると、指定した期間にわたって需要数量が自動的に展開および集約されます。このプロセスでは、需要展開テンプレートが利用可能な場合は呼び出され、テンプレートに指定したパーセンテージに基づいて需要が日次バケットに分割されます。テンプレートが存在しない場合は、需要が日付範囲内の各作業日に対して均一になるように展開されます。

需要が1日単位の値に分割された後、予測バスケットに定義した日付範囲に基づいて、この1日単位の値が予測に積み上げられ、F3400テーブルとF3460テーブルにレコードが保存されます。予測バスケットは、週次予測または月次予測用に設定できます。

## 需要展開テンプレートの作成

この項では、需要展開テンプレートの概要と、テンプレートの作成方法について説明します。

### 需要展開テンプレートについて

顧客から受信した需要を指定期間に展開する目的で、需要展開の処理プログラム (P3470) を使用して、ビジネス・ニーズに適した需要展開テンプレートを定義することができます。需要展開テンプレートは事業所に対して定義できますが、事業所と出荷先の組合せ、または事業所、出荷先および品目の組合せに対して設定することも可能です。

需要展開テンプレートの設定では、テンプレートの各日に、合計予測需要を週 (および必要な場合は前週) の各日にどのように配賦するかを示すパーセンテージ値を指定できます。入力したすべてのパーセンテージ値の合計は100になる必要があります。テンプレートには、需要を日次バケットに展開する際の実際の週を示す日付パターンも定義できます。

**注意:** 需要展開テンプレートを設定しない場合は、需要が指定期間内で均一になるように展開されます。

### 需要展開テンプレートの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
需要展開テンプレートの処理	W3470A	「予測セットアップ」メニュー (G3441)、「需要分配テンプレートの処理」	需要展開テンプレートを検索します。
需要展開テンプレートの改訂	W3470B	「需要展開テンプレートの処理」で、「追加」をクリックします。	需要展開テンプレートを作成します。  分配 (週) および分配 (前週) の各日のフィールドに需要展開率を入力します。各日に割り当てられたパーセンテージに基づいて、1週間の需要が1週間の各日に展開されます。パーセンテージ値の合計は100になる必要があります。

### テンプレートの作成

「需要展開テンプレートの改訂」フォームにアクセスします。

需要分配テンプレートの処理 - 需要展開テンプレートの改訂

OK(O) 取消(L) ツール(D)

出荷先 420101 RoadMax, Inc. 事業所 M30

品目 8801 Rear View Mirror

分配(週):

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
30.00	20.00	20.00	15.00	15.00		

分配(前週):

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目

週の定義:

日付パターン R

「需要展開テンプレートの改訂」フォーム

**品目**

品目を識別する番号を入力します。システムには、3つの個別の品目番号と代替品目番号に対する広範な相互参照機能が用意されています。3つの品目番号は、次のとおりです。

略式品目番号: 8桁の番号で自動的に割り当てられます。

第2品目番号: 英数字を使用してユーザーが定義する25桁の番号です。

第3品目番号: 英数字を使用してユーザーが定義する25桁のもう1つの番号です。

これら3つの基本品目番号の他に、広範な相互参照検索機能が用意されています。これにより、他の部品番号に対する相互参照を多数定義できます。たとえば、代替品目番号、置換品目、バーコード、顧客番号、または仕入先番号などを定義できます。

**日付パターン**

日付パターンを識別するためのコードを入力します。15のコードのいずれか1つを入力します。4-4-5の13期間会計用の特殊コード(文字AからN)、または、環境に固有の他の日付パターンを設定する必要があります。デフォルト・コードRは、通常のカレンダー・パターンを示します。

このフィールドの情報により、需要展開テンプレートの週の定義が決まります。



## 第 8 章

# 事前出荷通知の処理

この章では、事前出荷通知 (ASN) および ASN 情報抽出の概要と、次の方法について説明します。

- 正常に処理された ASN レコードの更新
- ASN 階層の設定
- データ抽出を行う仕入先標準時間帯の指定
- ASN 合計の再計算
- 出荷通知情報の改訂
- ASN 品目の出荷通知明細の改訂
- 子レコードの追加
- ASN 日付/時刻間隔の分析
- 受信確認アクティビティの分析
- ASN 情報の再計算
- R47032 変換プログラム (R47032C) の実行
- 電子データ交換 ASN レコードの除去

---

## ASN について

ASN には、出荷する商品の内容と出荷に関する次のような追加情報が表示されます。

- オーダー情報
- 製品記述
- 物理的特徴
- 梱包のタイプ
- マーキング
- 運送業者情報
- 商品の構成

ASN を使用すると、送信者は出荷の内容と構成を様々な明細レベルで記述し、適切な情報を伝達するのに十分な柔軟性をオーダーに持たせることができます。ASN レポートは、出荷の正確性と適時性を評価するうえで重要です。ASN がトラックより前に配送先に届かなければ、出荷品の受取を拒否される場合があります。一般に、ASN は出荷品がドックを出発すると同時に送信します。

ASN の処理方法の設定と管理には、次のプログラムを使用します。

- 階層構成定義 (P47HL)
- EDI標準時間帯 (P4720)

次のプログラムとレポートはASN情報の管理に役立ちます。

- 出荷通知の処理 (P47036)
- 出荷通知明細の処理 (P470371)
- ASN再計算 (R47035)
- EDI ASNレコードの除去 (R47039)
- ASNオンタイム分析レポート (R470361)
- 受信確認精度分析レポート (R47191)

「ASN梱包の処理」(W470371E)フォームを使用してASN情報を管理することもできます。

### ASN EDIテーブル

ASNの処理には、次のテーブルが使用されます。

- F47036
- F470371
- F470371T
- F470372
- F470373
- F470374
- F470375
- F47HL
- F4720

---

## ASN情報の抽出について

EDI ASN(事前出荷通知)の抽出プログラム (R47032)は一般に、出荷確認プログラム (P4205)を使用して出荷を確認した後で実行します。抽出は、輸送出荷確認プログラム (P49645)から自動的に実行することも、メニューから手動で実行することもできます。

出荷データは、次のテーブルから取得されます。

- F4201
- F4211
- F4215
- F4217
- F4216
- F40R11
- F4620

- F46091
- F40R14

出荷データの抽出時には、データがASN構造に変換され、次のテーブルに書き込まれます。

テーブル	注意
F470371	F4211テーブルとF4216テーブルのフィールドがF470371テーブルに移入されます。
F470372	階層構成定義プログラム(P47HL)で設定した「拡張ASN」オプションに基づいて、アセンブリ・ライン位置や作業順序番号、ドック、モデル年式などのF40R11の情報がこのテーブルに移入されます。  CUM出荷数量やCUM出荷数量単位などのF4942の情報もこのテーブルに移入されます。
F470373	F4215テーブル、F4217テーブルおよびF4720テーブルの情報がF470373テーブルに移入されます。これには、次のタイプの情報が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 17個の追加参照番号</li> <li>• 標準時間帯</li> <li>• 夏時間インディケータ</li> <li>• 超過輸送承認</li> <li>• 超過輸送理由コード</li> <li>• 超過輸送料金コード</li> <li>• 封印番号</li> <li>• 荷受人出荷番号</li> </ul>
F470374	階層構成定義プログラム(P47HL)で設定した「拡張ASN」オプションに基づいて、F40R14テーブルの住所関連情報がこのテーブルに移入されます。
F470375	階層構成定義の改訂プログラム(P47HL)の「拡張ASN」オプションに基づいて、ASNの各レベルの梱包詳細、カートン変更およびカートン・タイプ別合計がこのテーブルに保存されます。  各ASN階層レベル内のコンテナ・タイプごとに合計梱包数が計算されます。梱包情報はF4620テーブルから取り込まれます。  使い捨てコンテナの合計料金も計算されます。使い捨てカートンの料金は、出荷確認時に受注オーダー行として作成されます。ASN階層定義に従って受注オーダー行が合計されます。

ASNテーブルのデータは、R47032変換プログラム(R47032C)を使用してフラット・ファイルに変換できます。変換ソフトウェアにより、各種テーブルまたはフラット・ファイルが856形式またはDESADV形式にマッピングされます。

---

**注意:** 拡張モード処理がASNに追加されました。このモードは、階層構成定義プログラム(P47HL)で有効化します。拡張モードの場合、梱包情報はF4216テーブルとF4620テーブルの両方から取得されます。内示調整管理が有効で、ASNが拡張モードの場合、ASNとともに需要情報も抽出されます。

---

## 正常に処理されたASNレコードの更新

この項では、ASN送信データの更新プログラムの概要と、EDI ASN送信データの更新プログラム(R47037)の実行方法について説明します。

### ASN送信データの更新プログラムについて

このプログラムでは、すべてのレコードが正常に処理されたものとしてマークされます。このプログラムは、フラット・ファイルのR47032変換プログラム(R47032C)内から、または特定のEDI伝票番号(EDOC)のメニューから実行できます。「EDI処理状況」フィールド(EDSP)の値Yでレコードが更新されます。

トランザクションの新規バッチをEDIインターフェイス・テーブルにダウンロードする前にこのプログラムを実行して、データの重複を防止します。伝送された伝票のすべてに処理済というフラグが立つため、同じ伝票が再送されることはありません。

変換ソフトウェアでデータを処理した後、フラット・ファイルを必ず削除してください。そうしないと、変換済のレコードに新規レコードが追加されます。

### EDI ASN送信データの更新プログラム(R47037)の実行

「販売請求書」(G47217)の「送信データの更新」を選択します。

---

## ASN階層の設定

この項では、ASN階層の概要と設定方法について説明します。

### ASN階層について

EDI ASNテーブルと事前出荷通知を更新するためのASNデータ抽出に使用される階層レベルを設定できます。階層構造は、SOITやSOTIなどのEDIガイドラインに従って構成します。たとえば、ASNに表示される情報に、顧客の要求に基づいた階層構造を持たせる必要があるとします。この場合は、「階層構成定義の改訂」フォームで階層構成を指定し、レベル区切りとなるフィールドを設定します。これで階層構造が作成され、ASN管理プロセス全体で使用されます。

たとえば、出荷、オーダーおよび品目の値でのレベル区切りを設定した階層構造を作成するには、出荷、オーダーおよび品目に対する順序とレベル区切りのフィールドを定義して構造を設定します。次に、EDI ASN(事前出荷通知)の抽出プログラム(R47032)を実行します。ASNの情報が抽出されます。このプログラムが情報を取得するときに、階層構成が考慮され、指定した各レコードでのレベル区切りが作成されます。この区切りによって、各レベル区切りの間に親子関係が生じ、数量、価格、重量などの区切りごとに合計が計算されます。各レベル区切りがどのようにグループ化されているかも確認できます。

たとえば、ある出荷のオーダーに品目との親子関係を持たせることができます。出荷は親レコードであり、出荷情報とすべての子レコードについての合計(数量、価格、重量など)を含んでいます。オーダー・レコードは出荷の子レコードであり、オーダー情報とオーダーの合計を含んでいます。親子関係は、階層構造の上から下へ続いていきます。

## ASN階層の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
階層構成定義の処理	W47HLA	「ASN」(G40R412)、「階層の構成」	レコードを検索します。
階層構成定義の改訂	W47HLD	「階層構成定義の処理」で、「追加」をクリックします。	ASN階層を設定します。

## ASN階層の設定

「階層構成定義の改訂」フォームにアクセスします。

階層の構成 - 階層構成定義の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

販売先No. 4247 Coastal Services

階層構成 \* SOTPI

階層構造コード 1  拡張ASN

レコード 1-3 グリッドのカスタマイズ

	レベル	階層構成	フィールド名	昇順降順	合計レベル	階層構成
<input type="radio"/>	1.000	SO	SDCO	A		1
<input type="radio"/>	2.000	TP	SDDOCO	A		2
<input checked="" type="radio"/>	3.000	I	XDPLT	A		3

「階層構成定義の改訂」フォーム

### 階層構成

出荷通知/積荷目録にあるレベルを指定するEDI 856トランザクション・セットの階層構成コードを入力します。このフィールドは、2文字の階層レベル・コード(HLC)(データ要素735の階層レベル・コードを表すX12仕様の値)の組合せで構成されます。このフィールドには、HLCの組合せを最大9つ指定できます。

### 階層構造コード

HLセグメントを使用してトランザクション・セットの構造を定義するEDIトランザクション・セットの階層アプリケーション構造を示すコードを入力します。

### 拡張ASN (拡張事前出荷通知)

住所録番号を設定して拡張ASNを作成するかどうかを示すコードを入力します。「拡張ASN」オプションが有効になっている場合、次のテーブルにデータが移入されます。

F470372

F470373

F470374

F470375

### レベル

オンラインでの表示およびレポート用にテーブルを論理グループにまとめるための番号を入力します。

<b>フィールド名</b>	<p>データ辞書項目名を入力します。たとえば、会社の場合はF#MMCOまたはF#CO、ビジネスユニットの場合はF#MMCUまたはF#MCU、ビジネスユニットのカテゴリ・コード01から30の場合はF#RP01から30のようになります。</p> <p>#、@、\$を除き、データ項目名の一部に特殊文字は使用できません。</p> <p>ソフトウェアを更新しても上書きされない保護データ名を作成するには、\$xxxおよび@xxxを使用します(ここで、xxxはユーザー定義です)。</p>
<b>昇順/降順</b>	<p>昇順または降順のソート順序を指定するコードを入力します。値は次のとおりです。</p> <p>A: 昇順 D: 降順</p> <p>このコードは、OPNQRYFコマンド内でUNIQUEKEYパラメータを指定するために使用します。次のコードで指定されるキー・シーケンス・フィールド数は、UNIQUEKEYパラメータに割り当てられる数になります。このパラメータにより、指定したキーに対するレコードの重複を避けることができます。</p> <p>U: 昇順 V: 降順</p>
<b>合計レベル</b>	<p>レベル区切りを入力します。勘定科目マスターまたはビジネスユニット・マスターの詳細レベル概念(LDAとLDMをそれぞれ参照)と混同しないでください。このフィールドに取り込む合計レベルを指定できます。最大9つの合計レベルを使用できます。ソート順序パラメータに合った合計レベルがオーダーで指定されていない場合、予想外の結果を招きます。</p>

---

## データ抽出を行う仕入先標準時間帯の指定

この項では、データ抽出を行う仕入先標準時間帯の概要、事前設定、および仕入先標準時間帯の追加方法について説明します。

### データ抽出を行う仕入先標準時間帯について

標準時間帯と夏時間規則を指定するには、EDI標準時間帯プログラム(P4720)を使用します。変換ソフトウェアでは、標準時間帯と夏時間の値を使用して時刻コードが判別されます。汎用時刻コード(UTC)は事業所レベルで設定します。

標準時間帯情報の処理と保存には、次のテーブルが使用されます。

- F4720
- F470373

### 事前設定

標準時間帯ユーザー定義コード(UDC)(H91/TZ)を設定します。

## データ抽出を行う仕入先標準時間帯の指定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
EDI標準時間帯の処理	W4720A	「ASN」(G40R412)、「仕入先標準時間帯」	仕入先レコードを検索します。
EDI標準時間帯の改訂	W4720B	「EDI標準時間帯の処理」で、「追加」をクリックします。	仕入先標準時間帯を追加します。

### 仕入先標準時間帯の追加

「EDI標準時間帯の改訂」フォームにアクセスします。

#### 標準時間帯

日時を表示する標準時間帯を選択します。

#### 規則名

夏時間規則を一意に識別する名前を入力します。夏時間規則は、地理的および政治的な場所の時間を調整するときに使用します。

## ASN合計の再計算

この項では、ASNの再計算の概要と、ASN合計を再計算する方法について説明します。

### ASNの再計算について

ASNに表示される数量、金額、通貨などの計算済フィールドをすべて変更できます。これらのフィールドが最初に計算されるのは、EDI ASN(事前出荷通知)の抽出プログラム(R47032)を実行したときです。このプログラムの情報の処理中に、計算済フィールドの値が各レベル区切りで積み上げられます。

情報を改訂して「出荷通知明細の改訂(合計)」フォームを終了すると、次の処理が行われます。

- 更新する階層レベルを特定します。
- 「親」フィールドと「レコードID」フィールドをチェックし、更新が必要なすべてのレベル区切りを識別します。
- 情報を追加するか削除するかを特定します。
- 各レベル区切りに関連付けられている計算済フィールドの更新をすべて積み上げます。

次の例では、品目レコードの「数量」フィールドを最下位レベルで300から100に変更します。

#### 再計算前

次の表は、再計算前のデータを示しています。

階層レベル・コード	階層レベル	オーダー会社	伝票番号	数量
S	1	4242	23192	600
O	2	4242	23192	400
I	3	4242	23192	100

階層レベル・コード	階層レベル	オーダー会社	伝票番号	数量
I	3	4242	23192	100
O	2	4242	23193	200
I	3	4242	23193	200

## 再計算後

次の表は、再計算後のデータを示しています。

階層レベル・コード	階層レベル	オーダー会社	伝票番号	数量
S	1	4242	23192	400
O	2	4242	23192	200
I	3	4242	23192	100
I	3	4242	23192	100
O	2	4242	23193	200
I	3	4242	23193	200

## ASN合計の再計算に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
出荷通知明細の処理	W470371A	「EDI送信処理」メニュー (G40R14)、「出荷通知詳細の処理」	ASN明細を検索します。
出荷通知明細の改訂 (合計)	W470371E	「出荷通知明細の処理」で、ASNレコードを検索して、「ロー」メニューの「合計の改訂」を選択します。	ASN合計を再計算します。

## ASN合計の再計算

「出荷通知明細の改訂 (合計)」フォームにアクセスします。

### 数量

「数量」タブを選択します。

### 出荷数量

受注オーダー入力で出荷に引き当てられた数量を、入力時の単位または品目の定義済基本単位を使用して入力します。

製造管理システムと作業オーダー時間入力では、このフィールドが完了数量や仕損数量を示す場合もあります。数量タイプは、入力したタイプ・コードで決まります。

### 数量

このトランザクションの影響を受ける数量を入力します。

<b>バックオーダー数量</b>	受注管理または作業オーダー処理でバックオーダーされた数量を入力します。入力時の単位か、品目に定義された基本単位を使用します。
<b>取消数量</b>	受注管理または作業オーダー処理で取り消された数量を入力します。入力時の単位か、品目に定義された基本単位を使用します。 製造管理では、現在までの仕損数量になる場合もあります。
<b>将来引当数量</b>	このオーダー行に対して一時的に引き当てられた在庫数量を入力します。このような一時的引当は、一括オーダーを使用したときに発生します。指定された数量の品目の販売に合意したが、オーダーの時点では納期が不明な場合です。このフィールドの内容は一般に、各種フォームに表示される引当フィールドや受注オーダー数量フィールドではなく、在庫状況のフォーム（事業所在庫のフォームの適切なオプションを使用してアクセス）に表示される「数量1」、「数量2」などのフィールドに影響を与えます。
<b>未処理数量</b>	オーダー明細の当初数量に対して、変更された数量を加算または減算し、現在までに出荷、入荷、伝票発行されたすべての数量を減算した数量を入力します。
<b>累計出荷数量</b>	売上更新プロセスを通過した数量を入力します。作業オーダー処理では、このフィールドは作業オーダーで完了または使用した総量の累計を識別します。
<b>リリース数量</b>	リリース済数量（将来使用）。
<b>その他数量 (1/2)</b>	JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでは、このフィールドにより、F41021テーブルの「その他数量1または2」フィールドが、「ソフト・コミット」フィールドまたは「ハード・コミット」フィールドのかわりに更新されるかどうかが決まります。 JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムでは、このフィールドにより、F41021テーブルの「その他数量」フィールドが、「購買オーダー」フィールドのかわりに更新されるかどうかが決まります。
<b>単位</b>	CS（ケース）、BX（箱）のように、表示される在庫品目の数量単位を示すUDC（00/UM）を入力します。
<b>オーダー数量</b>	顧客が発注した数量を、基本保管単位で入力します。
<b>単位</b>	EA（個）やKG（キログラム）など、品目の数量を表すために使用される単位を識別するUDC（00/UM）を入力します。
<b>2次単位でのオーダー数量</b>	在庫固定情報で2次単位のオプションを選択した場合、このフィールドがデータ入力画面に表示されます。
<b>2次単位</b>	対象品目の代替単位を示すUDC（00/UM）を入力します。
<b>2重単位の使用</b>	品目の在庫残高の管理とトランザクションの記録を、基本単位への換算式が定義されていない2次単位で行う必要があることを示すには、このオプションを選択します。一般に、このオプションを選択するのは、品目の発注または販売を梱包数量単位で行い、価格設定を重量または容量単位で行う場合です。 2重単位の品目については、在庫調整を除く在庫トランザクションで基本単位と2次単位の間での許容度チェックが必要になる場合があります。
<b>ユーザー予約金額</b>	ユーザー用の15桁のコードを入力します。

<b>SCC数量</b> （出荷コンテナ・コード数量）	特定の品目のSCC梱包の数量を入力します。
<b>UPC数量</b> （統一商品コード数量）	消費者への最小販売可能梱包単位であるUPCレベルの数量を入力します。
<b>金額</b>	
「金額」タブを選択します。	
<b>基本通貨</b>	会社の取引の通貨を示すコードを入力します。外貨建て取引の場合、これは取引の国内通貨側の通貨コードです。
<b>通貨コード</b>	取引の通貨を識別するコードを入力します。
<b>為替レート</b>	外貨の金額に乘算または除算して国内通貨の金額を計算するための数値（為替レート）を入力します。  このフィールドには最大で小数点以下7桁まで入力できます。これ以上の桁数を入力すると、最も近い小数点以下7桁の数値に調整されます。
<b>表示価格</b>	F4106テーブルから取得された基本価格の単位で表示価格を入力します。これは、受注オーダー入力時に価格調整が適用されない場合に顧客が支払う価格です。この価格は国内通貨で表示されます。
<b>単価</b>	この品目1単位に対して請求される表示価格または基本価格を入力します。受注オーダーを入力する際は、すべての価格をF4106テーブルに設定します。
<b>合計価格</b>	数量に単価を掛けた数値を入力します。
<b>未決済金額</b>	未払または未決済のオーダー、請求書または伝票の金額を入力します。  伝票（オーダー、請求書、伝票など）を入力するとき、未決済金額が伝票の当初金額になります。当初金額を変更すると、変更分が未決済金額から差し引かれます。たとえば、伝票に対して支払、出荷または入荷が入力されると、未決済残高が減少します。
<b>在庫移動費用</b>	これは、ある事業所から別の事業所へ在庫を移動する費用です。この在庫移動費用の計算方法は、事業所間販売価格割増の改訂プログラム（P3403）で管理します。
<b>入力された単価用単位</b>	在庫品目の数量の指定に使用される基本単位の略語を入力します。  BA（梱）、LB（ポンド）、PC（個）などです。  原価と価格の入力は基本単位で行うのが標準的ですが、使用可能な5つの基本的単位のいずれかを使用してもかまいません。その場合、使用した単位は別に記録され、後続の原価計算および価格設定のアルゴリズムがすべて正しく実行されるようになります。
<b>価格設定単位</b>	品目の価格設定に通常使用する単位を示すUDC（00/UM）を入力します。
<b>重量と容量</b>	
「重量/容量」タブを選択します。	
<b>重量修飾子</b>	重量のタイプを識別するコードを入力します。値は、EDI X12データ要素187の許容値のいずれかに準拠している必要があります。

<b>単位重量合計</b>	1 品目の重量を基本単位で入力します。
<b>重量単位</b>	個々の品目の重量を示す単位を入力します。一般的な重量単位は次のとおりです。 GM: グラム OZ: オンス LB: ポンド KG: キログラム CW: ハンドレッドウエイト TN: トン
<b>単位容量</b>	1 在庫品目が占める体積を入力します。単位 (立方フィート、ヤード、メートルなど) の定義は容量単位で定義します。
<b>容量単位</b>	1 在庫品目が占める体積の単位を入力します。一般的な容量単位は次のとおりです。 ML: ミリリットル OZ: 液量オンス PT: パイント LT: リットル CF: 立方フィート CM: 立方メートル CY: 立方ヤード
<b>階層構成</b>	「階層コンフィギュレーション」タブを選択します。
<b>階層構成</b>	出荷通知/積荷目録にあるレベルを指定する EDI 856 トランザクション・セット階層構成コードを入力します。このフィールドは、2 文字の階層レベル・コード (データ要素 735 の階層レベル・コードを表す X12 仕様の値) の組合せで構成されます。このフィールドには、HLC の組合せを最大 9 つ指定できます。
<b>階層構造コード</b>	HL セグメントを使用して トランザクション・セットの構造を定義する EDI トランザクション・セットの階層アプリケーション構造を示すコードを入力します。

---

## 出荷通知情報の改訂

この項では、出荷通知情報の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 出荷の ASN 情報の改訂
- 制御情報の改訂

## 出荷通知情報について

EDI ASN(事前出荷通知)の抽出プログラム(R47032)を実行してEDI ASNテーブルを更新した後、出荷通知の処理プログラム(P47036)を使用してASNの出荷関連情報をすべて改訂できます。このプログラムを使用すると、出荷と日付に基づいてレコードを検索し、次のタイプの情報を改訂することができます。

- 子レコード
- 品目情報
- オーダー情報
- オーダー合計
- 出荷情報
- 住所情報
- 梱包情報
- 需要住所

さらに、必要に応じてレコードの追加や削除も実行できます。

「出荷通知の処理」フォーム(W47036C)から、「出荷通知明細の処理」フォーム(W470371A)に移動できます。明細フォームは、さらに詳細な情報を検索して改訂を加えることのできる、もう1つの検索/表示フォームです。「出荷通知明細の処理」フォームの見出しには、「出荷通知の処理」フォームに表示されるのと同じ検索フィールドが含まれています。「出荷通知の処理」フォームの「ロー」メニューから「明細改訂」を選択して明細フォームにアクセスした場合、「出荷通知の処理」フォームから明細フォームに値が渡され、見出しに表示されます。メインメニューから明細フォームにアクセスした場合、見出しの検索フィールドは空白になります。

EDI ASN(事前出荷通知)の抽出プログラム(R47032)の拡張バージョンを実行していない場合、EDI出荷通知明細(送信)(F470371)のフィールドにのみ値が移入され、F470373テーブルに関連したフィールドは無効になります。

EDIを通じて生成されるASN情報の改訂に加え、出荷通知の処理プログラムを使用して見出しレベルの新規レコードを作成することもできます。ASNレコードの作成時には、次のテーブルに情報が書き込まれます。

- F47036
- F470371
- F470372
- F470371T
- F470373

## 事前設定

次のUDCを設定します。

- トランザクション・タイプ(00/TT)
- EDIトランザクション・セット番号(40/ST)

## 出荷通知情報の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
出荷通知の処理	W47036C	「EDI送信処理」メニュー (G40R14)、「出荷通知の処理」	ASNレコードを検索します。
出荷通知の改訂(出荷)	W47036F	「出荷通知の処理」で、レコードを検索して、「ロー」メニューの「出荷の改訂」を選択します。	出荷のASN情報を改訂します。
出荷通知制御情報の改訂	W47036H	「出荷通知の処理」で、レコードを検索して、「ロー」メニューの「コントロール情報」を選択します。  レコードを作成するには、「出荷通知の処理」で「追加」をクリックします。	ASN制御情報を改訂します。  見出しレベルの新規ASNレコードを作成します。

## 出荷のASN情報の改訂

「出荷通知の改訂(出荷)」フォームにアクセスします。

出荷通知の処理 - 出荷通知の改訂(出荷) i ?

OK(O) 取消(L) ツール(D)

タブを選択: 1-出荷

販売先	<input type="text" value="4247"/>	Coastal Services	出荷番号	<input type="text" value="218"/>
出荷先	<input type="text"/>			
到着日付	<input type="text" value="2008/03/11"/>	到着時刻	<input type="text"/>	
実際出荷日付	<input type="text" value="2008/03/10"/>	実際出荷時刻	<input type="text"/>	
タイムゾーン	<input type="text" value="(UTC-07:00)"/>	夏時間フラグ	<input type="text" value="1"/>	
標準運送業者記述コード	<input type="text"/>			
運送業者名	<input type="text" value="Transportation Carrier"/>			
運送業者No.	<input type="text" value="4342"/>			
封印番号	<input type="text" value="8008"/>			
積荷No.	<input type="text" value="3400"/>			
荷受人出荷No.	<input type="text" value="48101"/>			
複数カートン	<input type="text" value="0"/>			
コンテナ数	<input type="text" value="2"/>			

「出荷通知の改訂(出荷)」フォーム

### 出荷

「出荷」タブを選択します。

<b>販売先</b>	<p>住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号を入力します。この番号は、住所録レコードに関する情報の検索および入力に使用できません。詳細住所や税IDなど、住所録番号(AN8)以外の値を入力した場合は、住所録固定情報で定義した特殊文字を前に付ける必要があります。レコードが検出されると、そのレコードの住所録番号がこのフィールドに表示されます。</p> <p>たとえば、住所録番号4100(Total Solutions)の詳細住所がTOTALで、住所録固定情報で定義した詳細住所を区別する記号が*(アスタリスク)の場合、このフィールドに「*TOTAL」と入力して検索すると、4100が表示されます。</p>
<b>運送業者名</b>	<p>宛名を示すテキストを入力します。この40文字(半角英数字)まで入力可能なフィールドは、複数のフォームおよびレポートに表示されます。入力にはダッシュ、カンマ、およびその他の特殊文字を使用できますが、このフィールドを使用して名前を検索する際は、これらの記号や特殊文字は検索対象にはなりません。</p>
<b>超過料金</b>	<p>「超過料金」タブを選択します。</p>
<b>超過額の理由コード</b>	<p>超過輸送料金の理由を識別するUDC(49/ES)を入力します。</p>
<b>責任コード</b>	<p>超過輸送料金の担当者を識別するUDC(49/EC)を入力します。</p>
<b>装置</b>	<p>「装置」タブを選択します。</p>
<b>設備番号プレフィックス</b>	<p>設備ユニットを識別する番号のプレフィックス(アルファベット部分)を入力します。</p>
<b>設備No.</b>	<p>設備ユニットを識別する番号の順序(シリアル部分)を入力します(設備番号は数値のみの形式とすることをお勧めしますが、必須ではありません)。</p>
<b>輸送</b>	<p>「輸送」タブを選択します。</p>
<b>輸送モード</b>	<p>商品を顧客に輸送する際に使用される運送業者の種類を説明するUDC(00/TM)を入力します。鉄道や陸路などです。</p>
<b>輸送条件</b>	<p>輸送条件(配送条件)は、F4201テーブルまたはF4301テーブルから取得されます。見出しファイルの配送条件フィールド(FRTH)は1文字のみです。EUのVAT申告に必要な3文字の説明を取得する場合は、カテゴリ・コード42/FRの2番目の説明が使用されます。</p>
<b>経路コード</b>	<p>顧客に割り当てられている配送経路を示す経路コードUDC(42/RT)を入力します。このフィールドは、運賃集計機能がオーダーにかかる輸送費の計算時に使用する係数の1つです。</p> <p>ピッキングの場合は、配送経路/中継点コードおよび区域コードを使用して、特定経路の配送車両に積載するすべての品目を分類します。</p> <p>これらの各フィールドのデフォルト値は、「顧客請求指示」フォームで設定します。</p>

<b>中継点コード</b>	<p>特定の配送経路上の中継点を示すUDC(42/SP)を入力します。このフィールドは、運賃集計機能がオーダーにかかる輸送費の計算時に使用する係数の1つです。</p> <p>ピッキングの場合は、中継点コードと経路/区域コードを使用して特定の経路を使う配送車両に積載するすべての品目を分類します。</p> <p>これらの各フィールドのデフォルト値は、「顧客請求指示」フォームで設定します。</p>
<b>商品出荷クラス</b>	<p>国際出荷取扱などの品目のプロパティ・タイプや分類を表すUDC(41/E)を入力します。このコードを使用して類似品のソートと処理が行われます。このフィールドは主に在庫および出荷に使用する3つの分類カテゴリの1つです。</p>
<b>経路コード</b>	<p>経路フィールドは、顧客に割り当てられている配送経路を示すユーザー定義コード(システム42、タイプRT)です。このフィールドは、運賃集計機能がオーダーにかかる輸送費の計算時に使用する係数の1つです。ピッキングの場合は、配送経路/中継点コードおよび区域コードを使用して、特定経路の配送車両に積載するすべての品目を分類します。これらの各フィールドのデフォルトは、「顧客請求指示」フォームで設定します。</p>
<b>運賃</b>	<p>「運賃」タブを選択します。</p>
<b>貨物/運賃取扱コード</b>	<p>仕入先の出荷貨物が納入される方法を指定するUDC(42/FR)を入力します。たとえば、仕入先がドックに配送するか、または仕入先のドックで出荷品を集荷できます。また、このコードを使用して、だれが運賃を支払うかを指定することもできます。たとえば、仕入先の倉庫から商品が搬出された時点で商品の法的な所有権が顧客に移り、出荷先までの輸送料金は顧客が支払うなどのコードを設定できます。</p>
<b>運賃/諸掛コード</b>	<p>運賃を表すUDC(41/RT)を入力します。これは、オーダーについて顧客に請求される送料、運賃、その他の諸費用の金額を示します。</p>
<b>運賃の適用</b>	<p>処理中に運賃計算を実行するかどうかを指定する場合に選択します。このオプションを選択すると、処理中に運賃計算が実行されます。</p>
<b>AIA文書</b>	<p>買掛管理の支払処理サイクルで、AIA形式の公式文書を印刷するのか、先取特権放棄文書を印刷するのか、その両方を印刷するのかを示すコードを入力します。これらの文書が印刷されるのは、契約支払を印刷する場合のみです。標準の買掛金支払で契約の進捗支払を印刷する場合、AIA文書と先取特権放棄文書は印刷されません。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: AIA文書と先取特権放棄文書を印刷しません。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1: AIA文書のみを印刷します。</li> <li>2: AIA文書と先取特権放棄文書を印刷します。</li> <li>3: 先取特権放棄文書のみを印刷します。</li> </ol>
<b>参照番号</b>	<p>参照番号タブ(1から3)のいずれかを選択し、「参照No.修飾子」フィールドと「参照No.」フィールドのいずれかに入力します。</p>

**参照No.修飾子** 参照番号を修飾するコードを入力します。コードは、EDI X12データ要素128の許容値のいずれかに準拠している必要があります。

## その他

「その他」タブを選択します。

**国** 国を識別するUDC(00/CN)を入力します。国コードは、通貨換算には影響しません。

JD Edwards EnterpriseOne住所録システムでのデータ選択と住所形式の設定に、この国コードが使用されます。

**言語** フォームと出力レポートで使用する言語を示すUDC(01/LP)を入力します。ここで指定する言語コードは、システム・レベルまたはユーザー基本設定で定義されている必要があります。

**IDコード1修飾子** IDコードに使用されるコード構造の体系/方式を表すコードを入力します。コードは、EDI X12データ要素66の許容値のいずれかに準拠している必要があります。

**IDコード1** IDコード修飾子のコードで修飾されている場合、出荷の識別に役立つコードを入力します。

## EDI

「EDI」タブを選択します。

**タイプ・コード** 転記編集コードがSまたはLの勘定科目に対してこのフィールドに補助元帳タイプを入力すると、仕訳入力時に補助元帳タイプが必要になります。

**住所番号タイプ** オーダーの住所情報に関連付けられている住所番号を示します。値は次のとおりです。

- 1: 販売先住所番号(受注オーダー)または仕入先住所番号(購買オーダー)
- 2: 出荷先住所番号

## 参照2

「参照2」タブを選択します。

**かんばん開始No.** 荷受人がかんばんカードに割り当てる開始番号(参照番号の範囲内)を入力します。

**かんばん終了No.** 荷受人がかんばんカードに割り当てる終了番号(参照番号の範囲内)を入力します。

## 需要参照

「需要参照」タブを選択します。

**需要参照1から12** 需要実体を識別する番号を入力します。

## 制御情報の改訂

「出荷通知制御情報の改訂」フォームにアクセスします。

出荷通知の処理 - 出荷通知制御情報の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

制御情報 EDI その他 ユーザー予約済み

伝票No. 9999

トランザクション・セット 850 購買オーダー

レコード・タイプ 1 見出し

レコード順序

処理済み(Y/N)

バッチNo. 94

監査

ユーザーID	JPN5	更新日付	2009/01/14
プログラムID	EP47036	更新時刻	190304
ワークステーションID	DEN60001JE	取引入力者	JPN5

「出荷通知制御情報の改訂」フォーム

## 制御情報

「制御情報」タブを選択します。

**トランザクション・セット** 特定のタイプのEDI標準伝票またはトランザクションの識別に使用される修飾子を入力します。

## EDI

「EDI」タブを選択します。

**トランザクション・セット目的** トランザクション・セットの目的を識別するコード(47/PU)を入力します。ANSI X.12のデータ項目353を参照してください。

**受信確認コード** EDIトランザクションまたはメッセージが受理または却下されたことを示すコードを入力します。

**受信確認インディケータ** EDIトランザクションまたはメッセージが受信され、受信が確認されたかどうかを示す場合を選択します。値は次のとおりです。

ブランク: EDIレコードは受信も受信確認もされていません。

1: EDIレコードは受信され、受信が確認されました。

**受信確認の受信時刻** EDI受信確認が受信された時刻を入力します。この時刻は参照専用です。

## その他

「その他」タブを選択します。

<b>出荷ID</b>	顧客に対して、または仕入先から行われた出荷のIDを入力します。この情報は、事前出荷通知EDIトランザクションで使用されます。事前出荷通知抽出プログラムでの処理オプションの設定に応じて、オーダー番号(DOCO)、コンテナ番号(CNID)、配送番号(DELN)のいずれかを表します。
<b>送受信インディケータ</b>	特定のトランザクション・セットが送信、受信、送受信のいずれかを決定するインディケータを入力します。値は次のとおりです。 S: 送信 R: 受信 B: 送受信
<b>ユーザー予約済</b>	「ユーザー予約済み」タブを選択します。
<b>ユーザー予約金額</b>	ユーザー用の15桁のコードを入力します。
<b>ユーザー予約No.</b>	ユーザー用の8桁のコードを入力します。
<b>ユーザー予約参照</b>	ユーザー用の15桁のコードを入力します。

---

## ASN品目の出荷通知明細の改訂

この項では、ASN品目の出荷通知明細の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- ASN品目明細情報の改訂
- 追加のASN品目明細情報の改訂
- ASNオーダー明細情報の改訂
- ASN住所情報の改訂
- その他のASN情報の改訂
- ASN梱包情報の改訂
- ASN需要住所情報の改訂
- 

### ASN品目の出荷通知明細について

出荷通知明細の処理プログラム(P470371)は、明細レコードを改訂するための、ASN管理へのもう一つの入口となります。このプログラムを使用すると、明細レコードの中で品目情報に関連する要素を改訂、追加または削除できます。

**注意:**「出荷通知の処理」フォーム(W47036C)から、「出荷通知明細の処理」フォーム(W470371A)に移動できます。明細フォームは、さらに詳細な情報を検索して改訂を加えることのできる、もう1つの検索/表示フォームです。「出荷通知明細の処理」フォームの見出しには、「出荷通知の処理」フォームに表示されるのと同じ検索フィールドが含まれています。「出荷通知の処理」フォームの「ロー」メニューから「明細改訂」を選択して明細フォームにアクセスした場合、「出荷通知の処理」フォームから明細フォームに値が渡され、見出しに表示されます。メインメニューから明細フォームにアクセスした場合、見出しの検索フィールドはブランクになります。

「ロー」メニューの次の選択項目は、同じ出荷通知明細レコードを異なる形式で表示するためのものです。

- 品目の改訂
- 品目の改訂の追加
- オーダーの改訂
- 合計の改訂
- その他の改訂

「出荷通知明細の処理」フォーム(W470371A)の詳細グリッドには、選択した出荷の明細が表示されます。ローは出荷レベル(出荷、オーダー、品目、自重など)の階層構造を反映しています。各レコードには、階層レベルおよびコードが含まれています。階層の最上位レベルが一番上、最下位レベルが一番下になるように、詳細グリッドに表示されます。

たとえば、品目がオーダーに積み上げられ、オーダーが出荷に積み上げられるとします。グリッドの一番上には出荷全般のレコードが表示され、上から下に向かってオーダー・レコード、関連の品目レコードが続きます。複数のオーダーが存在する場合は、その下に子品目が表示されます。

削除する出荷レベル・レコードを選択すると、出荷通知の処理プログラム(P47036)の「処理」タブにある「出荷通知送付の削除の承認」処理オプションがチェックされ、ユーザーに情報を削除する権限があるかどうかを判別されます。この処理オプションをブランクにした場合、エラー・メッセージが表示されます。レコードの削除後、削除の影響を受けるフィールドが再計算されます。

「出荷通知明細の処理」フォームで「ロー」メニューのいずれかのオプションを選択した後、そのレベル区切りに関連付けられているフィールドを表示できます。たとえば、品目レベルにある品目番号を表示する場合は、品目レベルを選択し、「ロー」メニューの「品目の改訂」を選択します。品目の数量を更新する場合は、「ロー」メニューの「合計の改訂」を選択します。

また、「出荷通知明細の処理」フォームは次のフォームと相互接続されており、各フォームでASNの出荷明細のすべてをさらに改訂できます。

- 出荷通知の改訂(出荷)(W47036F)
- オーダー住所情報(W4006B)
- ASN梱包の処理(W470371G)
- EDI ASN需要住所の改訂(W470371I)
- 出荷通知の処理(W47036C)

## 事前設定

次のUDCを設定します。

- 梱包レベル(47/PL)
- 梱包担当コード(47/PR)

- 梱包条件 (47/PT)

## ASN品目の出荷通知明細の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
出荷通知明細の処理	W470371A	「EDI送信処理」メニュー (G40R14)、「出荷通知詳細の処理」	出荷通知明細を検索します。
出荷通知明細の改訂	W470371B	「出荷通知明細の処理」で、ASNレコードを検索して「選択」をクリックします。	ASN品目明細情報を改訂します。
出荷通知明細の訂正 (追加品目)	W470371C	「出荷通知明細の処理」で、ASNレコードを検索して、「ロー」メニューの「品目改訂の追加」を選択します。	追加のASN品目明細情報を改訂します。
出荷通知明細の改訂 (オーダー)	W470371D	「出荷通知明細の処理」で、ASNレコードを検索して、「ロー」メニューの「オーダーの改訂」を選択します。	ASNオーダー明細情報を改訂します。
オーダー住所情報	W4006B	「出荷通知明細の処理」で、ASNレコードを検索して、「ロー」メニューの「住所録の改訂」を選択します。	ASN住所情報を改訂します。
EDIオーダー住所制御の改訂	W4006C	「オーダー住所情報」で、「フォーム」メニューの「EDI制御」を選択します。	住所のEDI制御情報を指定します。
出荷通知明細の改訂 (その他)	W470371F	「出荷通知明細の処理」で、ASNレコードを検索して、「ロー」メニューの「その他の改訂」を選択します。	その他のASN情報を改訂します。
ASN梱包の処理	W470371G	「出荷通知明細の処理」で、ASNレコードを検索して、「ロー」メニューの「梱包」を選択します。	ASN梱包情報を検索します。
ASN梱包の改訂	W470371H	「ASN梱包の処理」で、品目に関連付けられている梱包情報を検索して「選択」をクリックします。	ASN梱包情報を改訂します。
EDI ASN需要住所の改訂	W470371I	「出荷通知明細の処理」で、ASNレコードを検索して、「ロー」メニューの「需要住所の改訂」を選択します。	ASN需要住所情報を改訂します。

## ASN品目明細情報の改訂

「出荷通知明細の改訂」フォームにアクセスします。

出荷通知詳細の処理 - 出荷通知明細の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

販売先 4247 Coastal Services 出荷番号 218

出荷先 階層レベル 1

階層レベル・コード S

タブを選択: 1-品目

第2品目 No. 550005

顧客/仕入先品目 No.

記述 Bike Accessory Kit

記述2

顧客/仕入先の品目改訂レベル

品目改訂レベル修飾子 BE 最新の改訂

モデル年式 2007

ロット No. 2007-113107

ドックID

ロット/シリアル No.

カード No.

累計

累計出荷数量 0

単位

「出荷通知明細の改訂」フォーム

## 品目

「品目」タブを選択します。

### 顧客/仕入先品目 No.

品目に割り当てられる相互参照品目番号を入力します。相互参照番号により、オーダー処理や印刷の際に、自社品目番号と異なる仕入先の品目番号を使用できます。この番号は、品目相互参照プログラム(P4104)で設定します。

### 顧客/仕入先の品目改訂レベル

顧客品目の改訂レベルの識別に使用する参照番号を入力します。

品目の相互参照では、顧客または仕入先の社外品目番号を社内の略式品目番号に変換する際、顧客側の番号だけでは不十分な場合があります。このような場合は、たとえば、顧客部品番号を品目改訂レベルとともに使用します。これにより、顧客品目を特定できるようになります。

### ロット/シリアル No.

在庫の特定のロットを追加で識別するために使用される30文字のフィールド。製造業者の生産工程番号やユーザー割当番号になる場合もありま

す。このロットには、入荷処理時または任意の時点でシリアル番号を追加できます。

## 濃度/等級

「濃度/等級」タブを選択します。

### 下限濃度

品目に対する有効成分の許容濃度(パーセント)の下限を示す数値を入力します。

許容下限濃度に満たない品目を購買または出庫しようとする、警告メッセージが表示されます。許容下限濃度に満たない品目は販売できません。

### 上限濃度

品目に対する有効成分の許容濃度(パーセント)の上限を示す数値を入力します。

許容濃度の上限を超える品目を購買または出庫しようとする、警告メッセージが表示されます。濃度が許容される上限を超えている品目は販売できません。

### 下限等級

品目に対して許容される等級の下限を示すUDC(40/LG)を入力します。

許容下限等級に満たない品目を購買または出庫しようとする、警告メッセージが表示されます。許容等級の下限に満たない品目は、販売できません。

### 上限等級

品目に対して許容される等級の上限を示すUDC(40/LG)を入力します。

許容上限等級を超える品目を購買または出庫しようとする、警告メッセージが表示されます。等級が許容される上限を超えている品目は販売できません。

## 参照

「参照」タブを選択します。

### 略式品目番号

在庫品目番号を入力します。EnterpriseOneでは、代替品目番号、置換品目、バーコード、顧客番号、仕入先番号などを利用するために、3種類の品目番号、および他の品目番号との拡張相互参照機能(データ項目XRTを参照)が提供されています。3種類の品目番号は、次のとおりです。

略式品目番号: 8桁の番号で、自動的に割り当てられます。

第2品目番号: 25桁の番号で、英数字を使用して自由形式でユーザーが定義できます。

第3品目番号: 25桁の番号で、英数字を使用して自由形式でユーザーが定義できます。

### 仕入先部品No.

仕入先の部品を識別する番号を入力します。この番号は一般に、EDIメッセージで顧客から送信されます。

### ピッキング・リストNo.

自動的に割り当てられる次番号を入力します。ピッキング・リスト番号を使用して、システムでピッキング情報をトラッキングできます。この番号は、ピッキング・リストの印刷時に割り当てられます。出荷確認プログラムでは、この番号による照会と確認が可能です。

**日付/時刻2**

「日付/時刻(2)」タブを選択します。

**出庫予定日**

受注オーダーまたは購買オーダーの約束出荷日付を入力します。需要/供給プログラムでは、この日付を使用して約束可能数量が計算されます。この値は、受注オーダーの入力時に自動的に計算できます。この日付は、品目を倉庫から出荷できる日を表します。

**ピッキング予定時刻**

オーダーのピッキングが予定されている時刻を入力します。24時間制のフォーマットを使用して時刻を入力し、必要に応じて先頭にゼロを付けてください。

**元帳日付**

取引を転記する会計期間を識別する日付を入力します。

会社固定情報で各会計期間の日付範囲を指定します。期間は14まで指定可能です。通常、期間14は監査調整用です。PBCO(過去期間)、PYEB(前年度以前)、PACO(未来期間)、WAGO(次年度以降)のメッセージに対して、このフィールドが検証されます。

**価格有効日付**

基本価格とすべての上級価格調整を決定するために使用される日付を入力します。日付はF4009テーブルに保存されます。

**UCC 128/パッケージ**

「UCC 128/パッケージ」タブを選択します。

**SSCC No. - 自重レベル  
(自重レベルのシリアル出荷コンテナ・コード番号)**

自重レベルのシリアル出荷コンテナ・コードを入力します。このコードは、SSCC番号のUCC構造に準拠している必要があります。

**SCC No. (出荷コンテナ・コード番号)**

出荷コンテナ・コードを入力します。このコードは、SCC番号のUCC構造に準拠している必要があります。

**UPC No. (統一商品コード番号)**

統一商品コード番号を入力します。このコードは、UPC番号のUCC構造に準拠している必要があります。

**出荷条件コード**

特殊な出荷条件などの品目のプロパティ・タイプや分類を表すUDC(41/C)を入力します。このコードを使用して類似品のソートと処理が行われます。このフィールドは主に在庫および出荷に使用する3つの分類カテゴリの1つです。

**鉄鋼No.**

1次金属に関連付けられている番号を入力します。

**梱包コード**

データ要素103のEDI X12定義で許容される値のいずれかに対応したコードを入力します。梱包形式(3文字)と梱包用材料(2桁)の組合せです。

**カテゴリ・コード**

「カテゴリ・コード」タブを選択します。

**需要コード06**

顧客用に予約されている3文字のカテゴリ・コード(UDC 40R/06)を入力します。

**販売カタログ区分**

販売コードの設定に使用する10個のカテゴリ・コードのいずれかを入力します。これらのコードは、色や素材、用途などの分類を表します。

## その他

「その他」タブを選択します。

### 商品クラス

商品タイプや計画ファミリなどの品目のプロパティ・タイプや分類を表すUDC (41/P1)を入力します。このコードを使用して類似品のソートと処理が行われます。

このフィールドは主に購買に使用する6つの分類カテゴリの1つです。

### 購買セグメント・コード

類似の購買習慣で顧客をグループ化する値を入力します。

### 最終用途

オーダー行の最終用途を識別する、関税申告専用のUDC(40/EU)を入力します。最終用途の優先情報に基づいてデフォルト値が表示されます。この値はオーダー入力時に一時変更できます。

### 関税状況

オーダー行の関税状況を識別するUDC(40/DS)を入力します。この値は、関税申告専用指定してください。最終用途の優先情報に基づいてデフォルト値が表示されます。この値はオーダー入力時に一時変更できます。

### 失効までの日数

特定の顧客への使用または販売が可能な品目が失効するまでの日数を入力します。マイナスの場合、この数値は特定の顧客への使用または販売が可能な品目が失効した後の日数を示します。

たとえば、品目1001の有効期限が1998年6月1日の場合、次のようになります。

「失効までの日数」の値が15の場合、この顧客は1998年5月15日までこの品目を受け入れます。

「失効までの日数」の値が-15の場合、この顧客は1998年6月15日までこの品目を受け入れます。

## ユーザー予約済

「ユーザー用確保済」タブを選択します。

### ユーザー予約コード

ユーザー用の2桁のコードを入力します。

### ユーザー予約日付

ユーザー用の6桁のコードを入力します。

### ユーザー予約金額

ユーザー用の15桁のコードを入力します。

### ユーザー予約No.

ユーザー用の8桁のコードを入力します。

### ユーザー予約参照

ユーザー用の15桁のコードを入力します。

## EDI

「EDIコード」タブを選択し、次のフィールドを確認します。

### タイプ・コード

転記編集コードがSまたはLの勘定科目に対してこのフィールドに補助元帳タイプ・コードを入力すると、仕訳入力時に補助元帳タイプが必要になります。

### 住所番号タイプ

オーダーの住所情報に関連付けられている住所番号を示します。値は次のとおりです。

1: 受注オーダーの場合は販売先住所番号です。購買オーダーの場合は仕入先住所番号です。

2: 出荷先住所番号です。

## 追加のASN品目明細情報の改訂

「出荷通知明細の改訂(追加品目)」フォームにアクセスします。

出荷通知詳細の処理 - 出荷通知明細の訂正(追加品目) i ?

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

販売先	<input type="text" value="4247"/>	Coastal Services	出荷番号	<input type="text" value="218"/>
出荷先	<input type="text"/>		階層レベル	<input type="text" value="1"/>
			階層レベル・コード	<input type="text" value="S"/>

タブを選択: 1-会計

プロジェクトBU	<input type="text"/>
主科目	<input type="text"/>
補助科目	<input type="text"/>
他のオプション	<input type="text"/>
補助元帳タイプ	<input type="text"/>
受注オーダー状況 12	<input type="text"/>

略式ID	<input type="text" value="0000000"/>
勘定科目コード	<input type="text"/>
元帳タイプ	<input type="text" value="AA"/>
受注オーダー状況 16	<input type="text"/>

「出荷通知明細の改訂(追加品目)」フォーム

### 会計

「会計」タブを選択します。

### プロジェクトBU

勘定科目コードのビジネスユニットを入力します。勘定科目コードのビジネスユニットは通常、データ項目MCUにあります。ただし、流通管理システムではフィールドMCUが事業所として使用されます。

### 主科目

勘定科目の中で、原価コード(労務費、材料費、設備費など)をサブカテゴリに分類する部分を入力します。たとえば、労務費の原価コードは通常時間、割増時間、間接費に分割できます。

任意勘定科目コードを使用して主科目コードを6桁に設定した場合は、6桁すべてを使用する必要があります。たとえば、「000456」と入力することと「456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6桁を埋めるために自動的にスペースが3つ追加されます。

### 補助元帳タイプ

「補助元帳」フィールドと併せて補助元帳のタイプと編集方法の識別に使用されるUDC(00/ST)を入力します。「ユーザー定義コード」フォームでは、記述の2行目により編集方法が制御されます。このコードはハードコードされているか、またはユーザーが定義します。値は次のとおりです。

A: 英数字フィールド(編集なし)

N: 数字フィールド(右揃え、ゼロで埋める)

C: 英数字フィールド(右揃え、ブランクで埋める)

### 略式ID

F0901テーブルで総勘定元帳の各勘定科目を一意に識別するために割り当てられる番号を入力します。

### 元帳タイプ

AA(実績金額)、BA(予算金額)、またはAU(実績数量)など、元帳のタイプを指定するUDC(09/LT)を入力します。総勘定元帳内で同時に複数の元帳を設定して、すべての取引の監査証跡を設定できます。

### 受注オーダー状況16

仕訳の差異プログラム(R31804)でレコードが作成されることを示す場合に選択します。

### 会計2

「会計(2)」タブを選択します。

### 販売時課税対象

販売時に品目が課税対象になるかどうかを示すコードを入力します。顧客も課税対象である場合にのみ、品目の税額が計算されます。

### 税率/税域

共通の税率と納税先が割り当てられる税域または地域を示すコードを入力します。入力したコードは、F4008テーブルに対して検証されます。この税率/税域は、請求書または伝票を作成する際に、税目コードおよび税規則と併せて税額と元帳配賦金額の計算に使用されます。

### 税目コード

ハードコードされたUDC(00/EX)を入力します。この値により、税額と総勘定元帳の配賦金額の計算に使用するアルゴリズムが制御されます。この税目コードと税率/税域、税規則を組み合わせて税計算の方法が決まりません。取引支払項目ごとに異なる税目コードを指定できます。

### クロス・ドッキング

「クロス・ドッキング」タブを選択します。

### クロス・ドッキング・フラグ

品目またはオーダー行をクロス・ドッキング処理に関連付けるコードを入力します。このコードは、品目またはオーダー行がクロス・ドッキングの対象となるかどうか、クロス・ドッキングされていたかどうか、あるいはクロス・ドッキングする必要があるかどうかを示します。このコードが品目または品目の事業所に割り当てられている場合、その品目またはその事業所の品目がクロス・ドッキングの対象となることを示します。このコードがオーダー行に割り当てられている場合、そのオーダー行をクロス・ドッキングする必要があることを示します。値は次のとおりです。

ブランク: クロス・ドッキングは無効です。

1: クロス・ドッキングは有効です。

#### クロス・ドッキング優先順位

供給数量を受注オーダーに割り当てる際にクロス・ドッキング・システムが従う優先度。この優先度は、クロス・ドッキングされた受注オーダーが特定の日付に実行される順序を示します。より小さい値が設定された受注オーダーの優先度は、大きな値が設定された行よりも高くなります。この値については数値の編集しか行うことができません。優先度が指定されなかったり、複数のオーダー行に同じ優先度が割り当てられている場合は、オーダーはオーダー番号とオーダー・タイプの順に実行されます。

#### 在庫

「在庫」タブを選択します。

#### 引当方法

在庫からのロット品目の引当に使用される方法を示すコードを入力します。値は次のとおりです。

1: 標準の在庫引当方法。最初に基本保管場所、次に2次保管場所の順序で在庫が引き当てられます。

最大数量の保管場所からの在庫引当が、最小数量の保管場所からの引当より先に行われます。バックオーダーは基本保管場所に引き当てられません。

2: ロット番号による在庫引当方法。最小のロット番号から開始して引当可能なロットに対して順にオーダーの引当が行われます。

3: ロット満了日付による在庫引当方法。最も早い満了日のロットがある保管場所から在庫の引当が行われます。引当の対象となるのは、満了日が受注オーダー日付または部品リスト要求日付以降の在庫がある保管場所のみです。

#### 印刷コード

発注された品目の引当可能数量がオーダー数量より少ない場合に実行する処理を示すコードを入力します。値は次のとおりです。

B: 出荷できない数量はバックオーダーされます。

C: 出荷できない数量は取り消されます。

#### 倉庫状況コード

受注オーダー行が倉庫管理プロセスに入ったかどうかを示すコードを入力します。値は次のとおりです。

ブランク: まだJD Edwards EnterpriseOne倉庫管理システムで処理されていない受注オーダー行。

I: JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理システムで処理中の受注オーダー行。この行は修正できません。

O: JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理システムですでに処理された受注オーダー行。

#### 資産No.

資産を一意に識別する8桁の番号を入力します。

#### 品目改訂レベル

品目の改訂レベルを表す数値を入力します。このフィールドに改訂レベルを入力する場合は、品目の作業工程の改訂レベルが同じ品目の部品表の改訂レベルと一致していることを確認します。

#### 仕入先リポート・コード

商品タイプや計画ファミリーなどの品目のプロパティ・タイプや分類を表すUDC (41/P3)を入力します。このコードを使用して類似品のソートと処理が行われます。

## 在庫原価計算方法

このフィールドは主に購買に使用する6つの分類カテゴリの1つです。

在庫原価計算方法を表すコードを入力します。各在庫品目に最大7つの異なる単位原価を設定できます。トランザクション処理時には、個々の品目レコードが検索され、7つの原価のうちどれを使用するかが特定されます。このフィールドに入力するコードは、特定の品目レコード内で指定した原価計算方法が見つからない場合に備えたバックアップです。

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムでは、事業所品目情報に新規品目を追加すると、指定した事業所の固定情報内でこの原価計算方法が検索されます。これは必須フィールドです。値は次のとおりです。

- 1: 最終仕入原価
- 2: 加重平均原価
- 3: メモ原価1
- 4: 現行原価
- 5: 先日付原価
- 6: ロット原価
- 7: 標準原価

## 基準計画ファミリ

商品タイプや計画ファミリなどの品目のプロパティ・タイプや分類を表すUDC (41/P4)を入力します。このコードを使用して類似品のソートと処理が行われます。

このフィールドは主に購買に使用する6つの分類カテゴリの1つです。

## 陸揚費用規則

品目の陸揚費用規則を示すUDC (41/P5)を入力します。

陸揚費用規則により、業者手数料やコミッションなどの品目の実際の価格を超える購買価格が決まります。陸揚費用規則は、「陸揚費用の改訂」フォームで設定します。

## 価格設定

「価格設定」タブを選択します。

## 価格調整スケジュール

価格調整スケジュールを識別するUDC (40/AS)を入力します。価格調整スケジュールには、顧客または品目に適用される調整タイプが1つ以上含まれます。調整は、スケジュールで指定した順序に従って適用されます。顧客請求指示を使用して、価格調整スケジュールに顧客を関連付けます。受注オーダーを入力すると、販売先住所に関連付けられたスケジュールがオーダー見出しにコピーされます。このスケジュールは、明細行レベルで一時変更できます。

契約管理の場合、このフィールドは契約ペナルティ・スケジュールとして使用されます。契約ペナルティ・スケジュールの情報によって、ペナルティの条件適用基準が決まります。

## 品目価格グループ

品目の在庫価格グループを識別するUDC (40/PI)を入力します。

在庫価格グループには、独自の価格設定構造があり、この構造により、受注オーダーや購買オーダーの品目に組み込まれた値引や割増が適用されます。この割引や割増は、発注された品目の数量、金額または重量に基づいています。品目に価格グループを割り当てると、その品目は在庫価格グループに対して定義されたものと同じ価格設定構造を持ちます。

受注オーダーや購買オーダーの値引と割増は、対話形式で計算されるため、品目だけでなく、仕入先や顧客にも在庫価格グループを割り当てる必要があります。

### 価格調整履歴インディケータ

特定の受注明細行に価格設定履歴が存在することを示すコードを入力します。値は次のとおりです。

- 1: 価格履歴ファイルに標準明細調整が存在します。標準明細調整には見越し額が含まれることがあります。
- 2: 価格履歴ファイル内の調整のうち1つ以上が見越しペイト(ACNT = 5)であり、売上高履歴を集計する目的で売上更新によって処理されます。
- 3: 価格履歴ファイル内の調整のうち1つ以上が数量レベル調整です。
- 4: 価格履歴ファイルに数量レベル調整と見越しリペイトが存在します。

### 価格コード1

価格調整を制御するためのUDC(40/P1)を入力します。このコードは優先プロファイルに関連付けることができます。

優先情報で価格コード1を指定すると、受注オーダー明細でこのフィールドに値が入力されます(このフィールドが一時変更されます)。

### その他

「その他」タブを選択します。

### 転送/直送フラグ

オーダー行が転送オーダーによって作成されたか、直送オーダーによって作成されたか、その他すべてのオーダー・タイプによって作成されたかを示すコードを入力します。値は次のとおりです。

ブランク: その他すべてのオーダー・タイプ

- 1: 転送オーダー
- 2: 直送オーダー

### バックオーダー可

この品目のバックオーダーを許可するかどうかを指定するには、このオプションを選択します。品目ごとのバックオーダーを許可する場合は、品目マスター(P4101)プログラムまたは事業所品目(P41026)プログラムを使用します。顧客ごとのバックオーダーを許可する場合は、顧客請求指示プログラム(P03013)を使用します。事業所ごとのバックオーダーを許可する場合は、事業所固定情報プログラム(P41001)を使用します。

### マトリックス制御行No.

購買オーダーまたは受注オーダーの行番号をグループ化するためにマトリックスで使用される番号を入力します。この番号は自動的に生成されますが、一時変更も可能です。

### コンフィギュレータ印刷フラグ

受注オーダーと作業オーダーにコンフィギュレーション部品を印刷するかどうかを示すUDC(32/PF)を入力します。このフィールドに入力する値により、ピッキング・リスト印刷(R42520)、請求書印刷(R42565)、船荷証券(R42530)、作業オーダー印刷(R31415)の部品リストなどの印刷内容が変わります。値は次のとおりです。

- 0: 受注オーダーにも作業オーダーにもコンフィギュレーション部品を印刷しません。
- 1: 受注オーダーと作業オーダーの両方にコンフィギュレーション部品を印刷します。
- 2: 受注オーダーにのみコンフィギュレーション部品を印刷します。

3: 作業オーダーにのみコンフィギュレーション部品を印刷します。

## キット

「キット」タブを選択します。

## 関連キット構成品

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでは、F3002テーブルで第2レベル以上の品目として定義されているキット構成品は、グループ化されてF4211テーブルの関連キット構成品の下に保存されます。オーダー処理サイクル全体を通じてそのキットのキット残高調整を実行できるように、この関係が維持されます。

## ASNオーダー明細情報の改訂

「出荷通知明細の改訂(オーダー)」フォームにアクセスします。

出荷通知詳細の処理 - 出荷通知明細の改訂(オーダー)
i ?

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

販売先	<input type="text" value="4247"/> Coastal Services	出荷番号	<input type="text" value="218"/>
出荷先	<input type="text"/>	階層レベル	<input type="text" value="1"/>
		階層レベル・コード	<input type="text" value="S"/>

タブを選択: 1-オーダー情報 ▼

購買オーダーNo.	<input type="text" value="77080"/>
オーダー会社	<input type="text"/>
オーダーNo.	<input type="text" value="80009"/>
オーダー・タイプ	<input type="text" value="SO"/>
行番号	<input type="text" value="1.000"/>
オーダー保留コード	<input type="text"/> <small>ブランク - 保留コード 42/HC</small>
改訂理由	<input type="text"/>

当初オーダー伝票会社	<input type="text"/>
当初オーダーNo.	<input type="text"/>
当初オーダー・タイプ	<input type="text"/>
当初行No.	<input type="text"/>
会社番号	<input type="text"/>
オーダー発生元	<input type="text" value="0"/>

「出荷通知明細の改訂(オーダー)」フォーム

## オーダー情報

「オーダー情報」タブを選択します。

### オーダー会社

オーダー番号およびオーダー・タイプとともに、オーダー伝票（購買オーダー、契約、受注オーダーなど）を一意に識別する番号を入力します。

会社/会計年度別自動採番機能を使用すると、自動採番プログラム(X0010)はオーダー会社を使用して、その会社の正しい次番号を取得します。複数のオーダー伝票のオーダー番号とオーダー・タイプが同一の場合、オーダー会社で目的の伝票を見つけることができます。

正規の自動採番機能を使用した場合は、次番号の割当にオーダー会社は使用されません。このため、伝票の検索にオーダー会社を使用することもほとんどありません。

### オーダー保留コード

オーダーが保留されている理由を示すUDC(42/HC)を入力します。

### 改訂理由

受注オーダーが改訂された理由を示すUDC(42/RR)を入力します。

## オーダー情報2

「オーダー情報(2)」タブを選択します。

### 関連オーダーNo. (関連購買オーダー/受注オーダー/作業オーダー番号)

当初のオーダーに関連した2次購買オーダー、受注オーダー、作業オーダーを識別する番号を入力します。この番号は参照専用です。

### 関連オーダー・タイプ (関連購買オーダー/受注オーダー/作業オーダー・タイプ)

2次オーダーまたは関連オーダーの伝票タイプを示すUDC(00/DT)を入力します。たとえば、伝票タイプOPの購買オーダーが、伝票タイプWOの関連作業オーダーを実行するために作成されます。

### 関連オーダー行No. (関連購買オーダー/受注オーダー行番号)

現行オーダーの作成対象となった関連オーダーの明細行番号を入力します。たとえば、受注残のオーダーを実行するために作成された購買オーダーでは、発注する品目が表示される受注オーダーの行番号です。

## 請求書

「請求書」タブを選択します。

### 優先コード

この顧客のオーダーを優先的に処理することを示すコードを入力します。ピッキング・リストを優先的に印刷するには、この値を使用してピッキング・リストの印刷を設定します。このコードは、顧客請求指示から割り当てられます。

また、バックオーダーの印刷レポートおよび自動バッチ・リリース・プログラムをこのコードで順序付けし、優先順位の高いオーダーから順にリリースするように指定することもできます。

## 住所

「住所」タブを選択します。

### 親住所No.

親会社の住所録番号を入力します。この番号は、特定の住所を親会社または所在地と関連付けるために使用されます。このフィールドに入力した値により、F0150テーブルの構造タイプがブランクのレコードが更新されま

す。検証の必要があるため、F0101テーブルにある住所番号を指定する必要があります。

## 支払

「支払」タブを選択します。

### 割引可能日数

割引を受けるために請求書または伝票の支払を行う必要がある請求書日付後の日数を入力します。システムでは、指定された日数を請求書の支払期日に加算して割引期日を計算します。

### 割引率

割引期日までに支払われた場合に、請求書または伝票の総額から割引率を入力します。割引率は、小数点以下の数値を入力してください。たとえば、2%の割引率は02と入力します。

### 取引値引

システムが各品目に適用する値引率のパーセンテージを入力します。値引には、このパーセントだけが適用されます。価格を入力すると、値引率が一時的に変更されます。

値引率は、整数(5%であれば5)で指定します。

### 値引係数

正味価格を決定するために在庫品目の単価に適用される係数を入力します。この品目に規則を割り当てた場合は、在庫価格設定規則からこの値が取得されます。価格設定規則の設定では、この値を単価に掛けるのか、単価に加算するのか、単価から差し引くのか決定されます。

### 値引係数タイプ - 金額 /%(D/P)

品目価格カテゴリを改訂するフォームでは、\$は数値タイプが追加金額であることを示し、%は係数が乗数であることを示します。

### 現金割引率

仕入先の支払条件に基づいて製造業者または工場から顧客に渡される割引率を入力します。10%は10.00と入力してください。

### 支払条件

請求書が割引期日までに支払われた場合に適用される割引率など、支払条件を示すコードを入力します。各支払条件タイプは「支払条件の改訂」フォームで定義します。支払条件には次のようなものがあります。

ブランク: 15日以内支払

001: 30日(10日以内1%割引)

002: 30日(10日以内2%割引)

### 支払条件の一時変更コード

支払条件が手動で入力または変更されたことを示す場合に選択します。手動で入力した支払条件が優先情報によって一時変更されることはありません。

### 支払日数

請求書または伝票の期日を計算するために請求書日付に加算される日数を入力します。

分割支払条件を使用している場合、このフィールドの値を使って最初の分割支払品目の期日が計算されます。

### 基準日

様々な受注管理テーブルにおける「価格有効日付」フィールドの更新方法を示すコードを入力します。手動でコードを入力するか、優先情報を適用することができます。値は次のとおりです。

ブランク: 一時変更および優先情報なし

0: トランザクション日付またはオーダー日付

1: 要求日付

	<ul style="list-style-type: none"> <li>2: 約束出荷日付</li> <li>3: 当初出荷日付</li> <li>4: 実際出荷日付</li> <li>5: システム日付</li> <li>6: 請求書日付</li> <li>7: 優先日付</li> <li>0: 一次変更日付</li> </ul>
<b>期日</b>	<p>伝票または請求書の期日を入力します。このフィールドは、「期日 - 月」フィールド(PXDX)の値とともに、期日の計算に使用されます。</p> <p>たとえば、「期日 - 月」が1で「期日」が15の場合、期日は翌月の15日と計算されます。</p>
<b>その他</b>	<p>「その他」タブを選択します。</p>
<b>業種</b>	顧客の業種を識別するUDC(40/LB)を入力します。
<b>税金支払状況</b> (保管場所 税コード)	<p>保管場所に納税済の在庫があるかどうか(保税倉庫に入っているか、それとも関税支払済か)を示すUDC(46/LT)を入力します。品目に税コードが割り当てられている場合、その品目は同じ税コードを持つ保管場所のみ保管されます。</p> <p>品目に税コードを割り当てるには、品目プロファイル・プログラム(P46010)を使用します。</p>
<b>支払手段</b>	<p>顧客が支払をどのように行うかを指定するUDC(00/PY)を入力します。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>C: 小切手</li> <li>D: 手形</li> <li>T: 電子資金決済</li> </ul>
<b>取引の種類</b>	<p>商品の移動が販売のためか、リースのためか、などを示します。EUのVAT申告用には、「受注オーダー明細の改訂」フォームまたは「オーダー明細」フォーム(調達管理の場合)のUDCのいずれかを使用して、取引コードの種類を入力できます。</p> <p>調達管理では、UDC 41/P1から41/P5を使用します。</p> <p>受注管理では、UDC 40/S1から40/S5を使用します。</p> <p>使用するUDC(41/P1から41/P5または40/S1から40/S5)を生成プログラムの適切な処理オプションに指定すると、「Intrastatワークファイル生成 - 受注」(R0018I1)プログラムと「Intrastatワークファイル生成 - 購買」(R0018I2)プログラムにより、F0018Tテーブルの情報が更新されます。Intrastatワークファイル改訂プログラム(P0018T)でデータを直接入力することもできます。</p>
<b>プロジェクトNo.</b>	システムでETOプロジェクトを識別するコードを入力します。プロジェクトの追加/改訂プログラム(P31P011)でプロジェクトを設定する必要があります。
<b>相手勘定</b>	請求書や伝票の転記時に相手勘定として使用する取引勘定科目を決定するコードを入力します。AAI項目RC(売掛管理)またはPC(買掛管理)とこ

の値を組み合わせて、取引勘定科目が検索されます。たとえば、TRADと入力すると、AAI項目RCTRAD(売掛管理)またはPCTRAD(買掛管理)が検索されます。

相手勘定を表す最大4文字の英数字、または(多通貨環境でトランザクションを入力する場合は)3文字の通貨コードを割り当てることができます。ただし、対応するAAI項目をシステムに設定しておく必要があります。この設定がない場合は相手勘定は無視され、指定された会社のPCまたはRCに設定されている勘定科目が使用されます。

顧客または仕入先レコードの「相手勘定」フィールドにデフォルト値を設定すると、上書きしないかぎり、トランザクション入力中はこの値が使用されます。

**注意:** コード9999は使用しないでください。これは、転記プログラム用の予約コードで、相殺を行わないように指定するものです。

## ASN住所情報の改訂

「EDIオーダー住所制御の改訂」フォームにアクセスします。

The screenshot shows a web-based form titled "出荷通知詳細の処理 - EDI オーダー住所制御の改訂". At the top, there are navigation buttons: "OK(O)", "Cancel(L)", and "Tools(T)". Below these are icons for save, delete, and refresh. The form contains the following fields:

- EDI 伝票No. (empty)
- オーダーNo. (878890, SO, 00000)
- レコード・タイプ (checkbox)
- レコード順序 (checkbox)
- 処理済み(Y/N) (checkbox)
- バッチNo. (95)
- 取引入力者 (empty)
- プログラムID (empty)
- 更新日付 (empty)
- ユーザーID (empty)
- ワークステーションID (empty)
- 更新時刻 (empty)

「EDIオーダー住所制御の改訂」フォーム

### レコード・タイプ

EDIトランザクション・レコードが見出し情報か、明細情報かを示す識別子を入力します。このフィールドは、EDIの場合にのみ表示されます。

### バッチNo.

バッチに自動的に割り当てられる番号を入力します。バッチ処理中に、検出された各制御(ユーザー)バッチ番号のJD Edwards EnterpriseOneトランザクションに新規のバッチ番号が割り当てられます。

## その他のASN情報の改訂

「出荷通知明細の改訂(その他)」フォームにアクセスします。

### オーダー

「その他」タブ(一番左のタブ)を選択します。

<b>オーダー変更回数</b>	この購買オーダーが変更された回数を入力します。特定のオーダー変更回数を検索して、変更されたフィールドを確認できます。
<b>値引適用タイプ</b>	受注オーダーに適用される値引のタイプを指定します。値は次のとおりです。 ブランク: 通常価格(再設定価格を含む) 1: 契約価格
<b>輸送</b>	
「輸送」タブを選択します。	
<b>輸入または輸出港</b>	商品の輸入港または輸出港を入力します。一部の国では、VAT申告用に輸入港または輸出港の情報が必要になります。輸入港または輸出港を指定する場合、購買オーダー作成時には入荷確認プログラム(P4312)を、受注オーダー作成時には受注オーダー入力プログラム(P4210)を、出荷確認時には出荷確認プログラム(P4205)を、あるいはIntrastat改訂プログラム(P0018T)を使用します。値はUDC 40/PEで設定します。
<b>出荷日一時変更</b>	オーダー入力でどの日付フィールドが入力されたかを示すコードを入力します。値は次のとおりです。 1: ピッキング日付(PDDJ)が入力されました。 2: 配送日付(RSDJ)が入力されました。 3: ピッキング日付と配送日付が入力されました。 4: 出荷日付(PPDJ)が入力されました。 5: ピッキング日付と出荷日付が入力されました。 6: 出荷日付と配送日付が入力されました。 7: ピッキング日付、出荷日付および配送日付が入力されました。
<b>ビジネスユニット</b>	
「ビジネスユニット」タブを選択します。	
<b>ビジネスユニット</b>	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。 ビジネスユニットを伝票、事業体、または個人に割り当てて、管轄別のレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別の未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの設備をトラッキングできます。 ビジネスユニットにセキュリティが設定されていると、権限のないユーザーにはビジネスユニットに関する情報が表示されない場合があります。
<b>収益原価センター</b>	管理レポートに必要な会計実体のビジネスユニットを入力します。プロフィット・センター、部門、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所などを入力できます。 このビジネスユニットは、レポート用に受注オーダー/購買オーダーの見出しに入力されたビジネスユニットと同じです。

このデータは入力時に常に右揃えされます。たとえば、CO123は「\_\_\_\_CO123」と表示されます。セキュリティ・メカニズムが備わっているため、ユーザーは権限外のビジネスユニットを入力および検索できません。

## その他

「その他」タブ(左から4番目のタブ)を選択します。

<b>配送No.</b>	自動的に割り当てられる次番号。システムでの配送のトラッキングに使用できます。この番号は、配送票の印刷時に割り当てられます。
<b>行タイプ</b>	取引行の処理方法を制御するコードを入力します。行タイプによって、一般会計、作業原価、買掛管理、売掛管理、在庫管理など、連動して取引を処理するシステムが制御されます。また、行をレポートに印刷する場合や、行を計算に組み込む場合の条件も指定します。値は次のとおりです。 S: 在庫品目 J: 作業原価 N: 非在庫品目 F: 運賃 T: テキスト情報 M: その他の料金および貸方 W: 作業オーダー
<b>引当(H/S) (引当(ハード/ソフト))</b>	特定の品目のソース保管場所とロットを指定したかどうかを示す値を入力します。保管場所を指定した場合はH(ハード)コミットが割り当てられ、後続のプログラムではオーダー行の充当に使用する保管場所およびロットが特定されません。保管場所を指定しない場合はS(ソフト)コミットが割り当てられ、オーダー行の数量を充当するのに最適な保管場所およびロット・レコードが特定されます。 値は次のとおりです。 S: ソフト・コミット H: ハード・コミット C: 引当プログラムによるハード・コミット K: キット・マスター行(引当なし) N: 作業オーダー(引当なし)
<b>キット・マスター行No.</b>	構成部品がキットまたは単一レベル部品表に追加される相対順序を示します。たとえば、キット・マスター行には1.0000などの整数が自動的に割り当てられます。 各構成部品行には、その行番号の連続するサブセットが割り当てられます。たとえば、最初の構成部品は行1.010、2番目の構成部品は1.020となります。
<b>輸送</b>	部品表での構成部品の順序を示す番号を入力します。 当初、この番号は構成部品がキットまたは単一レベル部品表に追加された相対順序を示しています。部品表での構成部品の表示順序を変更するには、この番号を変更します。

## オーダー・サフィックス

売掛管理システムおよび買掛管理システムでは、支払項目に対応するコードです。JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムおよび調達管理システムでは、当初オーダーに対する複数のトランザクションをこのコードで識別します。

購買オーダーでは、このコードは常に000になります。

1つのオーダーに対して複数の部分入荷が存在する受注オーダーでは、入荷の記録に使用される最初の確認書にサフィックス000が付き、次の確認書のサフィックスは001、その次の確認書は002のようになります。

## 制御情報

「コントロール情報」タブを選択します。

### 状況コード - 次

行タイプのオーダー・フローの次のステップを示すUDC(40/AT)を入力します。

### 状況コード - 前

処理サイクルでオーダー行の処理が正常に行われた最後のステップを示すUDC(40/AT)を入力します。

## ASN梱包情報の改訂

「ASN梱包の改訂」フォームにアクセスします。

出荷通知詳細の処理 - ASN梱包の改訂 i ?

OK(O) 取消(L) ツール(T) 保存 削除 戻る

販売先	4247	Coastal Services	出荷番号	218
出荷先			階層レベル	1
品目No.			階層レベル・コード	S

**梱包** 重量 料金 累計 ユーザー予約済み EDコード

梱包コード	X12	X12
標準梱包		
梱包数量		
コンテナ・コード(外装)	BOX2	箱タイプ2 - 48 Cl
梱包レベル	4	梱包階層なし
単位	BX	箱
		使い捨てコンテナ <input type="checkbox"/>

返却可能コンテナ部品No.	
梱包担当	
パッケージ条件	
シリアルNo.	
ラベル・データ識別子	
EPC No.	

## ASN梱包の改訂

**梱包**

「梱包」タブを選択します。

**梱包コード**

データ要素103のEDI X12定義で許容される値のいずれかに対応したコードを入力します。梱包形式(3文字)と梱包用材料(2桁)の組合せです。

**標準梱包**

コンテナ内の標準数量を示す数値を入力します。

**梱包数量**

ECO処分の結果、再作業または仕損となる品目の合計数量。

**コンテナ・コード**

保管コンテナまたは出荷カートンを識別するUDC(46/EQ)を入力します。保管コンテナには、コンテナ上に品目を保管する開放型コンテナ(パレットなど)とコンテナ内に品目を保管する密閉型コンテナ(箱など)があります。コンテナ/カートン・コード・プログラム(P46091)を使用して、保管コンテナを定義します。

**梱包レベル**

梱包階層を定義するUDC(47/PL)を入力します。たとえば、梱包階層が内側か外側かを指定できます。

**使い捨てコンテナ**

コンテナが使い捨てで受注オーダーに料金が発生するかどうかを示すには、このオプションを選択します。値は次のとおりです。

ブランク: 使い捨てではありません。

1: 使い捨てです。

**返却可能コンテナ部品No.**

品目に割り当てられる相互参照品目番号。相互参照番号により、オーダー処理や印刷の際に、自社品目番号と異なる仕入先の品目番号を使用できません。この番号は、品目相互参照プログラム(P4104)で設定します。

**梱包担当**

梱包担当機関を識別するUDC(47/PR)を入力します。

**パッケージ条件**

梱包条件を識別するUDC(47/PT)を入力します。

**シリアルNo.**

資産の代替識別番号として使用する、25桁の英数字の番号。場合によっては、この番号を使用して、製造業者のシリアル番号で資産をトラッキングできます。シリアル番号を使用して資産を識別することは必須ではありません。入力するシリアル番号は、それぞれ固有である必要があります。

**ラベル・データ識別子**

ASNのラベルのタイプを示す値を入力します。

**重量**

「重量」タブを選択します。

**品目重量**

現在、保管場所にある商品の重量。この保管場所詳細のレベル1単位に保管コンテナが設定されている場合、この数値は品目/単位プロファイルの重量とコンテナの重量から計算されます。

**総重量**

この単位での1品目の総重量、あるいは空の保管コンテナまたは出荷カートンの重量。デフォルト値はF4602テーブルから取得されます。値は保管時に、指定した保管場所の最大重量計算で使用されます。

**ASN需要住所情報の改訂**

「EDI ASN需要住所の改訂」フォームにアクセスします。

出荷通知詳細の処理 - EDI ASN需要住所の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

出荷 EDIコード

販売先 4247 Coastal Services 出荷番号 218

出荷先 階層レベル 1

階層レベル・コード S

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

業者タイプ	IDNo. タイプ	業者ID	業者名	業者名1	業者名2
CA	16	TRANSPORTATION CARRIER			

「EDI ASN需要住所の改訂」フォーム

<b>業者タイプ</b>	EDIメッセージ内の業者のタイプを識別するコードを入力します。このコードは通常、X12トランザクション・セットのN1セグメントの最初の要素です。
<b>ID No.タイプ</b>	ID番号のタイプを示すUDC(40R/ID)を入力します。
<b>国</b>	国を識別するUDC(00/CN)を入力します。国コードは、通貨換算には影響しません。  JD Edwards EnterpriseOne住所録システムでのデータ選択と住所形式の設定に、この国コードが使用されます。

## 子レコードの追加

この項では、子レコードの概要と、子レコードの追加に使用するフォームについて説明します。

### 子レコードについて

EDI ASN(事前出荷通知)の抽出プログラム(R47032)を実行すると、各階層レベルの「レコードID」フィールドと「親」フィールドが更新されます。「レコードID」データ項目には、階層内の各レコードに対する固有の値が含まれています。「親」データ項目には、親レコードの「レコードID」値が含まれています。したがって、ASNデータベース内の各レコードの間に直接の親子リンクを設定できます。

親子機能を使用すると、2つの階層レベル区切りの間に子レコードを追加できます。各レベル区切りは、そのレベル区切りに関連付けられているフィールドのサブセットを表します。子レコードを追加すると、次の処理が実行されます。

1. 選択したレコードのキー・フィールドを変数として保存します。
2. 階層レベルを検証し、新規レコードの追加先が最下位の階層レベルでないことを確認します。
3. 「EDI行No.」の値を0.001減分します。

明細レコードにEDI行番号が含まれている場合、EDI行番号は.001減分されます。明細レコードにその番号が含まれている場合、番号は.001などのように減分されます。

レコードのEDI行番号が変更された場合、その変更をASNデータベース内のすべての関連レコードに対して行う必要があります。

4. 「出荷通知明細の処理」フォームに新規レコードを表示します。

新しい子レコードの階層レベルは自動的に判別されます。最下位の階層レベルのレコードに子を追加しようとすると、エラー・メッセージが表示されます。

### 子レコードの追加に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
出荷通知明細の処理	W470371A	「EDI送信処理」メニュー(G40R14)、「出荷通知詳細の処理」  「出荷通知明細の処理」で、ASNレコードを検索して、「ロー」メニューの「子を追加」を選択します。	出荷通知明細を検索します。

---

## ASN 日付/時刻間隔の分析

この項では、ASNオンタイム分析の概要と、ASNオンタイム分析レポート・プログラム(R470361)の実行方法について説明します。

### ASNオンタイム分析について

ASNプロセスで発生する日付/時刻間隔を分析できます。これにより、ASNプロセスの効率を判断し、タイム・ラグを特定して、問題を修正することが可能になります。たとえば、次のイベントの日付および時刻を比較できます。

- 出荷確認とASN作成
- 出荷確認とEDI伝送
- ASN作成と受信確認
- EDI伝送と受信確認

「処理」タブの「例外時間」処理オプションを使用すると、1つ以上の間隔が指定した時間を超えている出荷のみにレポートを限定できます。デフォルトでは、間隔の計算に使用される日付と時刻は表示されません。計算された値の日付と時刻を印刷するかどうかを指定するには、「印刷」タブの「日付、時刻の印刷」処理オプションを使用します。

このレポートの処理には、次のテーブルが使用されます。

- F47036
- F470371

### ASNオンタイム分析レポート・プログラム(R470361)の実行

「レポート」メニュー(G40R111)、「ASNオンタイム分析」を選択します。

---

## 受信確認アクティビティの分析

この項では、受信確認アクティビティ分析の概要と、受信確認精度分析レポート(R47191)の実行方法について説明します。

### 受信確認アクティビティの分析について

特定の出荷や請求書に関連する受信確認アクティビティを分析できます。各受信確認は、EDIランザクション・メッセージの受理または却下に関する情報と、ASNが受理または却下された理由(最大5件)を提供します。オプションとして、特定のセグメントや要素に関連する詳細なエラー情報を選択して表示することもできます。

このレポートには2つのバージョンがあります。バージョンZJDE0001には、受信確認対象のメッセージがASN(856またはDESADV)である場合のデフォルト・データ選択が設定されています。バージョンZJDE0002には、受信確認対象のメッセージが請求書(810またはINVOIC)である場合のデータ選択が設定されています。

## 受信確認精度分析レポート(R47191)の実行

「レポート」メニュー(G40R111)、「受信確認精度レポート」を選択します。

### ASN情報の再計算

この項では、ASNの再計算の概要と、単一ASNレコードを再計算する方法について説明します。

#### ASNの再計算について

出荷通知の処理プログラム(P47036)でASN情報を改訂した後、ASN再計算レポート(R47035)を実行してASNのフィールドを再計算できます。このレポートでは処理オプションは使用されませんが、データ選択のバージョンを設定する必要があります。F470371テーブルに含まれるレコードが処理され、ASNの最下位の階層レベルから再計算が実行されます。

**注意:** このレポートは、レコードの一括更新を目的としています。出荷通知の処理プログラムから、単一ASNレコードに対してこのレポートを実行できます。

このレポートを実行すると、次のフィールドが再計算されます。

フィールド	説明
SOQS	出荷数量
UORG	オーダー/トランザクション数量
SOBK	バックオーダー数量
SOCN	取消/破損数量
SONE	将来引当数量
UOPN	未処理数量
QTYT	累計出荷数量
QRLV	リリース数量
URAT	ユーザー予約金額
SCCQ	SCC数量
UPQT	UPC数量
AEXP	金額: 合計価格
ECST	金額: 原価小計
TCST	合計原価: 在庫移動

フィールド	説明
PQQR	基本単位でのオーダー数量
ITWT	単位重量
ITVL	単位容量
GRWT	総重量
FEA	合計価格(外貨)
FEC	合計原価(外貨)

## ASN情報の再計算に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
出荷通知明細の処理	W470371A	「EDI送信処理」メニュー(G40R14)、「出荷通知詳細の処理」  複数のレコードを再計算するには、メニューの「ASNの再計算」を選択します。	単一ASNレコードを再計算します。

### 単一ASNレコードの再計算

「出荷通知明細の処理」フォームにアクセスします。レコードを検索して、「ロー」メニューの「再計算」を選択します。

## R47032変換プログラム(R47032C)の実行

「EDI送信処理」メニュー(G40R14)、「R47032変換プログラム」を選択します。

このプログラムは、ASN情報を抽出してカンマ区切りのフラット・ファイルを作成します。

## EDI ASNレコードの除去

「上級/技術的操作」メニュー(G40R31)、「送信出荷EDIの除去」を選択します。

EDI ASNレコードの除去プログラム(R47039)は、データ選択に基づいてF47036テーブルのレコード、および次の従属テーブルのレコードを削除するために実行します。

- F470371
- F4714
- F470371T

- F4715
- F4706
- F470372
- F470373
- F470374
- F470375

EDI ASNテーブルの子レコードを削除するには、「EDI伝票No.」、「EDI伝票タイプ」および「EDI伝票会社」のキー値の組合せが使用されます。

## 第 9 章

# EDI受信確認ドキュメント(997/CONTRLおよび824/APERAK)

この章では、受信確認ドキュメントおよび受信確認優先情報の概要と、受信したEDI受信確認レコードの処理方法について説明します。

---

## 受信確認ドキュメントについて

受信確認とは、送信した当初メッセージが受信されたことを確認するEDIメッセージです。受信確認によって、単にEDIメッセージを受理したことを伝えたり、メッセージに関して検出された詳細なエラー情報を表示することができます。メッセージが受理または却下された場合に、自動的に通知を受け取ることも可能です。たとえば、事前出荷通知(ASN)の送信後、一定時間内に受信確認が届かなかった場合に、通知を受け取ります。

受信確認EDIメッセージのデータは、EDI(システム47)テーブルに移入されます。受信確認が処理され、適切な事前出荷通知レコードとF47046テーブルが更新された後、ワークフローを使用して受信確認通知が送信されます。

システムでは、次のメッセージを通じて受信確認を受け取ります。

- 受取通知(997/CONTRL)
- アプリケーション通知(824/APERAK)

受取通知を使用すると、当初メッセージの送信者はエンベロップに関するエラーや構造上のエラーが発生していないかどうかを確認できます。受取通知の場合、メッセージの内容は評価されません。

アプリケーション通知の場合、メッセージの内容が評価され、メッセージの内容に関するエラーを伝えるアプリケーション通知メッセージが返されます。

---

**注意:** 受取通知(861/RECADV)を824/APERAKドキュメントと同様に使用する顧客もあります。そのような場合は、861メッセージを受信確認テーブルにマッピングできます。

---

---

## 受信確認優先情報について

設定時に、次の優先情報に基づいてワークフローを実行するかどうかを指定する必要があります。

- 出荷先、販売先
- 受信確認コード
- 受信確認対象メッセージ

たとえば、「販売先」と「出荷先」のすべての値、および却下された事前出荷通知のみに対してワークフローを実行するよう優先情報を設定できます。856受信確認対象メッセージに対してコードR(却下)の受信確認が生成された場合、ワークフロー・メッセージを送信する必要があることを示す1が返されます。メッセージには「EDI受信確認の処理」フォームの適切なレコードへのリンクが含まれます。

## 受信したEDI受信確認レコードの処理

この項では、受信したEDI受信確認レコードの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 受信したEDI受信確認の照会(P47191)の処理オプションの設定
- 受信確認見出しレコードの追加
- 受信確認エラーの確認
- エラー詳細に対するエラー・ノートの入力
- 受信確認の名称および住所情報の改訂
- 受信確認の参照情報の改訂
- 受信したEDI受信確認の除去(R47188)の実行

## 受信したEDI受信確認レコードについて

特定の受信確認レコードを検索し、必要に応じて情報の改訂やエラーの調査を行うことができます。特定の受信確認の検索、改訂、削除、および受信確認処理中に発生したエラーの調査を行うには、受信したEDI受信確認の照会プログラム(P47191)を使用します。エラーの詳細や複数のエラー詳細レコードを一度に改訂できます。特定のエラー詳細レコードにノートを追加することも可能です。レコードは、EDI伝票番号とトランザクション・セットに基づいて検索します。また、日付範囲を指定してレコードの検索を絞り込むことができます。受信確認情報により、事前出荷通知テーブルと電子請求書テーブルが更新されます。

このアプリケーションは、受信確認レコードに関連付けられている名前、住所および参照情報の表示または編集にも使用できます。

受信確認の処理には、次のテーブルが使用されます。

テーブル名	説明
F47191	受信した受信確認ごとに1つのレコードが格納されます。受信確認についてのデータはまとめて格納されます。
F47192	ASNについて報告されたエラーの詳細が格納されます。要素にはエラー・セグメントの位置と要素エラー・コードが含まれます。
F47198	エラー・セグメントに付随するノートが格納されます。
F47196	EDIメッセージを通じて受信した業者の修飾子、コードおよび名前が格納されます。

テーブル名	説明
F47194	見出し情報またはエラー詳細情報に関連付けられている参照修飾子および番号が格納されます。
F47046	関連する受信確認についての情報が格納されます。受信確認情報に基づいてレコードをすばやく検索できます。

## 事前設定

受信確認に関する次のユーザー定義コード(UDC)を設定します。

- トランザクション・タイプ(00/TT)
- EDIトランザクション・セット番号(40/ST)
- 受付コード(47/AC)
- セグメント結果コード(47/NC)
- トランザクション・セット・エラー理由コード(47/RC)
- 要素エラー・コード(47/EC)
- 当初メッセージ(47/OM)

## 受信したEDI受信確認レコードの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
EDI受信確認の処理	W47191A	「EDI受信処理」(G40R11)、 「受信確認」	受信確認レコードを検索 します。
EDI承認見出しの改訂	W47191B	「EDI受信確認の処理」で、 レコードを検索して「追加」 をクリックします。	受信確認見出しレコードを 追加します。
エラー詳細の改訂	W47191E	「EDI受信確認の処理」で、 レコードを検索して、「ロー」 メニューの「エラー詳細」 を選択します。	受信確認エラーを確認 します。
EDI承認通知の改訂	W47191H	「エラー詳細の改訂」で、 「ロー」メニューの「エラー・ ノート」を選択します。	エラー詳細に対するエ ラー・ノートを入力します。
EDI承認名と住所の改訂	W47191F	「EDI受信確認の処理」で、 レコードを検索して、「ロー」 メニューの「EDI承認名称と 住所」を選択します。	受信確認の名称および住 所情報を改訂します。
EDI承認参照の改訂	W47191G	「EDI受信確認の処理」で、 レコードを検索して、「ロー」 メニューの「EDI承認参照の 改訂」を選択します。	受信確認の参照情報を 改訂します。

## 受信したEDI受信確認の照会(P47191)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

この処理オプションを使用して、受信確認処理のトランザクション・セット番号を指定します。

1. トランザクション・セット番号      受信したEDI受信確認の照会プログラム(P47191)でのデフォルト・トランザクション・セット番号を指定します。

### バージョン

この処理オプションを使用して、受信確認の処理に使用されるバージョンを指定します。

1. 送信EDI請求書照会(P47046)のバージョン      受信したEDI受信確認の照会プログラム(P47191)からこのプログラムを起動したときに実行する送信EDI請求書照会プログラム(P47046)のバージョンを指定します。
2. 出荷通知の処理(P47036)のバージョン      受信したEDI受信確認の照会プログラム(P47191)からこのプログラムを起動したときに実行する出荷通知の処理プログラム(P47036)のバージョンを指定します。

## 受信確認見出しレコードの追加

「EDI承認見出しの改訂」フォームにアクセスします。

受信確認 - EDI承認見出しの改訂			
OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)			
伝票No.	808	EDI送信日付	2008/03/08
レコード順序	4	EDI送信時刻	1100
出荷先	4247	Coastal Services	
販売先			
トランザクション・セット		デフォルトトランザクションセットID 40/ST	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span>メッセージ</span> <span>日付と時刻</span> <span>理由コード</span> <span>EDI</span> </div>			
<b>当初メッセージ</b>		<b>インターチェンジ</b>	
受信確認コード	7 承認済み	バッチNo.	100
受信確認された当初レコード		送信者ID	
受信確認メッセージ参照No.		受信者ID	
受信確認済みメッセージの照合状況	<input type="checkbox"/>	<b>数量</b>	
<b>連絡先番号</b>		入荷	
出荷番号	218	返却	
請求書No.	38080	問題数量 1	
船荷証券No.	BL5438	<b>金額</b>	
顧客参照No.	1860	数量	
顧客仕入先品目No.		オーダー合計金額	
		出荷CUM	
		単位	

「EDI承認見出しの改訂」フォーム

## メッセージ

「メッセージ」タブを選択します。

### 伝票No.

EDIトランザクションで自動的に割り当てられる伝票番号です。

EDI環境以外では、オーダー入力時に割り当てられるオーダー番号(DOCO)と一致します。

### レコード順序

H01、H02、D01など、EDIトランザクションの見出しまたは明細情報の相対的な位置を割り当てるときに使用する識別子です。

### トランザクション・セット

特定のタイプのEDIトランザクションを識別する修飾子を入力します。

### EDI送信日付（電子データ交換送信日付）

EDIトランザクションが伝送または受信された日付を入力します。

### EDI送信時刻（電子データ交換送信時刻）

EDI伝送が行われた時刻を入力します。この値はサード・パーティの変換ソフトウェアが指定します。

<b>受信確認コード</b>	EDIメッセージが受理されたか、却下されたかを示すUDC(47/AC)を入力します。
<b>受信確認済みメッセージの照合状況</b>	受信確認済みメッセージのレコードが受信確認の日付および時刻で更新されたことを示す値を入力します。
<b>受信確認された当初レコード</b>	受信確認される当初トランザクションまたはメッセージを識別する値を入力します。
<b>受信確認メッセージ参照No.</b>	受信確認されるメッセージを識別する番号を入力します。
<b>出荷番号</b>	出荷を一意に識別する次番号を入力します。
<b>請求書No.</b>	当初伝票を識別する番号を入力します。当初伝票には、仕入先請求書、受注オーダー、請求書、仮受金、仕訳などの種類があります。
<b>船荷証券No.</b>	船荷証券に表示され、EDI受信確認トランザクション・セットで送信される番号を入力します。この番号には通常、F4217テーブルに設定されているものを入力します。
<b>顧客参照No.</b>	顧客を識別する番号を入力します。
<b>顧客/仕入先品目No.</b>	品目に割り当てられる相互参照品目番号。相互参照番号により、オーダー処理や印刷の際に、自社品目番号と異なる仕入先の品目番号を使用できます。この番号は、品目相互参照プログラム(P4104)で設定します。
<b>バッチNo.</b>	バッチに自動的に割り当てられる番号です。バッチ処理中に、検出された各制御(ユーザー)バッチ番号のJD Edwards EnterpriseOneトランザクションに新規のバッチ番号が割り当てられます。
<b>送信者ID</b>	送信者によって発行されるIDコードを入力します。このコードは、他の関係者がデータを自分自身に転送する際に受信者IDとして使用します。送信者は必ずこの値を送信者ID要素にコーディングします。
<b>受信者ID</b>	データの受信者によって発行されるIDコードを入力します。このコードは、送信時に送信者の送信IDとして使用されます。そのため、他の関係者は自分自身にデータを転送する際に、このコードを受信IDとして使用します。
<b>問題数量</b>	EDI受取通知の問題のある数量を入力します。
<b>数量</b>	合計要求数量を入力します。
<b>オーダー合計金額</b>	オーダーの合計金額を入力します。これは、すべての合計行金額の合計です。この金額には税額は含まれません。
<b>出荷CUM(累計出荷)</b>	販売先または出荷先の場所に対して出荷された累計数量。
<b>単位</b>	CS(ケース)、BX(箱)のように、表示される在庫品目の数量単位を示すUDC(00/UM)。
<b>日付と時刻</b>	
	「日付と時刻」タブを選択します。
<b>実際出荷日付</b>	顧客への出荷が出荷済であると確認された日付を入力します。出荷確認時に、F4211テーブルがこの日付で更新されます。

<b>実際出荷時刻</b>	実際の出荷時刻を入力します。24時間制のフォーマット(HHMMSS)を使用して時刻を入力します。たとえば、午前6:00は060000、午後7:00は190000と入力します。
<b>ASN出荷時刻コード</b> (事前出荷通知出荷時刻コード)	一般にASNに表示される出荷時刻に関連付けられた標準時間帯を識別するコードを入力します。
<b>請求書日付</b>	請求書または伝票に手動または自動で割り当てる日付を入力します。仕入先からの請求書または顧客への請求書の日付です。
<b>請求書時刻</b>	請求書に表示される時刻を入力します。
<b>請求書の標準時間帯</b>	一般に請求書に表示される時刻に関連付けられた標準時間帯を識別するコードを入力します。
<b>EDI処理日付</b> (電子データ交換処理日付)	顧客がEDIトランザクションを処理した日付を入力します。
<b>EDI処理時刻</b> (電子データ交換処理時刻)	顧客がEDIトランザクションを処理した時刻を入力します。
<b>顧客EDIの標準時間帯</b> (電子データ交換処理時刻コード)	一般に顧客が処理するEDIトランザクションに関連付けられた標準時間帯を識別するコードを入力します。
<b>理由コード</b>	「理由コード」タブを選択します。
<b>エラー理由コード1</b>	EDIエラーの理由を識別するUDC(47/RC)を入力します。
<b>EDI</b>	「EDI」タブを選択します。
<b>トランザクション・セット目的</b>	トランザクションの目的を識別するコード。UDCテーブル47/PUを参照してください。このテーブルの第2記述の最初の文字は、トランザクションの処理方法を制御します。ANSI X.12のデータ項目353を参照してください。
<b>レコード・タイプ</b>	EDIトランザクション・レコードが見出し情報か、明細情報かを示す識別子を入力します。このフィールドは、EDIの場合にのみ表示されます。
<b>送受信インディケータ</b>	特定のトランザクション・セットが送信、受信、送受信のいずれかを識別するために使用されるインディケータ。値は次のとおりです。 S: 送信 R: 受信 B: 送受信
<b>変換フォーマット</b>	送受信両方のEDIトランザクションの処理に使用されるマッピング構造を識別する修飾子を入力します。これは、非EDIトランザクションには適用されません。
<b>行No.</b>	EDIトランザクションの開始時に割り当てる行番号です。この番号には、オーダー行番号(どのオーダー・タイプにも使用可)、請求書の支払項目、仕訳行番号などを指定できます。

<b>処理済み(Y/N)</b>	レコードが正常に処理されたかどうかを示すには、このオプションを選択します。アプリケーションに応じて、テーブルのEDSPフィールドが次のいずれかの値に更新されます。 ブランク: 未処理です。 1: 正常に処理されています。
<b>処理済み明細行数</b>	EDITランザクションで伝送される明細行の数を入力します。オーダーや請求書当たりの合計行数などです。

## 受信確認エラーの確認

「エラー詳細の改訂」フォームにアクセスします。

<b>レコード・タイプ</b>	EDITランザクション・レコードが見出し情報か、明細情報かを示す識別子を入力します。このフィールドは、EDIの場合にのみ表示されます。
<b>行No.</b>	EDITランザクションの開始時に割り当てる行番号です。この番号には、オーダー行番号(どのオーダー・タイプにも使用可)、請求書の支払項目、仕訳行番号などを指定できます。
<b>構文エラー・コード</b>	データ要素の構文編集後に見つかったエラーのタイプを示すUDC(47/EC)を入力します。
<b>エラーのあるデータ要素</b>	エラーのあるデータ要素を入力します。
<b>セグメントID</b>	問題のあるEDIセグメントを識別する値を入力します。
<b>セグメント位置</b>	EDIメッセージ内のエラーを含むセグメントの位置を識別する値を入力します。
<b>セグメント・エラーID</b>	「セグメントID」フィールドでユーザー定義された、セグメントのエラーを識別するコードを入力します。
<b>ループID</b>	メッセージ内のエラーを含むループを識別するコードを入力します。
<b>要素参照No.</b>	エラーを含むデータ要素を識別する参照番号を入力します。
<b>新しいデータ要素名</b>	新しいデータ要素の説明を入力します。
<b>明細行数</b>	EDITランザクションで伝送される明細行の数を入力します。オーダーや請求書当たりの合計行数などです。
<b>送受信インディケータ</b>	特定のランザクション・セットが送信、受信、送受信のいずれかを識別するために使用されるインディケータ。値は次のとおりです。 S: 送信 R: 受信 B: 送受信
<b>変換フォーマット</b>	送受信両方のEDITランザクションの処理に使用されるマッピング構造を識別する修飾子を入力します。これは、非EDITランザクションには適用されません。
<b>処理済み</b>	レコードが正常に処理されたかどうかを示すには、このオプションを選択します。アプリケーションに応じて、テーブルのEDSPフィールドが次のいずれかの値に更新されます。

ブランク: 未処理です。

1: 正常に処理されています。

#### レコード順序

H01、H02、D01など、EDIトランザクションの見出しまたは明細情報の相対的な位置を割り当てるときに使用する識別子です。

## エラー詳細に対するエラー・ノートの入力

「EDI承認通知の改訂」フォームにアクセスします。

#### 自由テキスト修飾子

EDIメッセージ内の自由テキストを識別する値を入力します。

#### 自由テキスト

EDIメッセージで使用される自由テキスト。自由テキスト修飾子は通常、このテキストを識別するものです。

## 受信確認の名称および住所情報の改訂

「EDI承認名と住所の改訂」フォームにアクセスします。

#### 業者タイプ

EDIメッセージ内の業者のタイプを識別するコードを入力します。このコードは通常、X12トランザクション・セットのN1セグメントの最初の要素です。

#### IDタイプ

ID番号のタイプを示すUDC(40R/ID)を入力します。

#### レコード・タイプ

EDIトランザクション・レコードが見出し情報か、明細情報かを示す識別子を入力します。このフィールドは、EDIの場合にのみ表示されます。

#### プログラムID

バッチ・プログラムまたは対話型プログラム(バッチ・オブジェクトまたは対話型オブジェクト)を識別するIDを入力します。たとえば、対話型プログラムである“受注オーダー入力”のIDはP4210、バッチ処理レポートである“請求書の印刷”のIDはR42565です。

プログラムIDの桁数は固定されていません。この値は、TSSXXXという形式で割り当てられます。この形式の変数は次のとおりです。

T: IDの最初の文字。この文字は、プログラムの場合はP、レポートの場合はRのように、タイプを識別する英字です。たとえば、P4210のPは、プログラムであることを示します。

SS: IDの2番目と3番目の文字は数字であり、システム・コードを識別します。たとえば、P4210の42は、このプログラムがJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムに属していることを示します。

XXX: プログラムIDの残りの文字は数字であり、固有のプログラムまたはレポートを識別します。たとえば、P4210の10は、受注オーダー入力プログラムであることを表します。

#### 業者名

EDIメッセージ内の業者タイプと業者IDで識別される業者の名前を入力します。

#### バッチNo.

バッチに自動的に割り当てられる番号を入力します。バッチ処理中に、検出された各制御(ユーザー)バッチ番号のJD Edwards EnterpriseOneトランザクションに新規のバッチ番号が割り当てられます。

#### 明細行数

EDIトランザクションで伝送される明細行の数を入力します。オーダーや請求書当たりの合計行数などです。

<b>送受信インディケータ</b>	特定のトランザクション・セットが送信、受信、送受信のいずれかを指定するインディケータを入力します。値は次のとおりです。 S: 送信 R: 受信 B: 送受信
<b>変換フォーマット</b>	送受信両方のEDITランザクションの処理に使用されるマッピング構造を識別する修飾子を入力します。これは、非EDITランザクションには適用されません。
<b>処理済み</b>	レコードが正常に処理されたかどうかを示す場合に選択します。アプリケーションに応じて、テーブルのEDSPフィールドが次のいずれかの値に更新されます。 ブランク: 未処理です。 1: 正常に処理されています。
<b>レコード順序</b>	H01、H02、D01など、EDITランザクションの見出または明細情報の相対的な位置を割り当てるときに使用する識別子です。
<b>行No.</b>	EDITランザクションの開始時に割り当てられる行番号です。この番号には、オーダー行番号(どのオーダー・タイプにも使用可)、請求書の支払項目、仕訳行番号などを指定できます。

## 受信確認の参照情報の改訂

「EDI承認参照の改訂」フォームにアクセスします。

<b>参照No.修飾子</b>	参照番号を修飾する値を入力します。X12およびEDIFACTのEDI修飾子を使用できます。
<b>参照No.</b>	特定のEDITランザクション・セットに対して定義された、または参照番号修飾子で指定された参照番号またはID番号を入力します。
<b>レコード順序</b>	H01、H02、D01など、EDITランザクションの見出または明細情報の相対的な位置を割り当てるときに使用する識別子です。

## 受信したEDI受信確認の除去(R47188)の実行

「上級/技術的操作」メニュー(G40R31)、「受信したEDI受信確認の除去」を選択します。

古い受信確認の見出しレコードおよび関連する詳細レコードをすべて削除できます。このバッチ・アプリケーションでは、「処理済み」の値がYに設定されている受信確認レコードが検索されます。

## 付録 A

# JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理の標準ワークフロー

この付録では、JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理の標準ワークフローについて説明します。

### 関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Workflow Tools Guide

---

## JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理の標準ワークフロー

この項では、JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理のワークフローについて説明します。

### 需要正味差異

この項では、需要正味差異ワークフローについて説明します。

#### 内容

ワークフローの概要	正味差異がユーザー定義の通知レベルを超えるたびに、入力権限を付与されているユーザーにワークフロー・メッセージが送信されます。
ワークフロー・トリガー	“需要正味差異ワークフローUBEの開始”により、需要正味差異ワークフロー・プロセスが開始されます。
ワークフロー処理	需要詳細データベース・テーブル内で正味差異が通知レベルを超えているレコードごとに、ワークフロー・メッセージが生成されます。

#### ワークフロー・オブジェクト

システム	40R
ワークフロー・オブジェクト名	K40R110
オブジェクトID	R40R110
イベント記述/関数名	需要正味差異ワークフローUBEの開始
順序/行番号	48

### 受信ラッパー・ワークフロー・プロセス

この項では、受信ラッパー・ワークフロー・プロセスについて説明します。

## 内容

ワークフローの概要	このワークフローでは、仕入先のデフォルト・ワークフローまたは顧客固有のカスタム・ワークフローから呼び出される事前定義済のビジネス関数がいくつか実行されます。事前定義済のビジネス関数が呼び出されるのは、顧客のビジネス・ルールに基づいてEDI受信需要を処理するためです。
ワークフロー・トリガー	編集/更新(受信)UBEにより、標準ラッパー・ワークフローが開始されます。この標準ラッパー・ワークフローにより、需要ワークフロー管理プログラムで指定したワークフローが開始されます。
ワークフロー処理	処理対象の受信需要データが格納されたキャッシュを特定するために、ジョブ番号がワークフローに渡されます。ワークフローに渡すことのできるオプション・パラメータは「販売先」と「出荷先」です。ワークフロー要求に従って、需要テーブルとCUMテーブルが更新されます。対応するワーク・センター・メッセージの製造順序データも検証されます。

## ワークフロー・オブジェクト

システム	40R
ワークフロー・オブジェクト名	K47171WF
オブジェクトID	R47171
イベント記述/関数名	編集/更新(受信)
順序/行番号	49

## 付録 B

# JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理レポート

この付録では、内示調整管理レポートの概要について説明し、次の情報を提供します。

- 全レポートの一覧表
- 主なレポートの詳細

## 内示調整管理レポート

様々なレポートを実行して、内示調整管理情報を分析できます。たとえば、船荷証券の印刷や出荷差異分析のための情報の印刷、需要アクティビティの確認、事前出荷通知プロセスの効率性分析などが行えます。

## 内示調整管理のすべてのレポート

次の表に、内示調整管理レポートをレポートID順に示します。

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R47191 受信確認精度レポート	EDITランザクション・メッセージの受理または却下に関する情報と、ASNが受理または却下された理由(最大5件)を表示します。	「レポート」メニュー(G40R111)、「受信確認精度レポート」
R470361 ASNオンタイム分析レポート	ASNプロセスの効率を監視するためのデータを表示します。	「レポート」メニュー(G40R111)、「ASNオンタイム分析」
R40R1010 CUM調整レポート	顧客と仕入先のCUM数量の差異を印刷します。	「レポート」メニュー(G40R111)、「CUM調整」
R40R1020 需要非活動分析レポート	特定の期間にわたって非活動の品目、古い品目、または処理を妨げるエラーが発生している可能性のある品目を印刷します。	「レポート」メニュー(G40R111)、「需要の非活動状況」

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R49118 内示調整管理船荷証券	出荷用に入荷した特定の商品に指定の出荷先に配送する約束になっていることを、運送業者の代理人に対して、あるいは特定の荷受人や顧客に対して表明します。  事前設定: 内示調整管理船荷証券の伝票コードBOL2を設定します。	「出荷および積荷」メニュー(G4911)、 「出荷処理」。「出荷確認」を選択することもできます。  「出荷処理」で、レコードを検索して、「ロー」メニューの「配送伝票」を選択します。  「配送伝票の選択」で、「DOCコード」フィールドに値を入力します。
R47037 EDI ASN送信データの更新レポート	伝送された伝票をすべて処理済としてマークすることで、同じ伝票が再送されるのを防止します。	「レポート」メニュー(G40R111)、 「EDI送信時更新」
R40R093 CUM履歴レコードの除去	古い累計履歴レコードを削除します。削除対象のレコードを決定するにはデータ選択を使用します。「処理」タブの処理オプションを使用すると、除去された情報を保管するかどうかと保管場所を指定できます。レコードに関連付けられている添付も除去されます。  F40R42テーブルから情報が除去されます。	「上級/技術的操作」メニュー(G40R31)、「CUM履歴の除去」
R40R030 出荷分析	必要な出荷日付を実際の出荷日付と比較します。	「レポート」メニュー(G40R111)、「出荷分析」
R49118 船荷証券の印刷	商品の輸送に関する法的文書として使用されます。	「略式コマンド」からメニュー「BV」(バッチ・バージョン)に移動し、バッチ・アプリケーションR49118を検索します。

## JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理の主なレポート

この項では、個々のレポートについて処理オプションなどの詳細情報を説明します。説明は、レポートID順になっています。

### R40R1010: CUM調整

CUM調整レポート(R40R1010)を実行すると、出荷数量と入荷数量の差異を特定できます。このレポートは、仕入先と顧客の累計数量を比較するものであり、仕入先が累計を確認して将来の出荷を顧客の要求に正確に適合させるのに役立ちます。

このレポートを自動的に実行するには、EDI需要(受信)の編集/更新バッチ・アプリケーション(R47171)の処理オプションで「バージョン」タブの「CUM調整レポート(R40R1010)のバージョン」処理オプションを設定します。

このレポートには情報が表示されるだけであり、トランザクション処理は含まれていません。差異が存在する場合、仕入先は差異の原因を特定して適切な是正措置を講じる必要があります。

## CUM調整 (R40R1010) の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

この処理オプションを使用して、品目の情報と累計数量の処理方法を指定します。

1. **品目詳細の表示**

累計差異のある品目をCUM調整レポート(R40R1010)に印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: すべての品目を印刷します。  
 1: 累計差異のある品目のみを印刷します。
2. **顧客CUM値**

CUM調整プログラム(R40R1010)を実行したときに、仕入先のCUM出荷数量を顧客のCUM出荷数量と比較するのか、顧客のCUM入荷数量と比較するのかを指定します。値は次のとおりです。  
 1: 仕入先のCUM出荷数量を顧客のCUM出荷数量と比較します。  
 2: 仕入先のCUM出荷数量を顧客のCUM入荷数量と比較します。

## CUM履歴レコードの除去 (R40R093) の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

この処理オプションを使用して、累計履歴レコードの除去方法を指定します。

1. **除去レコードの保管**

除去レコードを保管するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 保管しません。  
 1: 保管します。
2. **保管先の環境名**

除去レコードの保管先となる環境を指定します。除去レコードを保管する場合、この処理オプションの入力は必須です。保管先の環境およびデータ・ソースは、ソースの環境およびデータ・ソースと異なるものを指定する必要があります。
3. **保存時のテーブル名**

除去レコードの保管先となるテーブルの名前を指定します。この処理オプションを空白にすると、除去するテーブルの名前が使用されます。このテーブルは、除去プログラムによって作成されます。

## R40R030: 出荷分析

出荷分析レポート(R40R030)を実行すると、必要な出荷日付を実際の出荷日付と比較できます。レポートの出力は、次のタイプの情報で構成できます。

- 早く出荷された品目の割合
- 時間どおりに出荷された品目の割合
- 遅れて出荷された品目の割合

## • すべてのレコード

「表示」タブの出荷分析処理オプションで時間と数量の許容レベルを指定することにより、出荷の適時性を設定できます。たとえば、「早期出荷の許容時間(分)」処理オプションに30分の許容時間を指定したとします。オーダーの実際の出荷日時が要求出荷日時の30分前までであれば、そのオーダーは時間どおりとみなされます。

---

**注意:** 商品の実際の出荷は考慮されないため、このレポートは出荷プロセス全体を表すものではありません。

---

出荷分析レポートの情報の処理には、F40R41テーブルが使用されます。

## 出荷分析(R40R030)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 表示

この処理オプションを使用して、出荷分析に関する情報の処理方法を指定します。

1. **表示する出荷タイプ**      出荷分析プログラム(R40R030)の実行時に対象となる出荷を指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: すべての出荷が対象となります。  
 1: 遅延出荷のみが対象となります。  
 2: 早期出荷のみが対象となります。  
 3: 時間どおりの出荷のみが対象となります。
2. **早期出荷を「時間通り」として表示する**      出荷分析プログラム(R40R030)の実行時に早期出荷を時間どおりの出荷とみなすかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 早期出荷を早期として表示します。  
 1: 早期出荷を時間どおりとして表示します。
3. **早期出荷の許容時間(分)**      要求出荷時刻より何分以上前に行われた出荷が早期出荷とみなされるかを指定します。たとえば、30分と指定した場合、要求出荷時間より30分以上前に出荷されたものはすべて早期出荷とみなされます。
4. **遅延出荷の許容時間(分)**      要求出荷時刻より何分以上後に行われた出荷が遅延出荷とみなされるかを指定します。たとえば、30分と指定した場合、要求出荷時間より30分以上後に出荷されたものはすべて遅延出荷とみなされます。
5. **早期出荷の許容数量**      早期出荷の実際の数量をレポートに印刷するには、実際の数量が要求出荷数量の何%を超えている必要があるかを指定します。たとえば、10%と指定した場合、実際の出荷数量が要求出荷数量の10%を超えている早期出荷はすべてレポートに表示されます。
6. **遅延出荷の許容数量(画面上では「早期出荷の許容数量」)**      遅延出荷の実際の数量をレポートに印刷するには、実際の数量が要求出荷数量の何%を超えている必要があるかを指定します。たとえば、10%と指定した場合、実際の出荷数量が要求出荷数量の10%を超えている遅延出荷はすべてレポートに表示されます。

## R40R1020: 需要非活動分析

需要非活動分析レポート(R40R1020)を実行すると、特定の期間にわたって非活動の品目、古い品目、または処理を妨げるエラーが発生している可能性のある品目を識別できます。需要見出しレコードに関連する履歴レコードと、需要処理発生後の実際の経過日数を確認できます。

日数の計算は、「デフォルト」タブの「比較する日付」オプションの値から需要見出しレコードのEDIバッチ日付を差し引いて、最後のアクティビティ以降の日数を算出するという方法で行われます。この結果は、「処理」タブで指定した「比較する日数」処理オプションと比較されます。結果が比較する日数と同じか、それより多い場合は、そのことが表示されます。活動の詳細情報を印刷するかどうかも指定できます。

### 需要非活動分析(R40R1020)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### デフォルト

この処理オプションを使用して、需要非活動分析に関する情報の処理方法を指定します。

1. **比較する日付**                      需要非活動分析レポート(R40R1020)の実行時に、需要見出し情報のバッチ日付と比較される日付を指定します。この2つの日付が比較され、アクティビティ実行後の経過日数が特定されます。次に、経過日数が比較対象日数と比較され、アクティビティ実行後の経過日数をレポートに含めるかどうかが決まります。

#### 処理

この処理オプションを使用して、需要非活動日数の計算方法を指定します。

1. **比較する日数**                      アクティビティ実行後の経過日数を指定します。需要非活動分析レポート(R40R1020)の実行時に、この数値が比較対象日数と比較され、アクティビティ実行後の経過日数をレポートに含めるかどうかが決まります。
2. **活動詳細の日数**                      需要非活動分析プログラム(R40R1020)の実行時に対象となる需要履歴の日数を指定します。この日数は、F40R41テーブルに存在する最新のレコードから数えた日数です。

#### 印刷

この処理オプションを使用して、レポートへの活動詳細の表示方法を指定します。

1. **活動詳細の印刷**                      需要非活動分析レポート(R40R1020)の実行時に需要詳細情報を含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 関連レポートに需要詳細情報を含めません。  
 1: 関連レポートに需要詳細情報を含めます。

## R49118: 内示調整管理船荷証券

船荷証券とは、出荷元の会社から荷送人に対して発行され、法的文書として使用されるレポートです。出荷用に入荷した特定の商品を指定の出荷先に配送する約束になっていることを、運送業者の代理人に対して、あるいは特定の荷受人や顧客に対して表明します。

船荷証券の印刷レポート(R49118)には、品目番号や記述、重量など、出荷に関する情報が表示されません。

このバッチ・レポートを開始すると、伝票バッチ印刷UBE (R49590) が実行されます。次に、バージョン ZJDE0002を使用して輸送船荷証券の作成レポート(R49110)が実行されます。このプロセスでは、システム・テーブルからワークファイルが作成され、必要なテーブルが更新されます。続いて、内示調整管理用の船荷証券として使用されるR49116バッチ・レポートが実行されます。

出荷レポートに関する情報の処理には、次のテーブルが使用されます。

- F49111
- F49110
- F4620
- F49594

## 船荷証券の印刷 (R49118) の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 印刷オプション

この処理オプションを使用して、船荷証券に含める情報を指定します。

- |                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| 1. 重量合計の印刷に使用する単位を入力してください。       | 重量合計の表示に使用される単位を指定します。   |
| 2. 配送指示を印刷するには"1"を入力してください。       | 配送指示を印刷するかどうかを指定します。   |
| 3. 出荷の添付資料を印刷するには"1"を入力してください。    | 出荷添付資料を印刷するかどうかを指定します。   |
| 4. 配送経路の添付資料を印刷するには"1"を入力してください。  | 配送経路添付資料を印刷するかどうかを指定します。   |
| 5. オプションと設備情報を印刷するには"1"を入力してください。 | オプションと設備情報を印刷するかどうかを指定します。   |
| 6. 各伝票に印刷するグローバル・メッセージを入力してください。  | 各伝票に表示される一括メッセージを指定します。たとえば、生産設計仕様、休暇中の作業時間数、特殊配送指示などです。   |
| 7. 追加見出しテキストの印刷                   | 伝票がオリジナルと再印刷のどちらであることを示す追加見出しテキストを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。<br>ブランク: 追加見出しテキストを印刷しません。<br>1: 伝票がオリジナルであることを示す見出しテキストを印刷します。<br>2: 伝票が再印刷であることを示す見出しテキストを印刷します。 |
| 8. 品目を集計して印刷するには"1"を入力します。        | 内示調整管理船荷証券で品目または部品を集計するかどうかを指定します。   |

# JD Edwards EnterpriseOne用語集

アクセサ・メソッド/アクセサ	値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。
アクティビティ・ルール、処理規則	フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
拡張プランニング・エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。
代替通貨	取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。  JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。
アプリケーション・サーバー	分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。
仮定通貨処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。
自動コミット・トランザクション	すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。
バック・ツーバック・プロセス	JD Edwards EnterpriseOne 供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。
バッチ処理	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。  JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne 売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne 買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。
バッチ・サーバー	バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。
一括バッチ処理	クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。  “ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。
ベスト・プラクティス	開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。

<b>BPEL</b>	Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。
<b>BPEL PM</b>	Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。
<b>ビルド構成ファイル</b>	ANTスクリプトを生成するプログラムで使用される、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。
<b>ビルド・エンジニア</b>	アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。
<b>ビルド・プログラム</b>	ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。
<b>ビジネス・アナリスト</b>	EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。
<b>ビジネス関数</b>	ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます(在庫照会、作業オーダー発注など)。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック(Credit Check)や在庫照会(Item Availability)などがあげられます。
<b>ビジネス関数イベント・ルール</b>	“ネームド・イベント・ルール(NER)”の説明を参照してください。
<b>ビジネス・サービス</b>	Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。
<b>ビジネス・サービス・アーティファクト</b>	ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。
<b>ビジネス・サービス・クラス・メソッド</b>	ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。
<b>ビジネス・サービス構成ファイル</b>	interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertieなど(他にもある)の構成ファイルです。
<b>ビジネス・サービス相互参照</b>	オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。
<b>ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ</b>	JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
<b>ビジネス・サービス開発環境</b>	統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。
<b>ビジネス・サービス開発ツール</b>	JDeveloperという名前でも知られています。
<b>ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト</b>	EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。

<b>ビジネス・サービス・フレームワーク</b>	特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。
<b>ビジネス・サービス・ペイロード</b>	エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ</b>	ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール</b>	開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。
<b>ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ</b>	ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。
<b>ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化</b>	ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ・キー</b>	ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ</b>	EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用されるユーティリティAPIです。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ値</b>	ビジネス・サービス・プロパティの値です。
<b>ビジネス・サービス・リポジトリ</b>	ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。
<b>ビジネス・サービス・サーバー</b>	ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。
<b>ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス</b>	ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の一つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。
<b>ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート</b>	Cビジネス関数で使用される、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。
<b>ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ</b>	ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。
<b>ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト</b>	ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。
<b>ビジネス・ビュー</b>	アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOneテーブル(複数可)から、特定の列を選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定の行を選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。
<b>セントラル・オブジェクトのマージ</b>	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。
<b>セントラル・サーバー</b>	最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD

	Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。
<b>チャート</b>	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。
<b>チェックイン・リポジトリ</b>	開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。
<b>コネクタ</b>	JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間でロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。
<b>相殺/相手勘定</b>	JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。
<b>コントロール・テーブル・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。
<b>コントロール・テーブルのマージ</b>	顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。
<b>関連データ</b>	ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。
<b>コスト割当</b>	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。
<b>原価要素</b>	JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。
<b>資格証明</b>	JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。
<b>相互参照ユーティリティ・サービス</b>	EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
<b>セグメント間編集</b>	コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。
<b>通貨再換算</b>	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。
<b>cXML</b>	伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。
<b>データベース資格証明</b>	有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。
<b>データベース・サーバー</b>	データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。

<b>データ・ソース・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。
<b>期間パターン</b>	標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
<b>指定通貨</b>	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
<b>デプロイメント・アーティファクト</b>	サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。
<b>デプロイメント・サーバー</b>	エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
<b>明細情報</b>	JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。
<b>ダイレクト接続</b>	クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
<b>DNT (Do Not Translate)</b>	BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。
<b>2重価格設定</b>	商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。
<b>重複した公開ビジネス・サービス承認レコード</b>	同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。
<b>埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス</b>	JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。
<b>編集コード</b>	レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
<b>編集モード</b>	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
<b>編集ルール</b>	ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
<b>電子データ交換 (EDI)</b>	JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
<b>埋込みイベント・ルール</b>	特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。
<b>従業員ワーク・センター</b>	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。
<b>エンタープライズ・サーバー</b>	JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。

<b>ESB (Enterprise Service Bus)</b>	イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。
<b>EnterpriseOne管理者</b>	EnterpriseOne管理システムの担当者です。
<b>EnterpriseOne資格証明</b>	EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。
<b>EnterpriseOneオブジェクト</b>	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。
<b>EnterpriseOne開発クライアント</b>	以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。
<b>EnterpriseOne拡張機能</b>	EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。
<b>EnterpriseOneプロセス</b>	JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。
<b>EnterpriseOneリソース</b>	権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。
<b>環境ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
<b>エスカレーション・モニター</b>	処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。
<b>イベント・ルール</b>	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
<b>明示的トランザクション</b>	ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。
<b>公開されたメソッド/値オブジェクト</b>	公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。
<b>施設、事業所</b>	原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。
<b>略式コマンド</b>	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。
<b>ファイル・サーバー</b>	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけでなく、ネッ

	トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。
<b>最終モード</b>	データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。
<b>基盤</b>	実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBjがあげられます(この他にもあります)。
<b>FTPサーバー</b>	FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストに回答するサーバーです。
<b>見出し情報</b>	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。
<b>HTTPアダプタ</b>	特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。
<b>インスタンス化</b>	“作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。
<b>統合開発者</b>	EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。
<b>インテグレーション・ポイント(IP)</b>	ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。
<b>インテグレーション・サーバー</b>	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
<b>整合性テスト</b>	データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。
<b>インターフェイス・テーブル</b>	“Zテーブル”の説明を参照してください。
<b>内部メソッド/値オブジェクト</b>	公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。
<b>インタオペラビリティ・モデル</b>	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。
<b>エラー表示の有効化</b>	JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。
<b>IServerサービス</b>	Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
<b>代替ラベル</b>	代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。
<b>Javaアプリケーション・サーバー</b>	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。
<b>JDBNET</b>	異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。

<b>JDEBASEデータベース・ミドルウェア</b>	JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。
<b>JDECallObject</b>	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。
<b>jde.ini</b>	JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。
<b>JDEIPC</b>	サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
<b>jde.log</b>	JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。
<b>JDENET</b>	JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信用のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
<b>JDeveloperプロジェクト</b>	JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。
<b>JDeveloperワークスペース</b>	JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。
<b>JMSキュー</b>	ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。
<b>リスナー・サービス</b>	HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。
<b>ローカル・リポジトリ</b>	ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。
<b>ローカルのスタンドアロン BPEL/ESBサーバー</b>	アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロン BPEL/ESBサーバーです。
<b>ロケーション・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。
<b>ロジック・サーバー</b>	アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
<b>差し込み印刷ワークベンチ</b>	業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。
<b>手動コミット・トランザクション</b>	コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。
<b>マスター・ビジネス関数 (MBF)</b>	データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット

	が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。
<b>マスター・テーブル</b>	“パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。
<b>照合伝票</b>	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。
<b>メディア・ストレージ・オブジェクト</b>	Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。
<b>メッセージ・センター</b>	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。
<b>メッセージング・アダプタ</b>	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>メッセージング・サーバー</b>	メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。
<b>中間層BPEL/ESBサーバー</b>	アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。
<b>監視アプリケーション</b>	管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。
<b>ネームド・イベント・ルール (NER)</b>	カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
<b>Nota Fiscal</b>	ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
<b>Nota Fiscal Factura</b>	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。
<b>オブジェクト構成マネージャ (OCM)</b>	JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。
<b>オブジェクト・ライブラリアン</b>	アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。
<b>オブジェクト・ライブラリアンのマージ</b>	これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。
<b>オープン・データ・アクセス (ODA)</b>	データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。

<b>出力ストリーム・アクセス(OA)</b>	JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>パッケージ</b>	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。
<b>パッケージ・ビルド</b>	既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。 “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。
<b>パッケージ・ロケーション</b>	パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下のサブディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。
<b>パッケージ・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。
<b>パスコード・ディレクトリ</b>	EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。
<b>パターン</b>	ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。
<b>計画ファミリ</b>	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
<b>優先プロファイル</b>	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
<b>プリント・サーバー</b>	ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。
<b>プリステイン環境</b>	JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。
<b>処理オプション</b>	バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールド

	ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。
<b>本稼働用環境</b>	ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。
<b>本稼働レベルのファイル・サーバー</b>	品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。
<b>本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス</b>	本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。
<b>プログラム一時修正 (PTF)</b>	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。
<b>プロジェクト</b>	JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。
<b>プロモーション・パス</b>	ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。  11>21>26>28>38>01  このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。
<b>プロキシ・サーバー</b>	企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。
<b>公開ビジネス・サービス</b>	EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。
<b>公開ビジネス・サービス識別情報</b>	関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。
<b>公開ビジネス・サービスのWebサービス</b>	J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。
<b>パブリッシュ済テーブル</b>	マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。
<b>パブリッシュ</b>	パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。
<b>プル・レプリケーション</b>	JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先のマシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクリイバとしてセットアップされます。プル・サブスクリイバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクリイバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。

<b>QBE</b>	Query by Example (例示照会)の略語です。JD Edwards EnterpriseOneでは、QBE行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
<b>リアルタイム・イベント</b>	外部システムで使用するためにEnterpriseOneのアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。
<b>リフレッシュ</b>	新規リリースやPTF/累積アップデート・リリース(B73.2やB73.2.1など)に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアまたはそのサブセット(テーブルや業務データなど)を修正する機能です。
<b>レプリケーション・サーバー</b>	クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。
<b>Rt-Addressing</b>	ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。
<b>規則</b>	ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。
<b>見積オーダー</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。  JD Edwards EnterpriseOne受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。
<b>Secure by Default</b>	特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。
<b>SSL (Secure Socket Layer)</b>	通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSLを使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。
<b>SEI実装</b>	サービス・エンドポイント・インターフェイス(SEI)を宣言するメソッドを実装するJavaクラスです。
<b>選択項目</b>	JD Edwards EnterpriseOneメニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して[Enter]キーを押します。
<b>シリアライズ</b>	オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。
<b>サーバーワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
<b>サービス・エンドポイント・インターフェイス(SEI)</b>	クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言するJavaインターフェイスです。
<b>SOA</b>	Service Oriented Architectureの略語です。
<b>ソフトコーディング</b>	指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。
<b>ソース・リポジトリ</b>	HTTPアダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。
<b>スポット・レート</b>	取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。

<b>スペックのマージ</b>	オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。
<b>スペック</b>	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。
<b>スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。
<b>SSL証明書</b>	ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。
<b>オフライン処理</b>	サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。
<b>サブスクリバ・テーブル</b>	F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシュ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリバ・マシンの識別に使用されます。
<b>スーパークラス</b>	クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は樅や榎のスーパークラスであるといえます。
<b>補足データ</b>	<p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p>
<b>テーブル・アクセス管理(TAM)</b>	ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
<b>テーブル変換ディレクタ</b>	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>テーブル変換</b>	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>テーブル・イベント・ルール</b>	データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。
<b>ターミナル・サーバー</b>	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。
<b>3ステップ処理</b>	JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。

<b>3方向伝票照合</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。
<b>トランザクション処理(TP)モニター</b>	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。
<b>トランザクション処理方法</b>	手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です(開始、コミット、ロールバック、取消など)。
<b>トランザクション・セット</b>	複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション(電子データ交換の標準ドキュメント)です。
<b>トリガー</b>	データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。
<b>トリガーイベント</b>	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。
<b>2方向認証</b>	クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。
<b>2方向伝票照合</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。
<b>ユーザー識別情報</b>	ユーザーID、ロールまたは*publicです。
<b>ユーザー一時変更のマージ</b>	新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。
<b>値オブジェクト</b>	データ構造がデータを渡すのとよく似たように入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開(公開ビジネス・サービスで使用)か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。
<b>差異</b>	JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。  JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。
<b>公開ビジネス・サービスのバージョン</b>	既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。
<b>バージョン・リストのマージ</b>	バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。
<b>ビジュアル・アシスト</b>	ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。
<b>用語一時変更</b>	特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。
<b>wchar_t</b>	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。

<b>Webアプリケーション・サーバー</b>	Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。
<b>Webサーバー</b>	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。
<b>WSDL (Web Service Description Language)</b>	ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。
<b>WSIL (Web Service Inspection Language)</b>	使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。
<b>Webサービス・プロキシ基盤</b>	WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。
<b>Webサービス・ソフトコーディング・レコード</b>	Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。
<b>Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート</b>	ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。
<b>WHERE句</b>	データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部です。
<b>Windowsターミナル・サーバー</b>	マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。
<b>ウィザード</b>	JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。
<b>ワークベンチ</b>	関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエンリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ (P07210) を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ (P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ (P3153)、計画ワークベンチ (P13700)、監査人ワークベンチ (P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。
<b>作業日カレンダー</b>	JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成品と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
<b>ワークフロー</b>	ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス(ワークフロー)では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
<b>ワークグループ・サーバー</b>	マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
<b>XAPIイベント</b>	システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した

	サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。
<b>XML CallObject</b>	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
<b>XMLディスパッチ</b>	JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
<b>XMLリスト</b>	JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
<b>XMLサービス</b>	JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。
<b>XMLトランザクション</b>	事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。
<b>XMLトランザクション・サービス(XTS)</b>	JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。
<b>Zイベント</b>	インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。
<b>Zテーブル</b>	JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。
<b>Zトランザクション</b>	JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。

# 索引

- ASN
  - 日付/時刻間隔 135
  - 理解 95
  - ASN EDIテーブル 96
  - ASNオンタイム分析(R470361) 95
  - ASNオンタイム分析レポート(R470361) 135
  - ASNオーダー明細情報
    - 改訂 124
  - ASN階層
    - 設定 98, 99
    - 理解 98
  - ASN階層の設定 98
  - ASN合計
    - 再計算 102
  - ASN合計の再計算 101
  - ASN子レコード 134
  - ASN梱包情報
    - 改訂 131
  - ASN梱包の処理(W470371G) 113
  - ASN再計算(R47035) 95
  - ASN再計算レポート(R47035) 136
  - ASN(事前出荷通知) 95
  - ASN住所情報
    - 改訂 128
  - ASN需要住所情報
    - 改訂 133
  - ASN情報
    - 再計算 136
  - ASN情報抽出 96
  - ASN情報の再計算 136
  - ASN情報の抽出 96
  - ASNの親子階層 134
  - ASNの階層レベル 98
  - ASNの再計算
    - 理解 101
  - ASN日付/時刻間隔
    - 分析 135
  - ASN品目の出荷通知明細
    - 改訂 112
    - 理解 112
  - ASN品目の出荷通知明細の改訂 112
  - ASN品目明細情報
    - 改訂 114
  - ASNレコード
    - 更新 98
    - 単一レコードの再計算 137
- CUM調整レポート(R40R1010) 152
- 処理オプション 153
- CUMの管理(P40R12) 74
- CUMの管理プログラム(P40R12) 処理オプション 78
- CUM履歴レコードの除去レポート(R40R093) 処理オプション 153
- CUMロールバック 80
- 理解 80
- CUMロールバック・ワークファイル(F40R12WF) 35, 73
- CUMロールバックを使用した累計値のリセット 80
- Customer Connection Webサイト xiv
- EDI 3
  - 需要情報 17
  - 内示調整管理のための情報 17
- EDI ASN梱包詳細(F470375) 96
- EDI ASN(事前出荷通知)の抽出(R47032) 96
- EDI ASN出荷(F470373) 96, 100
- EDI ASN需要住所(F470374) 96
- EDI ASN需要住所の改訂(W470371I) 113
- EDI ASN送信データの更新プログラム(R47037)の実行 98
- EDI ASN内示調整管理詳細(F470372) 96
- EDI ASNレコードの除去 137
- EDI ASNレコードの除去(R47039) 95
- EDIコード 42
  - 相互参照 43
- EDI事前出荷通知(優先タイプ36) 35
- EDI受信確認エラー詳細(F47192) 140
- EDI受信確認参照(F47194) 140
- EDI受信確認通知(F47198) 140
- EDI受信確認ドキュメント
  - 理解 139
- EDI受信確認のテーブル 140
- EDI受信確認見出し(F47191) 140
- EDI受信確認名および住所(F47196) 140

- EDI出荷通知見出し(送信)(F47036) 96  
 EDI出荷通知明細(送信)(F470371) 96  
 EDI需要梱包の改訂(W47172J) 24  
 EDI需要住所(F471722) 20, 24  
 EDI需要住所の改訂(W47172G) 20, 24  
 EDI需要(受信)の編集/更新レポート  
 (R47171) 28  
 EDI需要(受信)の編集/更新レポート  
 (R47171)の実行 28  
 EDI需要詳細(F47172) 20  
 EDI需要詳細情報の改訂 20  
 EDI需要詳細の改訂(W47172B) 20  
 EDI需要スケジュールの改訂  
 (W47172D) 24  
 EDI需要スケジュールの処理  
 (W47172C) 20  
 EDI需要補足データ(F471721) 20, 24  
 EDI需要補足データの改訂  
 (W47172E) 20, 24  
 EDI需要見出しの改訂 19  
 EDI需要見出しレコード 18  
 EDI需要見出しレコードの作成 18  
 EDI需要レコード  
 除去 31  
 EDI需要レコードの住所の改訂 28  
 EDI需要レコードの除去 31  
 EDI需要レコードの連絡先名の改訂 28  
 EDI需要連絡先番号(F471724) 20, 24  
 EDI需要連絡先名(F471723) 20, 24  
 EDI情報  
 「EDI需要詳細の改訂」での改訂 24  
 EDI情報の改訂 24  
 EDI請求書見出し(受注管理): 送信  
 (F47046) 140  
 EDIデータ・インターフェイスとの統合 3  
 EDIトランザクション 7  
 EDI内示調整管理詳細(F47173) 24  
 EDI内示調整管理詳細情報の改訂 24  
 EDI標準時間帯(F4720) 96, 100  
 EDI標準時間帯(P4720) 95, 100  
 EDIメッセージ 7  
 F3470(需要展開テンプレート) 92  
 テーブル 91  
 F470371 EDI出荷通知明細(送信)  
 (F470371T)のタグ 96  
 JD Edwards EnterpriseOne売掛管理との  
 統合 4  
 JD Edwards EnterpriseOne在庫管理との  
 統合 3  
 JD Edwards EnterpriseOneシステム・コン  
 トロール(P99410)  
 内示調整管理の有効化 38  
 JD Edwards EnterpriseOne受注管理との  
 統合 3  
 JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理との  
 統合 3  
 JD Edwards EnterpriseOne輸送管理との  
 統合 3  
 P3470(需要展開の処理) 91, 92  
 P40R12プログラム  
 処理オプション 78  
 P40R20プログラム  
 処理オプション 38  
 P47191プログラム  
 処理オプション 142  
 PeopleCodeの表記規則 xvi  
 R40R030レポート  
 処理オプション 154  
 R40R093レポート  
 処理オプション 153  
 R40R1010レポート  
 処理オプション 153  
 R40R1020レポート 155  
 処理オプション 155  
 R47032 96  
 R47032C フラット・ファイル変換プログラ  
 ム 98  
 R47032 変換プログラム(R47032C) 137  
 R47032変換プログラム(R47032C)の実  
 行 137  
 R47171 EDI需要(受信)の編集/更新 28  
 R49118レポート 155  
 処理オプション 156  
 XAPIメッセージ 12
- あ**  
 値  
 前回出荷と前回入荷 22  
 アプリケーション通知(824  
 /APERAK) 139  
 アプリケーションの基礎 xiii
- う**  
 受取通知(997/CONTRL) 139  
 売上更新(R42800) 15
- え**  
 エラー詳細に対するエラー・ノート

入力 147

## お

オンタイム分析  
理解 135  
オーダー住所情報(W4006B) 113

## か

階層構成(F47HL) 96  
階層構成定義(P47HL) 95  
概要 7  
  内示調整管理 1  
確定需要 11, 83  
  処理 83  
確定需要の処理 83  
確認なし(優先タイプ30) 35  
カテゴリ・コード 24  
カテゴリ・コードの改訂 24  
カレンダー月規則 86  
関連ドキュメンテーション xiv  
カートンCUMモデル 48  
  設定 50  
カートンCUMモデル(F40R24) 35, 73  
カートン情報 11  
カートン・ラベル(優先タイプ39) 35  
カートン累計モデルの設定 48

## き

期間パターン月 86  
共通フィールド xviii

## く

グローバル手順  
導入 4

## け

計画需要 8  
計画制約(優先タイプ27) 35  
計画日付 86  
警告 xvii

## こ

ご意見 xviii  
顧客別予測消化 9  
ご要望 xviii  
子レコード  
  追加 134  
子レコード(ASN) 134  
子レコードの追加 134

梱包情報 65  
  改訂 27  
梱包情報の改訂 27

## さ

差異許容度(優先タイプ31) 35

## し

仕入先標準時間帯  
  追加 101  
時間枠 10, 84  
  例 85  
時間枠日付  
  理解 84  
時間枠日付の計算 84  
資材所要量計画(MRP)  
  顧客別予測消化 9  
事前出荷通知 12, 95  
  処理 95  
事前出荷通知の処理 95  
住所  
  EDI需要レコードの改訂 28  
住所録情報 67  
受信確認 12  
  参照情報の改訂 148  
受信確認アクティビティ 135  
  分析 135  
受信確認エラー  
  確認 146  
受信確認精度分析(R47191) 95  
受信確認精度分析レポート  
  (R47191) 136  
受信確認精度分析レポート(R47191)の  
  実行 136  
受信確認通知(優先タイプ33) 35  
受信確認の参照情報  
  改訂 148  
受信確認の詳細優先情報 139  
受信確認見出しレコード  
  追加 142  
受信確認名および住所情報  
  改訂 147  
受信確認優先情報 139  
受信確認レコード 140  
受信したEDI受信確認の照会プログラム  
  (P47191)  
  処理オプション 142  
受信したEDI受信確認の除去  
  (R47188) 148

- 受信したEDI受信確認レコード
  - 理解 140
- 受信したEDI受信確認レコードの処理 140
- 受注オーダー 11, 88
- 出荷および計画スケジュール 10, 83
- 出荷および計画スケジュールの作成 83
- 出荷確認の概要 12
- 出荷先情報 23
- 出荷先情報の改訂 23
- 出荷情報
  - 入力 21
- 出荷調整の概要 12
- 出荷通知情報
  - 改訂 105
  - 理解 106
- 出荷通知情報の改訂 105
- 出荷通知の改訂(出荷)(W47036F) 113
- 出荷通知の処理(P47036) 95, 105
- 出荷通知の処理(W47036C) 113
- 出荷通知明細の処理(P470371) 95, 112
- 出荷分析レポート(R40R030) 153
  - 処理オプション 154
- 出荷明細
  - 改訂 63
- 出荷レポート 12
- 需要規則 38
  - 設定 39
  - 理解 33
- 需要規則(F40R20) 35, 73
- 需要規則および管理 7
- 需要規則の設定 38
- 需要規則プログラム(P40R20)
  - 処理オプション 38
- 需要計算規則 86
- 需要梱包 65
  - 理解 33
- 需要梱包(F40R13) 34
- 需要梱包情報の改訂 65
- 需要住所(F40R14) 34, 67
- 需要住所および連絡先
  - 理解 34
- 需要住所情報
  - 入力 68
- 需要住所履歴(F40R143) 34
- 需要受注オーダー 11
- 需要詳細
  - 理解 33
- 需要詳細(F40R11) 34
- 需要詳細情報 20
  - 追加 62
- 需要詳細テーブル(F40R11) 66
- 需要詳細レコード 60
  - 改訂 60
- 需要詳細レコードの処理 60
- 需要正味差異の設定 37
- 需要正味差異ワークフローUBEの開始(R40R110) 45
- “需要正味差異ワークフローUBEの開始”(R40R1110)の実行 45
- 需要スケジュールの作成(R40R010) 83, 89
- 需要スケジュールの作成(R40R010)の実行 89
- 需要タイプに対するEDIコードの相互参照 42
- 需要調整 12
- 需要展開 9, 91
  - 理解 91
- 需要展開テンプレート
  - 作成 92
  - 理解 92
- 需要展開テンプレートの作成 92
- 需要の調整 12
- 需要の展開 9
- 需要非活動分析
  - 理解 34
- 需要非活動分析レポート(R40R1020) 155
  - 処理オプション 155
- 需要分析レポート 15
- 需要見出し
  - 理解 33
- 需要見出し(F40R10) 34
- 需要見出しレコード 55
  - 作成 58
- 需要見出しレコードの手動作成 55
- 需要履歴
  - 除去 71
  - 理解 34
- 需要履歴(F40R41) 34
- 需要履歴テーブル(F40R41) 70
- 需要履歴レコード 70
  - 確認 70
  - 除去 71
- 需要履歴レコードの確認 70
- 需要履歴レコードの除去 71
- 需要レコード 8, 55
  - 理解 33

需要レコード概要 55  
 需要レコードの概要 55  
 需要レコードの住所および連絡先情報  
 の入力 67  
 需要レコードの処理 55  
 需要レコードの優先情報 33  
 需要レコードの連絡先情報 67  
 需要連絡先情報  
 入力 69  
 需要連絡先電話番号(F40R142) 34  
 需要連絡先電話番号情報  
 入力 69  
 需要連絡先名(F40R141) 34  
 需要ワークフロー・テーブル(F40R22) 44  
 詳細レコード 60  
 正味差異 37

## せ

請求書作成 12  
 制御情報  
 改訂 110  
 製品CUMモデル 45  
 設定 47  
 製品CUMモデル(F40R23) 35, 73  
 製品ガイド  
 注文 xiv  
 製品累計モデルの設定 45  
 前回出荷と前回入荷に関する値 22  
 前回出荷と前回入荷に関する値の改  
 訂 22  
 前提知識 xiii

## そ

相互参照 xvii  
 送信出荷EDIの除去(R47039) 137  
 送信データの更新(R47037) 98  
 その他のASN情報  
 改訂 128  
 その他の情報  
 改訂 23

## ち

注意 xvii  
 注意事項 xvii  
 超過数量と不足数量 78  
 超過数量と不足数量の計算 78  
 超過/不足計算 10

## つ

追加ドキュメンテーション xiv  
 追加のASN品目明細情報  
 改訂 119  
 通知 12

## て

デクリメントCUM 10  
 データ・インターフェイス  
 品目相互参照の設定 51  
 データ抽出を行う仕入先標準時間帯  
 理解 100  
 データ抽出を行う仕入先標準時間帯の  
 指定 100  
 テーブル  
 F3470(需要展開テンプレート) 91

## と

統合  
 JD Edwards EnterpriseOne内示調整  
 管理とJD Edwards EnterpriseOneシ  
 ステム 3  
 導入手順  
 概要 4  
 グローバル 4  
 内示調整管理 5  
 ドキュメンテーション  
 関連 xiv  
 最新版 xiv  
 ダウンロード xiv  
 ドキュメンテーションのダウンロード xiv

## な

内示調整管理  
 EDI需要(受信)の編集/更新  
 (R47171) 28  
 確定需要 83  
 確定需要の概要 11  
 計画需要 8  
 顧客別予測消化 9  
 時間枠 84  
 受注オーダーの概要 11  
 出荷および計画スケジュール 10  
 需要詳細の改訂 20  
 需要レコード 8  
 詳細情報の改訂 24  
 補足データベース情報の入力 69  
 優先情報 35  
 予測 9

- ラベル 66
  - 累計情報 73
  - 累計処理 9
  - レポート 151
  - ワークフロー 44
  - 内示調整管理受注オーダー理解 88
  - 内示調整管理受注オーダーの作成 88
  - 内示調整管理詳細情報改訂 26
  - 内示調整管理について 7
  - 内示調整管理入金 15
  - 内示調整管理の概要 7
  - 内示調整管理の導入製品別手順 5
  - 内示調整管理の標準ワークフロー 149
  - 内示調整管理の補足データベース情報の設定 69
  - 内示調整管理の有効化 38
  - 内示調整管理の優先情報の設定 35
  - 内示調整管理の累計情報の処理 73
  - 内示調整管理船荷証券レポート (R49118) 155
  - 内示調整管理ワークフローの設定 44
- ひ
- ビジネス・プロセス
    - 内示調整管理 1
  - 日付/時刻間隔
    - ASN 135
  - 表記規則 xvi
  - 標準梱包 10, 84
  - 標準梱包計算
    - 理解 84
  - 標準梱包の計算 84
  - 標準梱包(優先タイプ32) 35
  - 品目出荷情報
    - 入力 21
    - 品目出荷情報の入力 21
    - 品目相互参照(設定) 51
    - 品目相互参照の設定 51
- ふ
- 船荷証券の印刷レポート(R49118)
    - 処理オプション 156
  - プログラムとID
    - P3470(需要展開の処理) 91, 92
    - P40R12 74
    - P40R42 77
    - P47036 95, 105
    - P470371 112
    - P4720 95, 100
    - P47HL 95
    - R3482(MRP/MPS所要量計画) 9
    - R40R010 83, 89
    - R40R110 45
    - R42800 15
    - R47032 96
    - R47032C 137
    - R47035 95, 136
    - R470361 95, 135
    - R47037 98
    - R47039 95, 137
    - R47171 28
    - R47188 148
    - R47191 95, 135
    - WP470371 95
- プロセス・フロー
- 内示調整管理 1
- ほ
- 補足需要
    - 理解 34
  - 補足データ 69
    - 改訂 27
  - 補足データ(F00092) 70
  - 補足データベース・データ・タイプ (F00091) 70
- み
- 見出しレコード 55
    - 作成 18
- め
- メッセージ通知(優先タイプ35) 35
- や
- 約束コード(優先タイプ29) 35
- ゆ
- 優先情報 35, 139
    - 概要 10
- よ
- 曜日アンカー 86
  - 曜日発生規則 86
  - 予測 9
  - 予測計画日付 86

例 87  
 予測計画日付の計算 86  
 例 87  
 予測日付 10  
 予測日付(優先タイプ28) 35

## ら

ラベル 66  
 ラベル情報 61  
 ラベル情報の送信 66  
 ラベル処理 12  
 ラベル処理(優先タイプ37) 35  
 ラベル・シリアル番号(優先タイプ38) 35

## り

理解 33

## る

累計情報 23  
 改訂 75  
 累計情報の改訂 23  
 累計処理 9, 73  
 CUM履歴(P40R42) 77  
 CUMロールバック 80  
 カートンCUMモデル 48  
 需要正味差異ワークフローUBEの開  
 始(R40R1110) 45  
 製品CUMモデル 45  
 超過数量と不足数量 78  
 累計レコードの処理 74  
 累計数量(F40R12) 35, 73  
 累計数量のトラッキング 45, 48  
 累計数量履歴(F40R42) 35, 73  
 累計履歴  
 理解 77  
 レコードの確認 77  
 累計履歴の確認 77  
 累計レコード  
 見出し情報の入力 74  
 理解 74  
 累計レコードの処理 74

## れ

レポート 12, 15  
 需要スケジュールの作成  
 (R40R010) 83, 89  
 連絡先情報 xviii  
 連絡先番号 28  
 連絡先番号情報の改訂 28

連絡先名  
 EDI需要レコードの改訂 28

## わ

ワークフロー 44  
 受信ラッパー 149

